

松山市埋蔵文化財調査年報 IV

1992

財松山市生涯学習振興財團

埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 IV

1992

財松山市生涯学習振興財团

埋蔵文化財センター



祝谷アイリ遺跡出土 分銅形土製品



朝美澤遺跡 2次調査地 完掘状況



辻町遺跡 遺物出土状況



樟味高木遺跡 2 次調査地 A 地区 SB 1 無頸壺出土状況



同遺跡 A 地区 1 号塚土師皿出土状況



小坂八斗蔽遺跡 完繙狀況



平井谷 1号墳 掘出状況



かいなご3号墳 出土「藏骨器」



東山古墳群4次調査地 出土須恵器

序

昭和60年度から刊行を続けております「松山市埋蔵文化財調査年報」も巻を重ね、今ではや第4集ということになりました。本書には、平成3年中の松山市域における発掘調査のほか、松山市埋蔵文化財センター・考古館が平成3年中に実施いたしました教育普及などの諸活動の概要が収められております。

本年も、民間開発・公共事業等に伴う大・小の規模の発掘調査が行われ、古くは縄文時代後期から、新しくは近世に至るまで、各時代にわたっての着実な成果を挙げることができました。これもひとえに、関係各位のひとかたならぬご協力と、ご理解のたまものと、厚くお礼申し上げます。

平成元年10月に、松山市立として発足いたしました埋蔵文化財センターも平成3年10月には、財団法人 松山市生涯学習振興財団の一セクションとして、新たにスタートをきり、市民にとってのより身近な埋蔵文化財を目指して、一層の調査体制の充実、啓蒙・普及活動の促進に努力いたしております。今後、なお一層のご理解と、ご指導、ご鞭撻の程を宜しくお願ひ申し上げます。

平成4年8月31日

財団法人 松山市生涯学習振興財団

理事長 田中誠

例　　言

- 本書は、松山市教育委員会、松山市立埋蔵文化財センター及び（財）松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成3年1月～12月に実施した主な発掘調査及び啓蒙普及事業の概要を収録した年報である。
- 確認調査及び本格調査については、本書末尾の一覧表・付図にまとめた。
- 写真は、遺物写真及び一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他の写真を各調査担当者が撮影した。
- 各調査の報告は、調査担当者が執筆することを原則とした。なお、編集及び調整は、田城武志が行った。
- 遺構のうち表示記号で示したものは、奈良国立文化財研究所の用例を参考にした。

S A = 構列、S B = 建物、S D = 溝、S E = 井戸、S K = 土壙、S R = 自然流路、
S X = その他の遺構

- 調査組織は、次のとおりである。

◆〔平成3年1月1日～同年3月31日〕

調査主体／松山市教育委員会 教育長 池田 尚郷

参事 古本 克

教育次長 井上 量公

教育次長 一色 正士

調査総括／松山市教育委員会文化教育課 課長 渡部 忠平

市立埋蔵文化財センター 所長 森脇 将

調査係長 西尾 幸則

調査主任 田城 武志

調査主事 栗田 正芳

◆〔平成3年4月1日～〕

調査主体／松山市教育委員会 教育長 池田 尚郷

参事 古本 克（～5月19日）

参事 池田 秀雄（5月20日～）

教育次長 西森 寛彦

教育次長 一色 正士（～5月19日）

教育次長 渡部 泰輔（5月20日～）

教育次長 日野 正寛（5月20日～）

調査総括／松山市教育委員会文化教育課 課長 渡部 忠平（～5月19日）

課長 岩本 一夫（5月20日～）

市立埋蔵文化財センター 所長 和田祐三郎

次長 田所 延行

調査係長 西尾 幸則
調査主任 山城 武志
調査主事 栗田 正芳

◆調査・刊行主体／

財團法人松山市生涯学習振興財団 理事長 山中 誠一
事務局長 池田 秀雄
事務局次長 鶴井 茂忠
埋蔵文化財センター 所長 和田祐三郎
次長 田所 延行
調査係長 西尾 幸則
調査主任 田城 武志
調査主事 栗田 正芳（文化教育課職員）
調査員 栗田茂敏・梅木謙一・相原浩二・
宮内慎一・高尾和長・河野史知・
山本建一・水本完児・武正良浩・
橋本雄一・相原秀仁・池田 学・
松村 淳・大森一成・小笠原善治・
大西朋子・（前任）真木 潤

7. 整理作業等の協力者は、次のとおりである。（敬称略 五十音順）

岩本 憲／大久保英昭／岡崎政信／越智 隆／加島次郎／鎌田謙二／近藤 茂／志賀夏行／高橋 恒／田丸竜馬／西下英雄／波多野恭久／服部和広／原田英則／宮脇和人／山邊進也／山本 圭／猪森しげ子／大西陽子／岡田美紀／岡根なおみ／岡本邦栄／金子育代／黒田令子／古角優子／白井あさ子／白石望子／新出寿美子／関正子／瀬戸恭子／仙波千秋／仙波ミリ子／高尾久子／多知川富美子／谷口よし子／徳田弘子／西川千秋／萩野ちよみ／兵頭千恵／藤井宏枝／松本美知子／松本美代子／松山桂子／丸山美和／三木和代／水口 あをい／森田晶子／森田利恵／矢野久子／山下満佐子／吉井信枝／好光明日香／渡部英子
(以下略)

8. ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次のとおりである。（敬称略）

工楽普通（奈良国立文化財研究所）／上原真人（同研究所）／三辻利一（奈良教育大学教授）／定森秀夫（財、京都文化博物館）／内田俊秀（京都芸術短期大学助教授）／高橋学（立命館大学助教授）／坂詰秀一（立正大学教授）／龟井明徳（専修大学教授）／山田正興（徳島大学医学部名誉教授）／下條信行（愛媛大学教授）／松原弘宣（同教授）／四宮孝昭（同教授）／平井幸弘（同助教授）／宮本一夫（同助教授）
(以下略)

9. ご指導・ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。

古環境研究所／元興寺文化財研究所／（財）京都市埋蔵文化財研究所／福岡市埋蔵文化財センター／（財）山口県埋蔵文化財センター
(以下略)

総 目 次

卷頭カラー

祝谷アイリ遺跡出土 分銅形土製品	
朝美澤遺跡 2次調査地 完掘状況	
辻町遺跡 遺物出土状況	
柳味高木遺跡 2次調査地 A地区 S B 1 無頭壺出土状況	
柳味高木遺跡 2次調査地 A地区 1号塚土師皿出土状況	
小坂八斗蔽遺跡完掘状況	
平井谷 1号墳検出状況	
かいなご 3号墳出土 藏骨器	
東山古墳群 4次調査地出土 須恵器	
祝谷アイリ遺跡.....	1
図版：(1)造構配置図／(2)S K15最下層出土遺物実測図	
写真：(1)S B 2・S B 5検出状況(南より)／(2)S K15遺物出土状況／	
(3)S B 1カマド内遺物出土状況	
道後桶又遺跡 2次調査地.....	5
図版：(1)基本層位図／(2)造構配置図／(3)出土遺物実測図	
写真：(1)造構検出状況(南より)／(2)第Ⅷ層検出状況(北西より)／(3)南	
壁土層(北より)	
朝美澤遺跡 2次調査地.....	9
図版：(1)基本層位図／(2)造構配置図／(3)出土遺物実測図	
写真：(1)造構検出状況(西より)／(2)1号掘立柱建物跡(西より)／(3)北	
東隅土層(南より)	
辻町遺跡.....	13
図版：(1)基本層位図／(2)S X 1測量図／(3)S X 1出土遺物(土師器)実	
測図／(4)S X 1出土遺物(須恵器)実測図	
写真：(1)S X 1遺物出土状況(北より)／(2)S X 1遺物出土状況(西よ	
り)／(3)S X 1出土遺物	

宮前川三本柳遺跡 19

図版：(1)畦畔・農道状造構と歓列／(2)S E 3 半・断面図／(3)S E 3 平
・断面図／(4)S E 3 ・礫組造構平面図／(5)造物平面・垂直分布
図／(6)出土状況図

写真：(1)S E 3 立面状況／(2)S E 3 矶組造構／(3)歓列及び畦畔状造構
検出状況

古照遺跡 6 次調査地 29

図版：(1)既往の調査位置図／(2)調査区位置図／(3)A B C 区造構配置
図／(4)D E F 区造構配置図／(5)A 区出土遺物実測図／(6)C 区出
土遺物実測図／(7)(8)(9)D 区出土遺物実測図／(10)E 区 1 号墓出土
遺物実測図／(11)E 区出土遺物実測図／(12)F 区出土遺物実測図／
(13)出土遺物実測図／(14)下層調査平・断面図／(15)流木群平面図／
(16)流木群出土遺物実測図／(17)～(21)出土遺物実測図

写真：(1)B 区水田跡(東より)／(2)B 区水田跡足跡検出状況(西より)／
(3)B 区大畦畔(北より)／(4)D 区東半分造構検出状況／(5)D 区西
半分造構検出状況(東より)／(6)F 区歓造構検出状況(北西より)
／(7)終沈区西端黒褐色粘土検出状況(北より)／(8)エアタン区緑
灰色・黒褐色粘土検出状況(北より)／(9)エアタン区北端緑灰色
粘土検出状況(北東より)／(10)初沈区北東隅緑灰色粘土検出状況
(北西より)／(11)エアタン区南流木群検出状況(南より)／(12)エア
タン区工事南壁面緑灰色粘土(北より)

古照ゴウラ遺跡 4 次調査地 49

図版：(1)4 次調査区造構配置図／(2)1 次調査地 1 ・ 2 区造構配置図／
(3)4 次調査区造構配置図／(4)井戸 S E 1 平面図／(5)井戸 S E 2
平面図／(6)灌漑施設平面図／(7)土器溜り造構平・断面図／(8)土
器溜り出土遺物実測図／(9)据立柱建物跡柱穴出土土師器実測図／
(10)包含層出土須恵器実測図／(11)D 10 区出土花瓣形石製碗実測図

写真：(1)調査前風景(南より)／(2)据立柱建物群(西より)／(3)造構検出
状況(北東より)／(4)井戸 S E 1 検出状況(西より)／(5)井戸 S E
2 検出状況(南より)／(6)灌漑施設検出状況(東より)

樽味高木遺跡 2 次調査地 55

図版：(1)全測図／(2)基本層位図／(3)A区遺構配置図／(4)(5)A区 S B 1
出土遺物実測図／(6)A区 S B 2 出土遺物実測図／(7)～(10)A区第
IV層出土遺物実測図／(11)第IV層出土遺物実測図／(12)1号塚平・
断面図／(13)2号塚平・断面図／(14)(15)1号塚出土遺物実測図／
(16)(17)2号塚出土遺物実測図／(18)B区遺構配置図／(19)B区 S P119
出土遺物実測図／(20)B区第IV層出土遺物実測図／(21)B区 S B 1
出土遺物実測図／(22)B区出土遺物実測図

写真：(1)A区遺構全景(東より)／(2)B区遺構全景(西より)／(3)A区 1
号塚検出状況(東より)／(4)A区 2号塚検出状況(西より)／(5)A
区 S B 1 出土遺物／(6)A区 S B 2 出土遺物／(7)A区第IV層(包
含層)出土遺物／(8)A区 1号塚出土遺物(28～32, 37～39, 41～
43)・A区 2号塚出土遺物(58)／(9)B区出土遺物〔第IV層(包
含層)(58・59), S B 2 (50), S K 1 (51), 排土(62・63)〕

小坂八斗藪遺跡 73

図版：(1)遺構配置図／(2)出土遺物実測図 (①S X 18・21, ②S X 1・
21, ③S X 1, ④⑤S D 22出土)

写真：(1)遺構検出状況／(2)遺構完掘状況／(3)S X 1 遺物出土状況

西天山遺跡 2 次調査地 77

図版：(1)基本層位図／(2)遺構配置図／(3)包含層出土遺物実測図

写真：(1)調査地全景(北より)／(2)S X 8 完掘状況(南より)

かいなご 3号墳 81

図版：(1)四国電力鉄塔新設ルート図及び調査位置図／(2)遺構配置図／
(3)出土遺物実測図

写真：(1)遺構検出状況(南より)／(2)周溝・主体部検出状況(南より)／
(3)周溝内遺物出土状況(南より)／(4)周溝内出土遺物／(5)藏骨器

平井谷 1号墳 87

図版：(1)地形測量全測図(完掘状況)／(2)1号墳横穴式石室測量図／(3)
主体部出土遺物実測図

写真：(1)1号墳主体部(南より)／(2)1号墳主体部遺物出土状況／(3)主

体部出土遺物

東山古墳群 4 次調査地 93

図版：(1)全測量構配図／(2)(3)出土遺物実測図

写真：(1) 9 号墳完掘状況／(2)周溝内遺物出土状況／(3)出土遺物

久米高畠遺跡21次調査地 99

図版：(1)久米高畠遺跡11次・21次調査位置図／(2)造構配置図／(3)SK

1 平・断面図／(4)SK 2 平・断面図／(5)SK 3 平・断面図／(6)

S B 1 平・断面図／(7)出土遺物実測図

写真：(1)調査区全景(東より)／(2)調査区全景(西より)／(3)SK 3 検出

状況(北より)／(4)SK 5 検出状況／(5)出土遺物

米住庵寺15次調査地 107

図版：(1)回廊状造構と米住庵寺位置図／(2)3 区下段基本層位図／(3)区

画割付図／(4)造構配置図／(5)出土遺物実測図

写真：(1)調査区全景／(2)1 区下段土器溜り遺物出土状況／(3)3 区下段

瓦出土状況／(4)3 区下段遺物出土状況／(5)3 区下段出土遺物

付 編 松山市埋蔵文化財発掘調査関係資料

平成 2 年度確認調査一覧／平成 3 年度確認調査一覧／平成 2 ・ 3 年度

本格調査一覧／平成 3 年本格調査位置図

啓蒙普及事業 116

展示活動／教育普及活動／広報・出版活動／松山市考古館月別入館者

数調べ

祝谷アイリ遺跡

所在地 祝谷6丁目1277番地
期間 平成2年11月13日～
同3年3月29日
面積 対象面積 3,742m²
実施面積 1,400m²
担当 梅木・武正



経過 本調査は、山田池（祝谷）遺物包含地内における福祉施設建設に伴う事前調査である。平成2年7月に試掘調査を実施した。調査の結果、遺物包含層、土壙2基を確認した。

調査地の位置する松山市祝谷地区は、高繩山地に源を発した永谷川の両岸の丘陵部と、やがて丸山川と合流し、平野部に流れ出る付近に形成した小規模な扇状地に分けられる。本調査区は、永谷川左岸の標高68～71mの緩斜面上に立地している。周囲には、祝谷六丁目遺跡（南海産貝輪出土）、祝谷六丁場遺跡（平形銅劍出土）、丸山遺跡等、松山平野でも有数の弥生時代の遺跡がある。

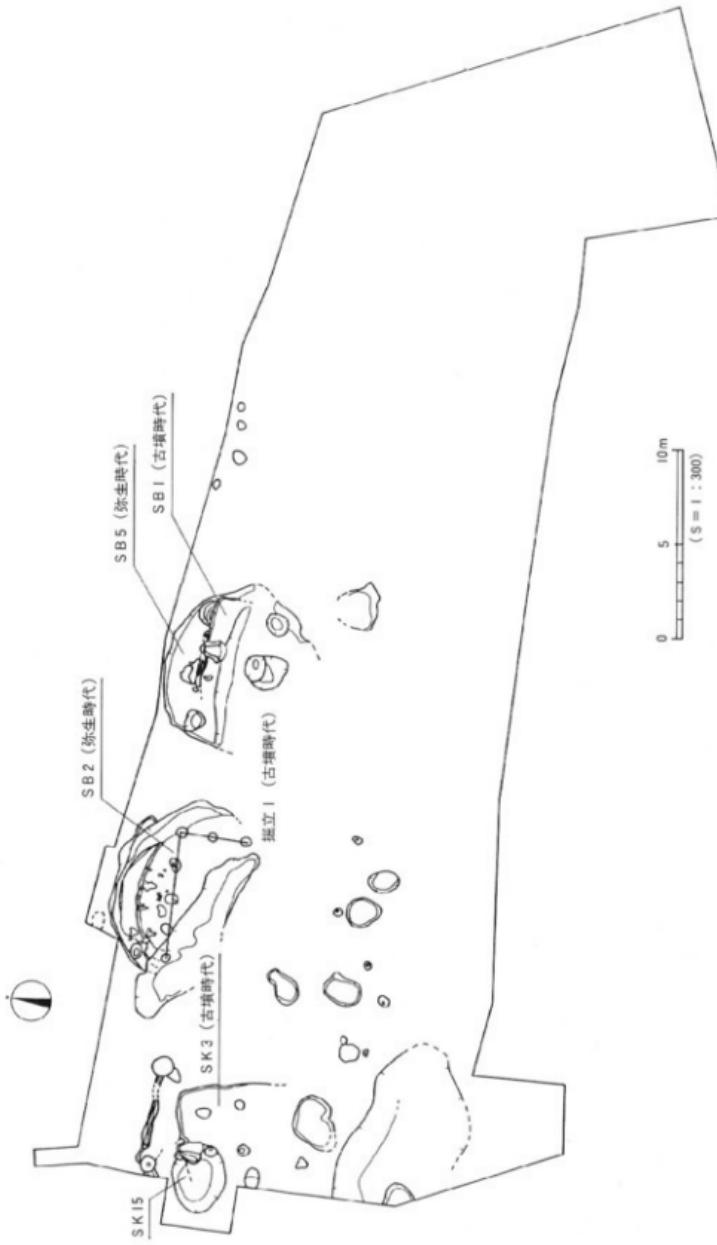
遺構・遺物 本調査では、弥生土器（後期）、土師器・須恵器を含む遺物包含層を確認した。遺物包含層は近現代の耕作により削平されており、遺存状況は良好でない。また、遺物の包含量は少なく、かつ小片であった。

検出遺構は（岡版1）、堅穴式住居址4棟（弥生2、古墳2）、掘立柱建物址1棟（古墳）、土壙14基、溝1条、ピット27基である。このうち、弥生時代中期のSB5からは、土器と共に、男茎状石製品（県内初例）1点が出土している。また、弥生時代後期のSK15からは、弥生時代後期の完形土器が多数出土した。これらは、一括資料として扱え、各種土器のセット関係を掴む上で貴重な資料となるものである。また、古墳時代後期のSB1は、付設の竈をもつ住居址であった。竈の中からは支脚に使用したとみられる高環形土器が出土した。

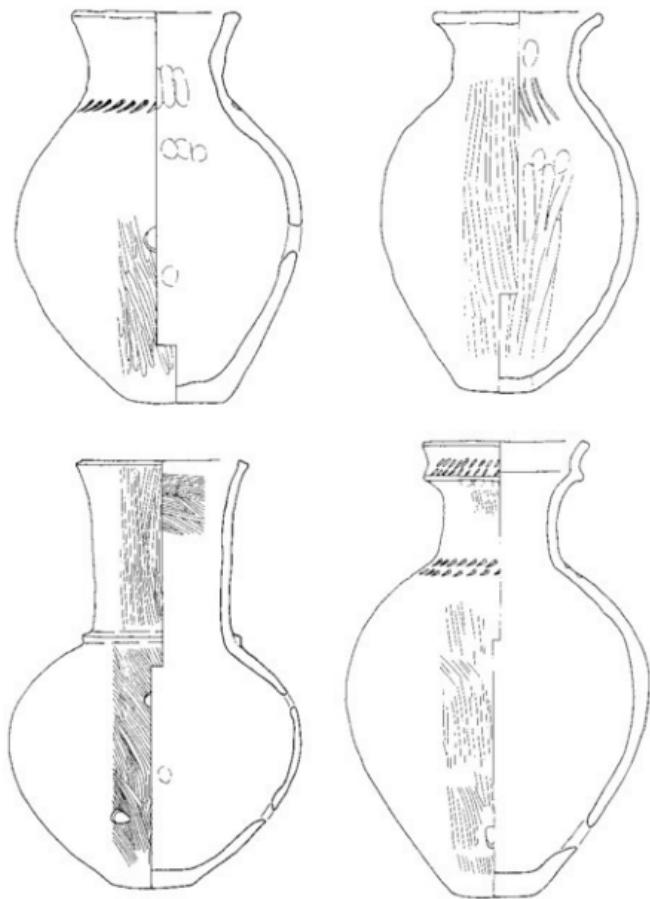
小結 本調査では、弥生中期～中世の遺物・遺構を確認した。これまで、松山平野の特に丘陵緩斜面では、弥生時代、古墳時代の生活関連遺構の検出例は希少だっただけに、本調査資料は、これを補充・充実させる資料となり、評価されるものであろう。この他、調査面積が約1,400m²であったが、弥生中期～古墳時代後期の間の集落様相が一部ではあるが明らかにされたことは、今後の周辺地の調査に大きく影響するものとなるであろう。

なお、本調査の詳細は報告書にて行うものとする。

（文献）梅木謙一 1992 「祝谷アイリ遺跡」 香川県立埋蔵文化財センター



圖版 1 游標配置圖



0 10 20cm
(S = 1 : 4)

图版2 SK15 最下层出土遗物实测图



写真1 SB2・SB5検出
状況（南より）

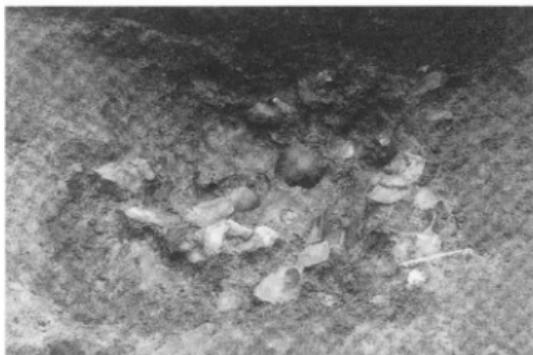


写真2 SK15遺物出土状
況

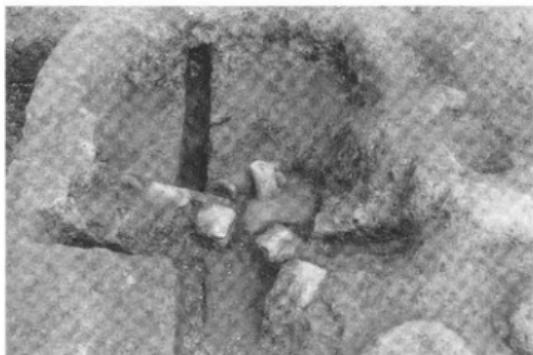


写真3 SB1 カマド内遺
物出土状況

道後樋又遺跡2次調査地

所在地 道後樋又1219-8
 期間 平成3年1月16日～
 同年2月28日
 面積 対象面積 602m²
 実施面積 202m²
 責当 梅木・宮内



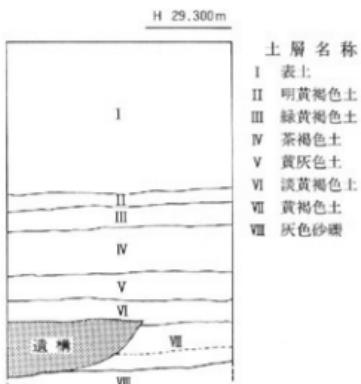
経過 本調査は、樋又遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は道後城北地区の東寄りの標高29.3m上に立地する。同包含地内では、これまで縄文時代後・晩期～古墳時代までの集落関連遺構が確認されており、弥生時代においては松山平野の主要な集落地帯として存在していたことが近年の調査で明らかになっている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は(図版1)、第I層表土、第II層明黄褐色土、第III層緑黄褐色土、第IV層茶褐色土(古墳～中世)、第V層黄灰色土(古墳～古代)、第VI層淡黄褐色土(弥生～古墳)、第VII層黄褐色土(縄文)、第VIII層灰色砂礫である。第VIII層は下層部が上層部に較べやや砂質である。第VIII層は旧石手川系の砂礫層である。遺構は主に、第V・VI層中及び第VII層上面での検出であり、土壤状遺構4基、溝状遺構6条、自然流路5条、柱穴7基他である。第V・VI層中及び上面検出の遺構は主に古墳～中世、第VIII層上面検出の遺構は縄文晩期～弥生時代のものである。遺物は第IV～VII層中及び遺構内からの出土であり、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器等である。

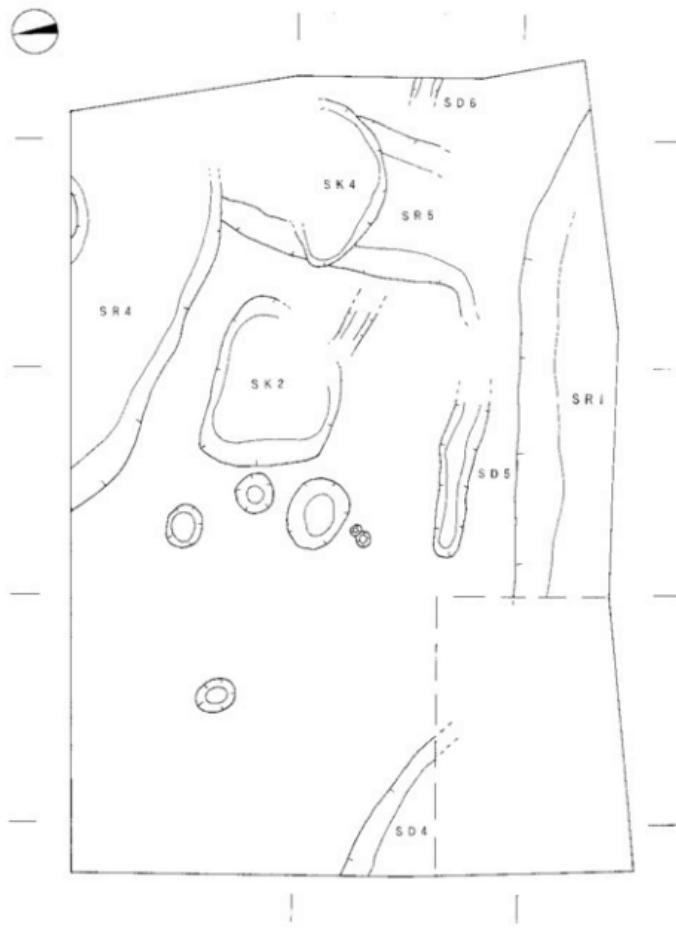
小結 本調査において流路が多数検出された。これは調査地付近が舌状台地から谷部へ落ちる場所にあたっていることから、自然流路が流れやすい地形環境であったためであろうと考えられる。また、弥生時代の遺構面である黄褐色土は、その粘性の違いにより2層に分層できた。これは文京遺跡等でみられる状況と同様である。しかしながら、層位的に時期区分するまでには至らなかった。

【文献】梅木謙一・宮内慎一 1992

『道後城北遺跡群』 鹿児島市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター



図版1 基本層位図 (S=%)

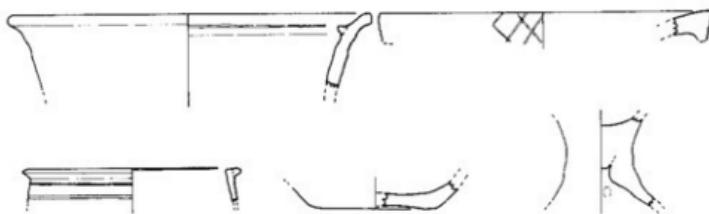


0 5 m
(S = 1 : 100)

図版2 造構配置図



SR 2 出土遺物

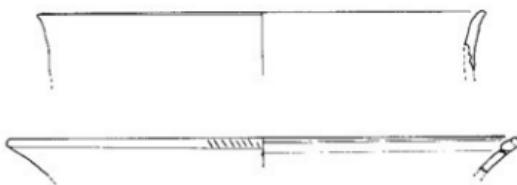


SR 4 出土遺物

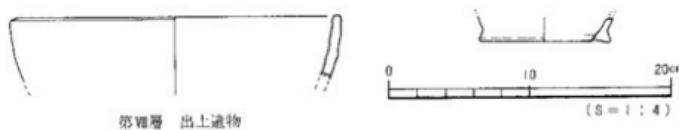


SK 2 出土遺物

SR 5 出土遺物



SD 4 出土遺物



第四層 出土遺物

(S = 1 : 4)

圖版3 出土遺物實測圖



写真1 遺構検出状況
(南より)



写真2 第7層検出状況
(北西より)

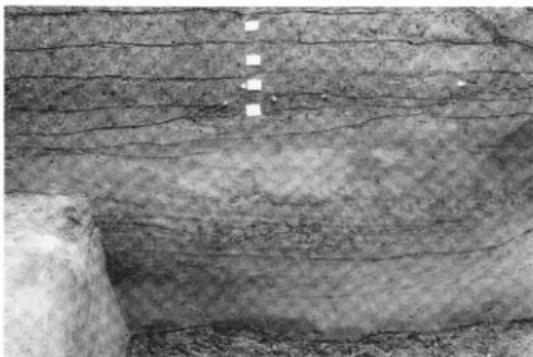


写真3 南壁土層
(北より)

朝美澤遺跡2次調査地

所在地 朝美2丁目1144-1 他7筆
 期間 平成3年3月18日～
 同年4月30日
 面積 対象面積 1,299m²
 実施面積 304m²
 担当 梅木・宮内

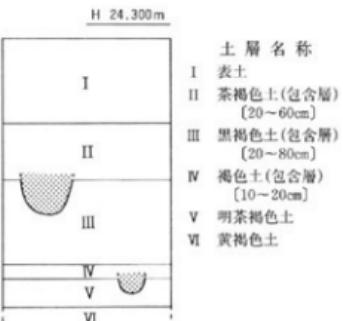


経過 本調査は、朝美遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は松山平野西部、大峰ヶ台丘陵の東裾部の標高24.3m上に立地する。同丘陵では、山頂部において弥生時代中期中葉の集落址を検出している大峰ヶ台遺跡や、朝日谷古墳・客谷古墳群をはじめ数多くの古墳が確認されている。丘陵裾部では弥生時代後期後葉の遺物が集中して出土した辻遺跡や、弥生時代後期の壺棺墓及び中世の掘立柱建物址を検出している澤遺跡などがある。また、調査地南方には古墳時代の大規模な灌漑施設として知られる古照遺跡などがある。

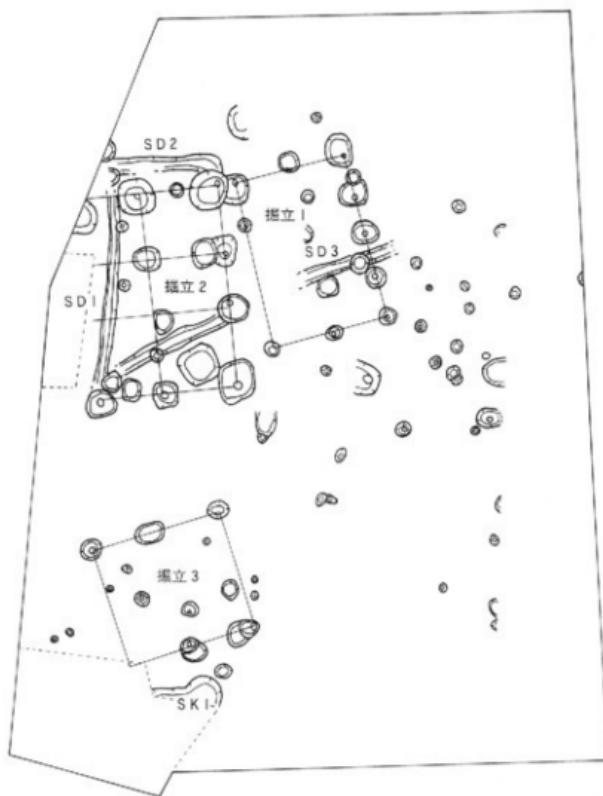
造構・遺物 調査地の基本層位は(図版1)、第I層表土、第II層茶褐色土(古墳～中世)、第III層黒褐色土(弥生～古墳)、第IV層褐色土(弥生)であり、第V・第VI層は無遺物層である。造構は主に、第III層及び第V層上面での検出であり、掘立柱建物址3棟、土塙1基、溝状造構3条、柱穴91基(掘立柱建物柱穴含む)他である。掘立柱建物址については柱穴出土の遺物が8世紀後半の須恵器環蓋片であることから、建物の上限はこの時期におくことができる。遺物は包含層及び造構内からの出土であり、弥生土器・土師器・須恵器・瓦・紡錘車・石器(石庖丁・石斧・凹石)他である。

小結 本調査では、第III層包含層下層部より弥生時代前期前半の遺物資料が数多く得られた。これは、松山平野の弥生時代前期における土器編年を考えるうえでの好資料となるものである。

文献 梅木謙一・宮内慎一 1992
 「朝美澤遺跡・辻町遺跡」 鳴門市生涯
 学習振興財团埋蔵文化財センター

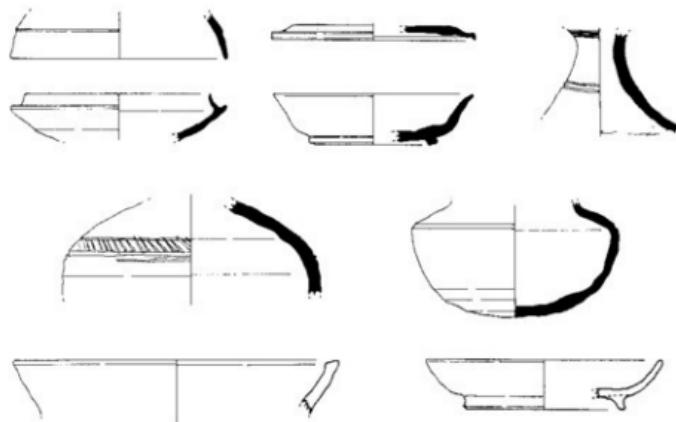


図版1 基本層位図 (S=3%)

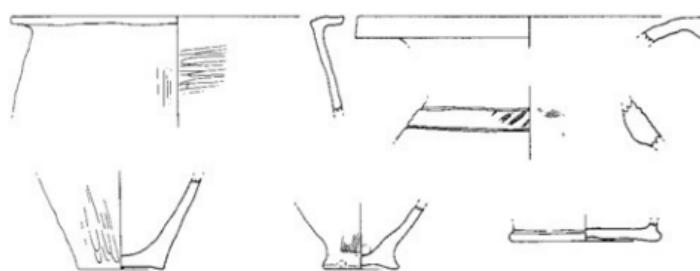


0 5 10m
(S = 1 : 150)

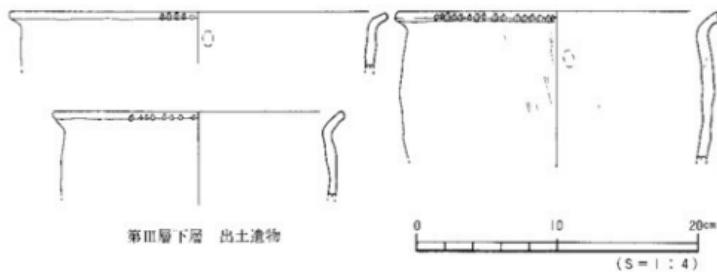
図版2 遺構配置図



第二層 出土遺物



第三層上層 出土遺物



圖版3 出土遺物實測圖



写真1 造構検出状況
(西より)

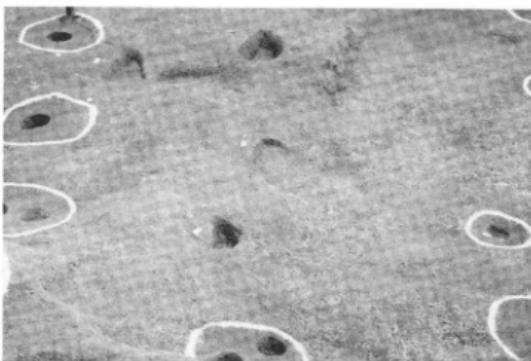


写真2 1号掘立柱建
物跡(西より)

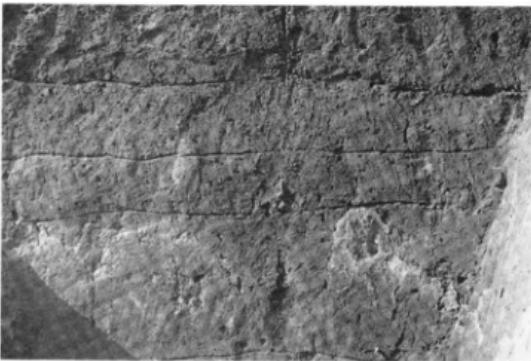


写真3 北東隅土層
(南より)

辻町遺跡

所在地 辻町39-1
期間 平成3年4月16日～
同年6月15日
面積 対象面積 655m²
実施面積 247m²
担当 梅木・真木



経過 本調査は、朝美遺物包含地における宅地開発に伴う事前調査である。平成2年7月に試掘調査を実施した。調査の結果、青磁、白磁、須恵器、土師器、弥生式土器の出土を確認した。

本調査区は、松山の平野部西部の標高14.8mに立地する。調査地周辺には、朝日谷古墳、客谷古墳などの古墳群や大峰ヶ台遺跡、辻遺跡などの集落址が確認された大峰ヶ台丘陵がある。また、一級河川石手川を源流とし、松山平野を東西に流れる宮前川が北西300mに位置している。

平成3年4月16日より重機による表土剥ぎ取り作業を開始し、同年4月19日から発掘作業を開始した。試掘調査の結果から調査区は安定した土壤堆積であり、各層から出土した遺物には時期差が見られる。よって調査は各層ごとに実施した。

遺構・遺物 基本層序は図版1である。本調査において遺構検出面は4面であった。検出遺構は第V層上面で柱穴15基・不明遺構4基、第VII層上面で溝状遺構1条(布掘状)・柱穴3基、第VII層中(上面より約20cm下面)で柱穴6基、第IX層上面で柱穴14基を確認した。

遺物の出土は、第V層より12世紀後半の青磁・白磁・瓦器・土師器、第VII層より5世紀末～6世紀前葉の土師器・須恵器、第VII層より5世紀末～6世紀前葉の土師器・須恵器、第IX層より杭もしくは柱と思われる木材が出土した。また、第VII層中の遺構検出面からは、約3m×3mの範囲において土師器・須恵器の一群及び白玉を検出した。(以下、この土器群をSX-1とする) SX-1は、人為的掘り方は検出されなかった。SX-1出土土器は図版3・図版4・写真3、遺物出土状況は図版2・写真1・写真2である。

小結 本調査では、4面の遺構面を検出し、5世紀末～6世紀前葉の土師器・須恵器、12世紀末の磁器等が出土した。各面より検出した遺構は、何基かの並びを見せるものの、住居址等の建造物を想定するまでの検出には至らなかった。注目される出土遺物としてはSX-1の一括遺物があげられる。SX-1出土遺物はほぼ完形で、破片の散らばりは殆どなく、その出土状況からは遺物の配列らしきものがうかがえ、意図的におかれたものと考えられる。

出土遺物は高坪が多量にあり、白玉が19点出土していることから、SX-1出土遺物は何らかの祭祀に伴う用具である可能性が高いと考えられる。また、土師器が須恵器と併せて出土したことによって、5世紀末～6世紀前葉における松山平野の上器編年を考えるうえでの重要な資料となり得るものであろう。

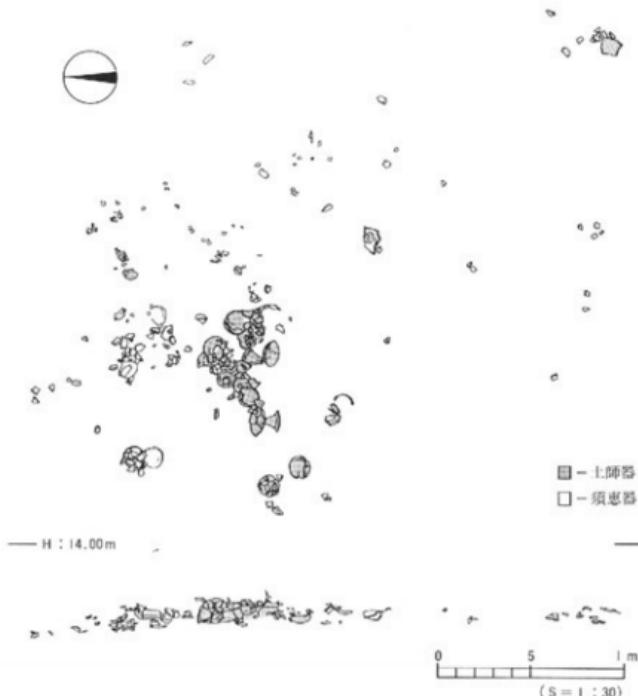
【文献】梅木謙一・宮内慎一 1992

『朝美澤遺跡・辻町遺跡』 財松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

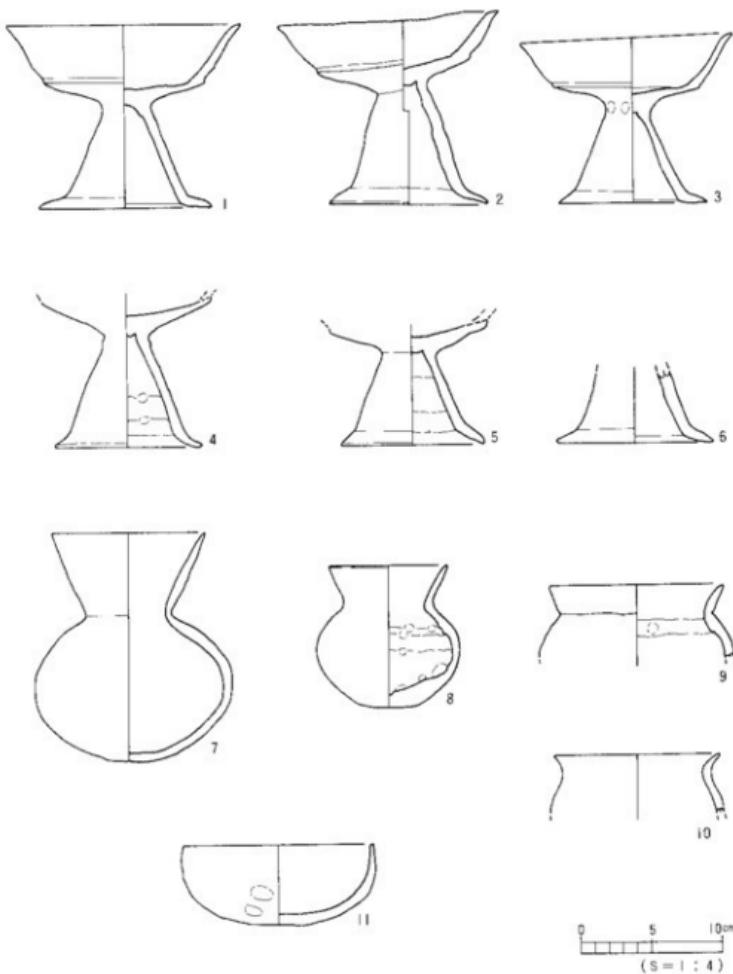
— H : 15.00m



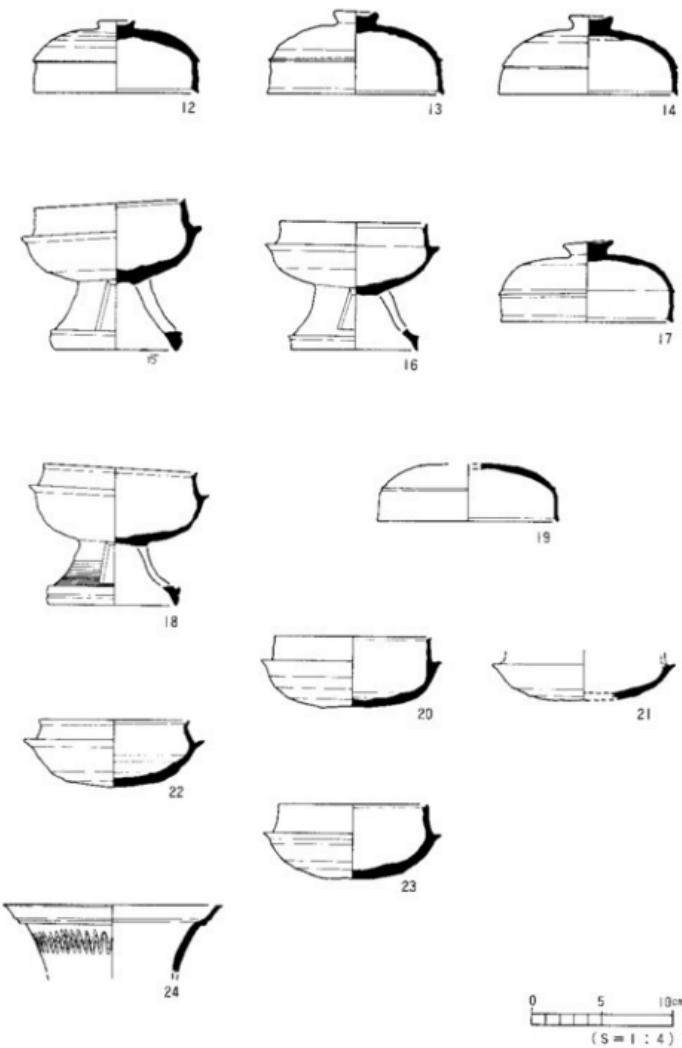
図版1 基本層位図 (S = 1:6)



図版2 SX-1測量図



図版3 SX1出土遺物(土器)実測図



図版4 SX1出土遺物(須恵器)実測図

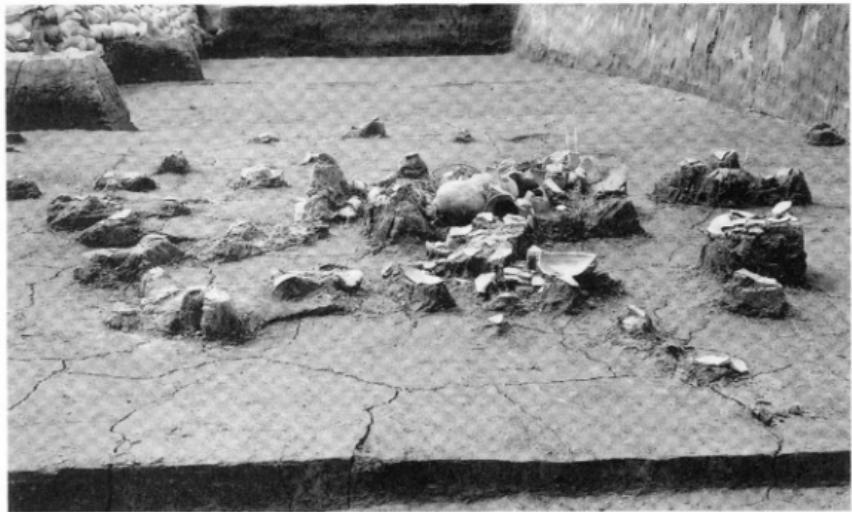


写真1 SX1遺物出土状況（北より）

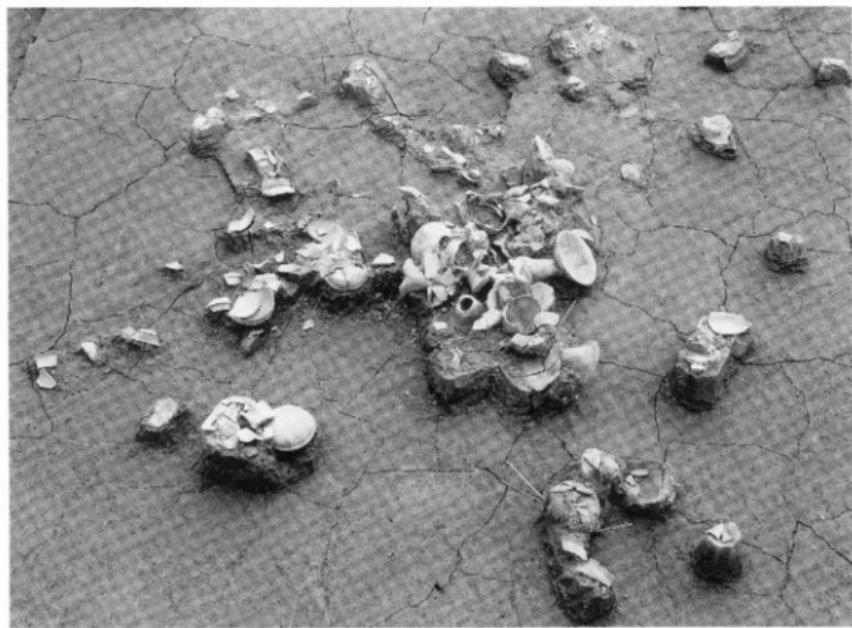


写真2 SX1遺物出土状況（西より）

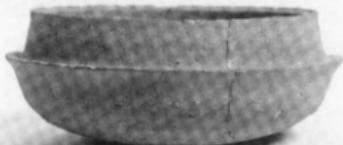
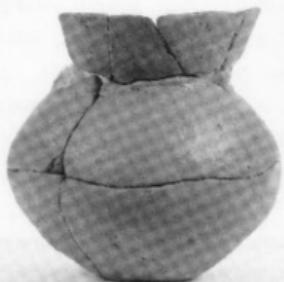
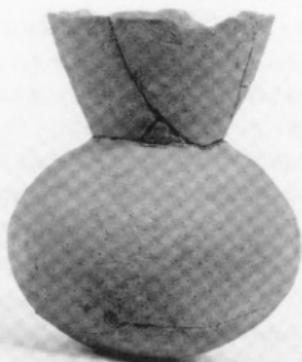


写真3 SX1出土遺物
- 18 -

宮前川三本柳遺跡

所在地 山西町833番地 他14筆
期間 平成2年12月1日～
同3年3月31日
面積 対象面積 12,217m²
実施面積 2,000m²
担当 重松・小笠原・水本



経過 本調査は、社会福祉法人恩賜財團済生会病院の新病棟建設に伴う事前発掘調査である。

本遺跡は、松山平野を流れる宮前川の最下流域に位置し標高2.30mを計る。現在の宮前川河口よりおよそ2kmの距離にあり、旧地名を三本柳と呼ぶ。当時の地形からすればは三津浜湾に面する位置にあったものと考えられる。

当地の北方には、斎灘がひらけ海上交通の要衝としての芸予諸島や防予諸島が散在する。また東側には岩子山(116.0m)、御産所(82.2m)、大峰ヶ台(133.3m)、西側には弁天山(129.4m)等の分離独立丘陵が位置し、これらの独立丘陵を抜って南北に細長く宮前川が北流している。当地の地質を外観すれば沖積地形を呈し、後背湿地特有の細砂、粗粒砂、粘性土から構成される事からも、一帯は旧石手川の氾濫源に位置していたものと考えられる。

宮前川の地名にまつわる由来は定かではないが、明治年間の陸地測量部の地図には斎院樋川、三本柳の地名がみられる。また、「温泉郡誌」の味生村誌の「水誌」の項には、「…斎院樋川は、石手の支流にして、松山市を横断させる中の川の下流なり、雄都朝美の両村を経て東朝美の境に於いて大寶寺川の下流江戸川と合し村の中央を還流し、字三本柳にいで古三津村を通過し、三津浜町字深里に至り海に入る」と記されている。

本遺跡の周辺には、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が数多く分布しており、広範囲に渡ってその存在が知られている。

その中でも、中小河川改修工事の際に県財團法人埋蔵文化財センターにより発掘調査が行なわれた宮前川遺跡においては、松山平野の弥生時代終末から古墳時代初頭にかかる重要な遺構・遺物が検出されており、昭和48年に調査された古照遺跡の大規模灌漑施設とともに、宮前川水系を軸とした経済活動を背景とし発展した当地の歴史的解明がなされつつある。また、近年調査された朝日谷2号墳はじめ、弁天山0号墳、福水神社古墳等、従来注目されなかった宮前川流域における弥生時代から古墳時代の首長墓の系譜をはじめ社会的背景についても研究が進みつつあり、本遺跡及び周辺地域は古代松山平野の復元に重要な役割を持つものと考えられる。

本調査は、これらを主目的とし上記の期間本格調査を行った。



図版1 畦畔・農道状造構と歓列

第2文化層は、細分すればブロック状態の上層と比較的粘性を持ち安定する下層に分けることができる。上層は、遺物及び挙大の礫を含し、古墳時代後期以降の所産と想定される。下層は、停滞する流路及び低湿地の様相を持ち若干の遺物を包含する。

第3・4文化層は、相当量の弥生終末期から古墳初頭の遺物を包含する。現段階では、その様相を推定することは困難な状況にあるが、遺物分布から現位置を避離した状況の遺物を検出しているため遺構的な把握をふまえ検討を要したい。

以上、本遺跡の基本的な上層を概観したが、宮前川下流域の土層堆積の状況としては、古墳時代以降比較的安定した土層の堆積状況を呈しており、当地の遺跡立地が、宮前川の流路変更に伴う土砂の堆積状況と大きくかかわり合いながら時間的幅を持って推移したことを類推することができる。また、第4耕作土層の上層より検出された歓列は、層位的には河川の氾濫によるものと思われる薄い白色細砂層に被覆され、同時に検出された大畦畔状造構に伴う農道に対し直角（南東—北西）に走る。歓列はおよそ等間隔に走り、その間隔は約50cm

遺構・遺物 基本層序は、特徴的な南壁面と中央壁面の上層観察結果を参考に、大きく耕作土層と文化層を抽出する。

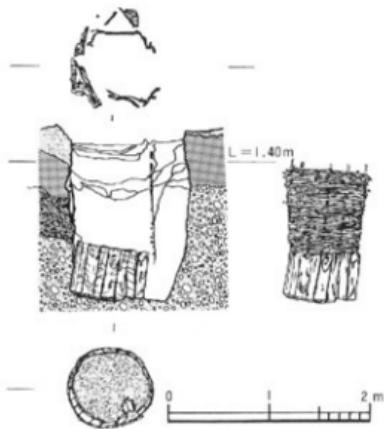
第I層を造成土とし、耕作土層は第II層・第IV層・第V層として大きく3枚確認されており第I耕作土層を除けばすべて床土を持たない水田耕作面が検出されている。各耕作土層間は、細粒及びやや粘性砂層によって分層され、第2耕作土層においては、不整合面によってa・bに分層される。特異な現象としては、第V層上面の細砂層の被覆、状況が、1cm内外の安定層が部分的にブロック状況(3cm~4cm)を呈する箇所を有しており細砂層の被覆が急速にしかも広範囲に渡り行われたことが想定された。平面的には、歓列及び農耕牛の耕作痕跡に細砂が堆積されている。

文化層は、第III層・第IV層~第VII層として3枚確認されており、第4耕作土下層より大きくは2枚の時期の異なる黒色粘性土層と暗灰褐色砂礫及び暗灰褐色砂層が検出されている。

～約70cmであり、歛幅は約10cm～約50cmである。当地の歛列に伴う農耕具は香川県下川津遺跡に出土の例があるようなカラスキ等の單一の鋤先による物とされるが、今後一層の検討が必要である。また、歛状遺構の断面に於いて層位は4層に分けられ、土層断面の観察によると、歛列の掘返しはほとんどの場合第1層（白黄色細砂）から第2層（灰褐色粘質土）中で止まっているが、一部に第3層（暗灰褐色粘質土、砂混じり）まで掘込まれる状況がみられる。その歛断面の形状は、掘込みの底部が平坦な例と左右どちらかに鋭角な掘込みをもつ2例が見られる。また同時に、この歛列に伴うと思われる農耕牛の足跡も検出されており今後の十分な検討を踏まえ、その走行性及び歛列と農耕具の関係等、当時期に於いての農耕技術の解明に寄与するものと思われる。さらに、本遺跡に於いて水田の大畦畔・小畦畔及びそれに伴う農道状遺構を検出している。大畦畔による区画は方形状を呈し、その規模は畦畔幅約2.5mを有し、1辺は25m前後、1区画の推定面積は約625m²を測り、その方位は真北に対しやや西に振れている。

当地に於いての条里区画はまだ未解明の状況にあるが、他地域に於いては水田畦畔・農道・水路の方位及び区画の規模等から条里区画を推定し、実積を上げていることからも、当調査地に於いての水田畦畔の区画検出は、今後の条里研究の十分な資料となりうると思われる。

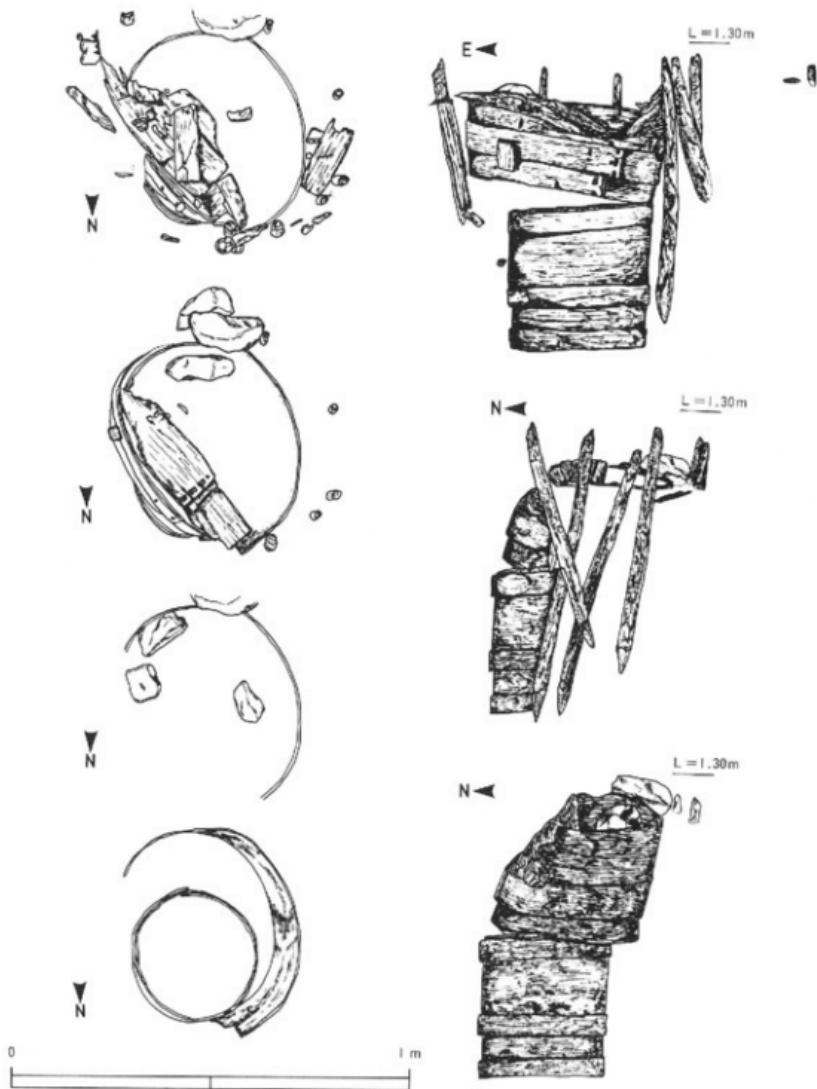
次に大区画の内部を区切る小畦畔は、高さ10cm前後で幅30cm程度の土を盛り上げた簡易な小畦畔で、大区画の形状により規制を受けるものの比較的一時的なもので、常に灌水及び水田経営の状況によって変動されたと想定される。その為、当遺跡でも検出は難く不安定な遺存状態で、一部方形区画の側縁が検出されたのみであった。今後、小畦畔の規模等について水田底面の高低差等や今後の当地周辺の調査資料も含め検討される事により明らかされる



図版2 SE2平・断面図

と考えている。その他、水田区画内のレベリングを検討した結果、現調査面の高低は東高西低を呈する事を確認。これにより灌水のあり方は東を上流、西を下流とすれば当大区画の水田に於ける灌水の水口は南東付近に、出口は北西付近に設置された可能性が高く、南東隅の水路幅の肥大は、増水による氾濫作用によるものと考えられる。

その他の遺構として、耕作上層中に於いて井戸遺構を2基検出した。中でもSE2は径約0.80mの円形で深さ約1.60mを測り、遺構検出面に於いて井戸囲いと思われる少量の板状木片を検



図版3 SE3平・断面図

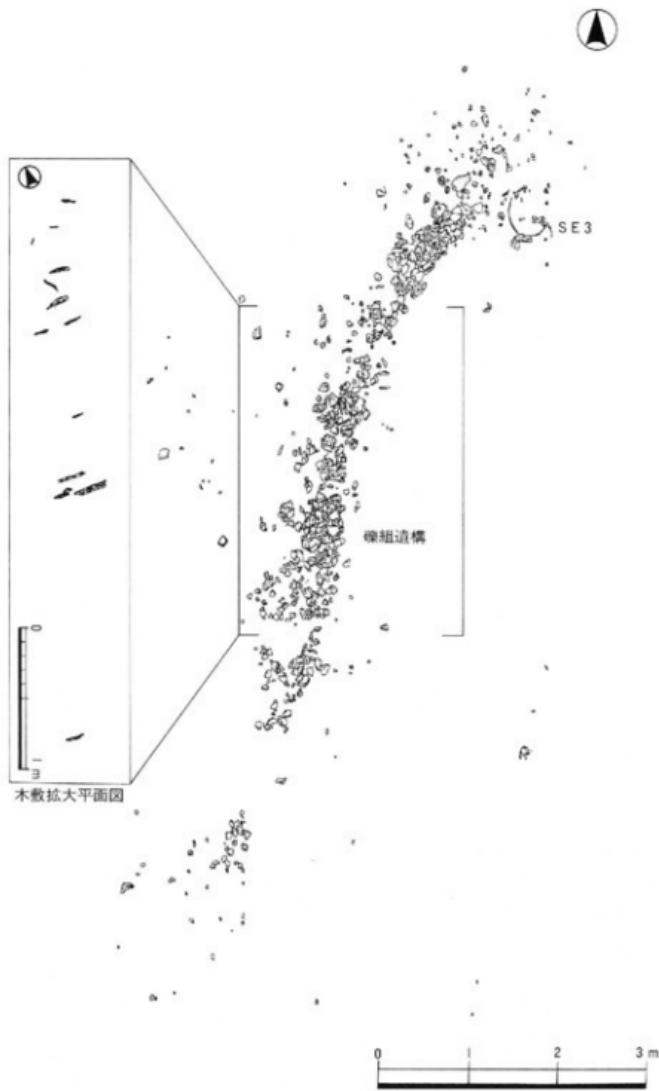
出した。これらの多くは、腐食により殆ど原型をとどめてなかった。井戸遺構の構造は、板状の井戸開口相当部を設置される上部、ついで孟宗竹が籠状に編み込まれる中部と板材(檜)25枚を組み合わせ、周囲に竹材による籠をはめられた桶による下部に分かれる。遺構の遺存状況は良好であったが、底部の標高はほぼ0mに近く、遺跡の立地が河川に近接する事から相当量の湧水があり検出作業は困難であった。

奈良時代の遺構は、西壁上層断面の観察により白色砂層中に上層の青灰色粘質砂層より切り込まれた黒色のビット状の掘込みを4基確認し、また北・西・南壁面に於いても断続した幅約20~30cmの黒色土層を確認するとともに、若干の遺物の出土を見ている。また、北壁・南壁に於いて河川にも似た白色砂層が堆積し、湿地特有の停水状況を呈した自然流路もしくは小河川の可能性を考えられ、ついで特徴的な井戸状遺構(S E 3)の検出を見ている。

S E 3は上下に分かつ曲げ物(桐)で構成され、その規模は上部径約50cm、下部径約40cmの円形で上部深さ約30cm、下部深さ約40cmを測り、周囲には流水に井戸枠を固定化する為と思われる径約4cm、長さ60~70cmの木杭8本が廻り、その中に上下2段による桶が付設される。遺構検出面の上部桶端部は破損しており、北東方向からの水圧を受けた状況で検出されている。また井戸遺構内の底ざらえを行ったが、時期を比定できる資料の出土は見られなかつた。この遺構に關して設営された南北に長い礫組が検出されている。これら礫組の規模は、検出長約13m、幅約60cm~1mを測る。その設営状況は、まず湿地面に基礎として木材を一定間隔に列状に敷き、その上部構造として礫が組まれている。礫組を構成する礫群及び礫群内の土器には一部赤色顔料を塗布した状況で検出されている。井戸遺構構営に伴う礫組遺構は、集落と井戸とを結ぶ通路としての性格が窮え、貴重な生活水の確保に際し当時の集落と井戸との関係を表す重要な遺構と考えられる。

現在までに県内に於いて、こうした奈良期の井戸遺構についての検出例は、比較的少なく米住台地周辺及び上野丘陵等において、この時期素堀の井戸が報告されているのみである。また南江戸周辺地域に於いては、当遺跡同様の曲げ物を使用した井戸が検出されているが時間的問題を有している物が多く、当該時期の井戸としては、遺存状態は良好な状況で検出された。通常、曲げ物を使用した井戸枠の一般的な隆盛時期は、中世集落址に伴い検出される物が多く、12世紀から14世紀前半時期に集中されている。しかしながら、今回の井戸遺構は、同時廃棄された一括土器群からそれら隆盛時期に先立ち造営されたものと考えられ、井戸施設に伴う礫組列も含め貴重な遺構の検出がなされたものと言える。また他地域に於いては、東大阪市弥刀遺跡(10世紀中葉)検出の曲げ物井戸に類例を見る事ができ曲げ物技術導入時期もふまえ十分な検討を要していると言えよう。

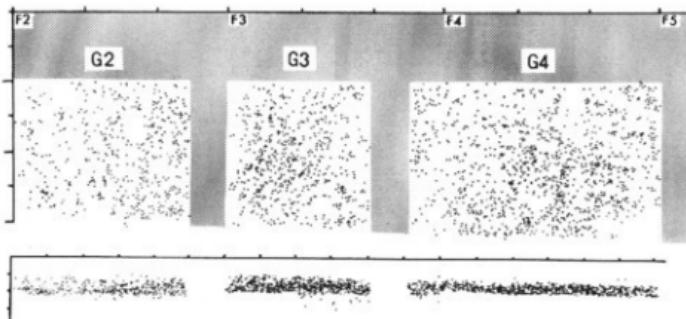
弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺物として相当量の土器群(図版5)が検出され、層位的観察の中では興味深い遺物包含状況を示しており、混在される遺物と当時の自然環境を類推するならば海浜の微隆起砂丘上に造営された生活画がなんらかの形で変容され、一括した



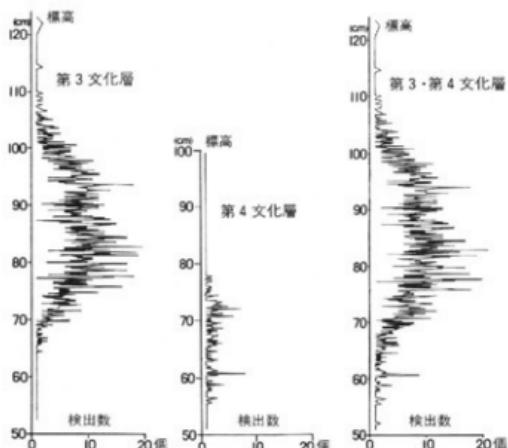
図版4 SE3・構造遺構平面図

上器廢棄もしくは廃棄のパターンを示したものと考えられる。特に上流域の西山区・別府区等の遺跡出土状況を加味すれば、宮前川水系を軸とした弥生時代終末期から古墳時代初頭の社会的背景を示唆するものと考えられる。

また、弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺物の出土状況を第3文化層・第4文化層のみに限定し、3グリッド内の平・断面分布図及び各層序内の遺物標高の検出数を図化し、遺物の標高数値の集中度によって遺物堆積状況の分析を試みてみた。



図版5 遺物平面・垂直分布図



図版6 出土状況図

第4文化層中のすべての遺物レベルの集計値から、同標高値遺物の検出数の関係を取り出し重複数と深度の関係をグラフ(図版6)とした。以上の集計図より、第3文化層内に於いての

まず、遺物出土地点の記録は発掘作業時に手作業で作図された第3文化層・第4文化層の遺物平面図より、遺物の形状を簡略化した点表現に変え、北西角を基準として南北方向値、東西方向値及び標高値を計測したのち遺物座標台帳に記録し、二次的に磁気記憶物に保存した。この台帳を元に遺物の平面分布・垂直分布図(図版5)を作成した。

次に、第3文化層並びに

遺物標高値は約65cm～110cmの幅を取り、標高値のピークは80cm前後と90cm前後の2カ所にピークを見る事ができる。また、第4文化層については、第3文化層に比べ検出量は少量であるため顕著ではないが遺物標高値は約55cm～78cmの幅を取り、標高値のピークは73cm前後にピークを見る事ができる。

さらに、第3文化層と第4文化層を併せて前述の手法でグラフ化を行うこととした。その結果3ヶ所のピークが見られ、この標高値のピーナスラインを大きく捉えれば若干のくびれを持つが、おおよそ標高85cm前後をピークとするピーナスラインと考えられる。

現時点では以上の様な出土状況結果を与えるに至ったが、層位的には微砂丘という特殊な立地条件の中での分析結果であり、分析手法に於いて再検討の余地を残すものの、このようなアプローチも複雑化した低湿地遺跡の発掘調査の中で充分資料となり得ると考えられる。

今後、資料の収集方法や分析手法の変更・改善または、多方面からの方法論の導入等により一層興味深い資料の提示に努めたい。

小結 現在、松山平野においての発掘調査例は、洪積台地及び沖積平野の高位位置に限られ、唯一古墳遺跡・宮前川遺跡の一部の例が検出されているにすぎないが、縄文時代晚期の大溜遺跡を含め今後、沖積低地・河口域での貴重な調査例の検証が進むに従い、ますます松山平野での低湿地遺跡の重要性が論議されてくるものと考えられる。本遺跡等にみられる低湿地遺跡の理解に於いては、地理・地質的観点からのアプローチ、並びに水系を軸とした河川域の社会的背景等の科学的な分析作業が重要な視点になるものと考えられ、総合的な調査体制の充実が必要不可欠なものとなっている。

今回の発掘調査により検出された、中世・近世段階における特異な井戸遺構の検出と古代条里遺構と歎列の発見は、古代松山平野と湾岸地域での安定した農業生産基盤を検証するものであり、松山平野の動脈として貫流する宮前川流域の発達史を紐解くものとなった。

また、周辺地域の調査より宮前川河口域に於ける古墳時代から奈良時代にかけての大集落の一部が検出されるものと期待され、自然環境含めた遺跡立地に伴う集落構造が解明されるものと考えられる。今後の詳細な地質学的・地理的分析を待たなければ、当遺跡の社会的環境復元は困難とは考えられるが当時の低湿地開発事業及び河口域での生活基盤の成立解明に望んで、貴重な一資料を提示する事が出来たものと思われる。

本調査は平成2年12月初めより開始され、平成3年3月末の長期に渡り社会福祉法人恩賜財團済生会愛媛県支部並びに周辺住民方々のご協力を頂き、松山平野で最も標高位の低い低地遺跡を立証することが可能となつたものである。

ここに関係各氏のご協力に際し感謝申し上げると共に当調査概要のご報告する次第である。



写真1 SE 3 立面状況



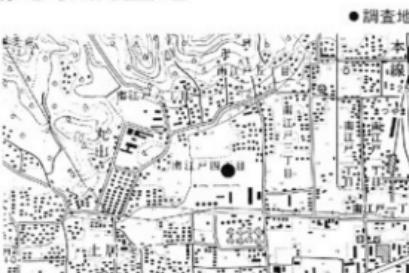
写真2 SE3 碑組遺構



写真3 欽列及び畦畔状遺構検出状況

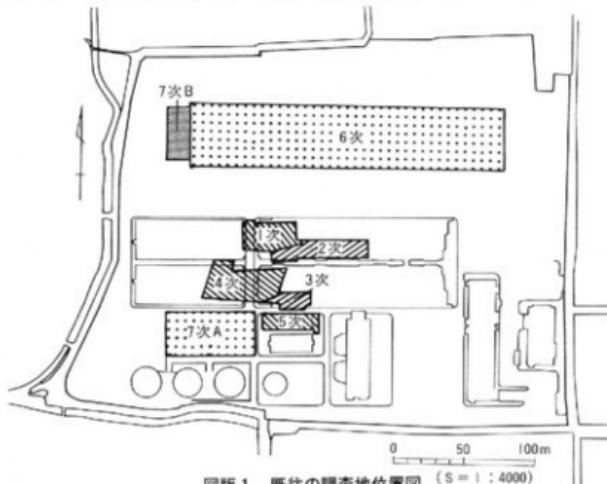
古照遺跡6次調査地

所在地 南江戸4丁目1-1
 期間 平成2年4月18日～
 同3年3月30日
 面積 対象面積 13,000m²
 実施面積 7,230m²
 担当 萩田(正)・河野

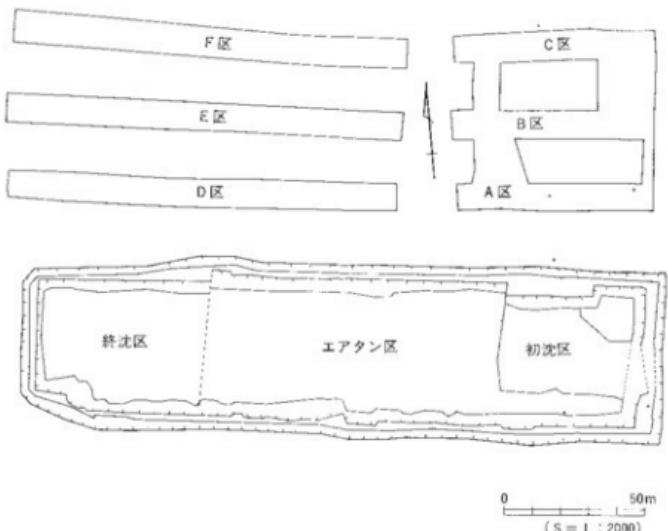


経過 古照遺跡は、石手川等によって形成された沖積平野に立地し、本遺跡のすぐ北側及び西側には石手川の小支流である宮前川が流れている。この宮前川をはさみ北に大峰ヶ台丘陵があり、同丘陵には、弥生中期の高地性集落の大峰ヶ台遺跡、2面の船載鏡と40本を越える銅鏡等を出土した前期古墳の朝日谷2号墳、後期群集墳の客谷古墳群、中世城郭の花見山城跡等、同丘陵裾部には、辻遺跡、澤遺跡、松環大峰ヶ台遺跡、南江戸桑田遺跡等弥生から中近世にいたる各期の遺跡がある。近年、本遺跡周辺においても13～14世紀の上器集積場と思われる南江戸闇目遺跡、古墳時代から中近世にいたる古照ゴウラ遺跡、平安末から鎌倉時代にいたる松環古照遺跡等の所在が明らかにされている。

松山市下水道中央処理場内における本遺跡は、昭和47年工事中に木組み造構が発見され、翌年から第1次・2次と調査を行い、この造構が古墳時代前期の灌漑用の堰3基(南北13.2m、



図版1 既往の調査位置図 (S = 1:4000)



図版2 調査区位置図（上は上層調査、下は下層調査）

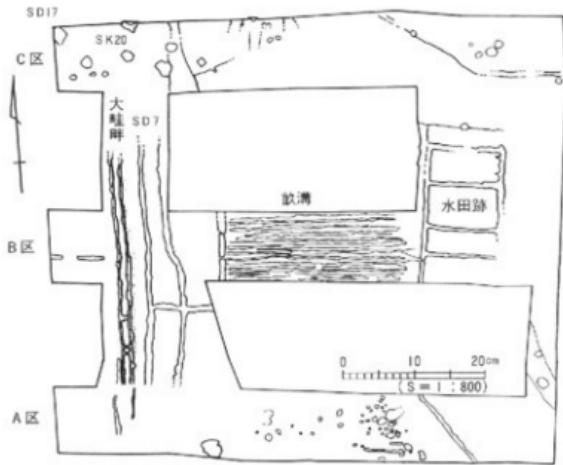
東西23.8m、東西20m）であることが確認され、当時に大規模な農業上木工事が行われたことが判明した。その後、平成元年度まで第5次調査を行っている。今回、下水処理施設建設に伴い平成2年度の緊急発掘調査を第6次調査とする。

本調査地は、第1次調査の北側、東西約238m 南北約70mと東西に長く、標高約13m内外に位置している。本調査では、標高11m前後の中近世遺跡の調査を上層とし、標高8m前後の調査を下層として2層に分けて調査を行う。

上層調査においては、調査区をA～Fの六区に分け一部拡張し調査を行う。下層調査においては、工事名称を調査区名に使用し、初沈区、エアタン区、終沈区の三区とする。

遺構・遺物 A区において検出された遺構は、溝6条、土坑状遺構8基、柱穴状遺構31基、不明遺構5基、杭列1条である。この杭列は東西13m分検出し、竹・クリが材に使用され、杭列の東寄り2ヶ所では、横木を東西に置き多量の細木・葉等がその北側に堆積している状態がみられた。打ち込まれている杭先の砂層からは、瓦器片、土師器片、板殻1点を出土している。検出した溝の中で、B区検出の河川(SD-7)の南延長である川底部を南北5m分検出する。このSD-7からは、16世紀後半の備前焼片口鉢1点を出土する。

B区において検出された遺構は、南北の大畦畔1条、これに沿う幅約3mの河川(SD-7)と小溝を各1条、水口を伴う小畦畔、水田跡、畝溝跡等である。水田跡は、調査区東に

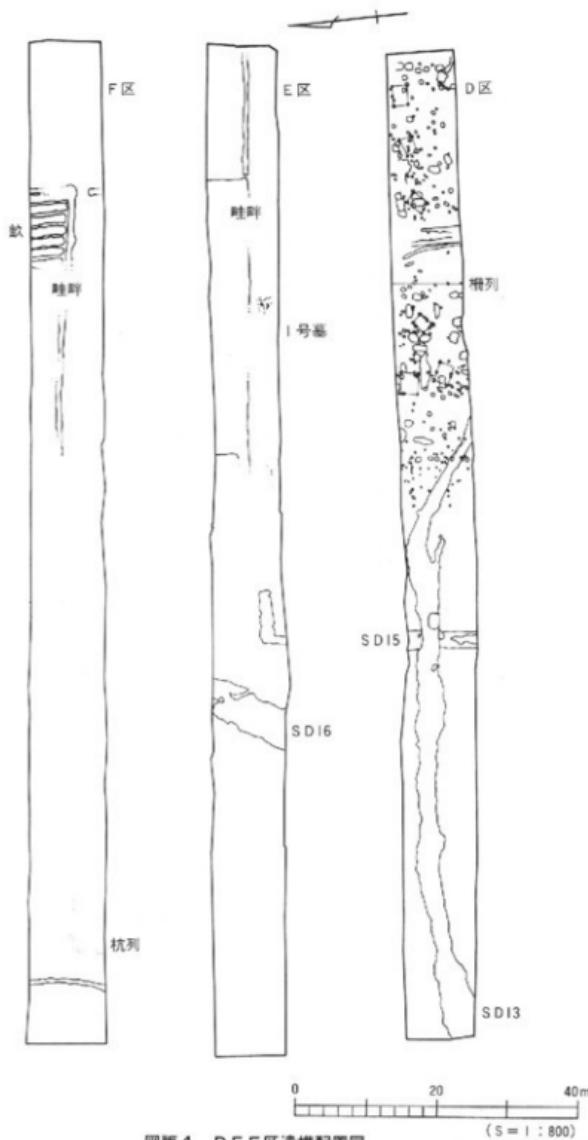


図版3 A B C区遺構配図

において検出し、高さ約10cm幅25cmを測る小畦畔に区画されている。この水田跡の西には、東西約25.5mの歛溝を検出する。これら遺構面において多数の牛の足跡を確認する。水田、歛溝からの出土遺物には、時期不明の土師器、陶器の細片等がある。SD-7からは、土釜脚部、土師質土器、人骨、流木等を出土している。大畦畔は、幅1m高さ50cmを測り南北約32m分を検出し、田字境より東へ約20m、南からの字境では延長直線上に位置している。

C区において検出された遺構は、土坑状遺構10基、柱穴状遺構5基、溝5条、不明遺構3基、小畦畔1条である。この小畦畔と同様に南東から北西へ同一方向性をもつ人の足跡を2ヶ所で検出している。SK-20（土坑）は調査区中央西寄りで検出し、多数の石とともに凝灰岩を材とする宝塔笠部と土師器片、骨片らしき小破片を出土している。C区における出土遺物には、和泉型瓦器椀、瓦器皿、土師器环、土師器皿、須恵質陶器、白磁碗、渡来銭2枚（開元通寶、祥符元寶）があり、12世紀後半から13世紀にかけての遺物である。

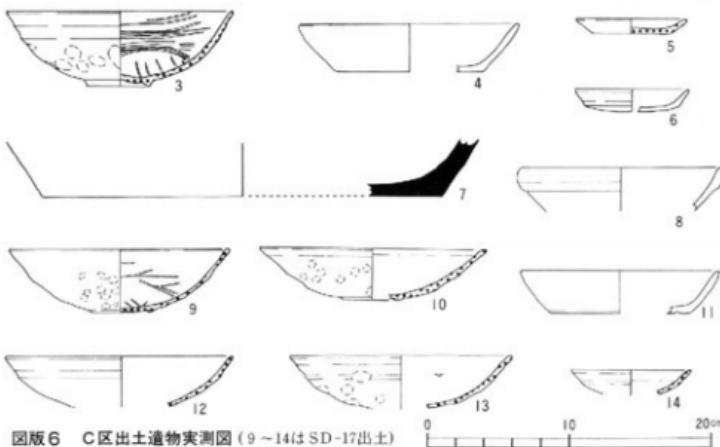
D区において検出された遺構は、B区検出水田面下を調査する。検出された遺構は、掘立柱建物跡6棟、棚列1条、柱穴状遺構233基、土坑状遺構30基、土坑墓2基、溝6条、河川1条、不明遺構7基である。掘立柱建物跡は、1間×1間、1間×2間と小規模である。土坑墓2基には、西向き北枕屈葬の熟年男性と高齢の女性が埋葬されており、女性の歯には黒色染料が付着している。調査区からの出土遺物には、土釜、土師器环、土師器皿、土師質鉢、瓦質大甕、瓦質火鉢、備前焼播鉢、備前焼壺、須恵質陶器、青花皿、白磁碗、青磁碗、青磁皿、砥石等があり、14世紀から16世紀前半にかけての遺物である。



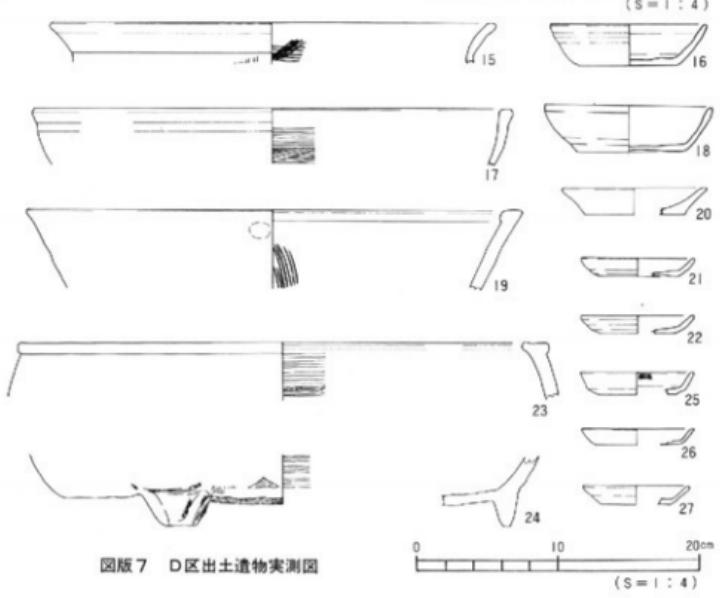
图版4 D E F区造構配置圖



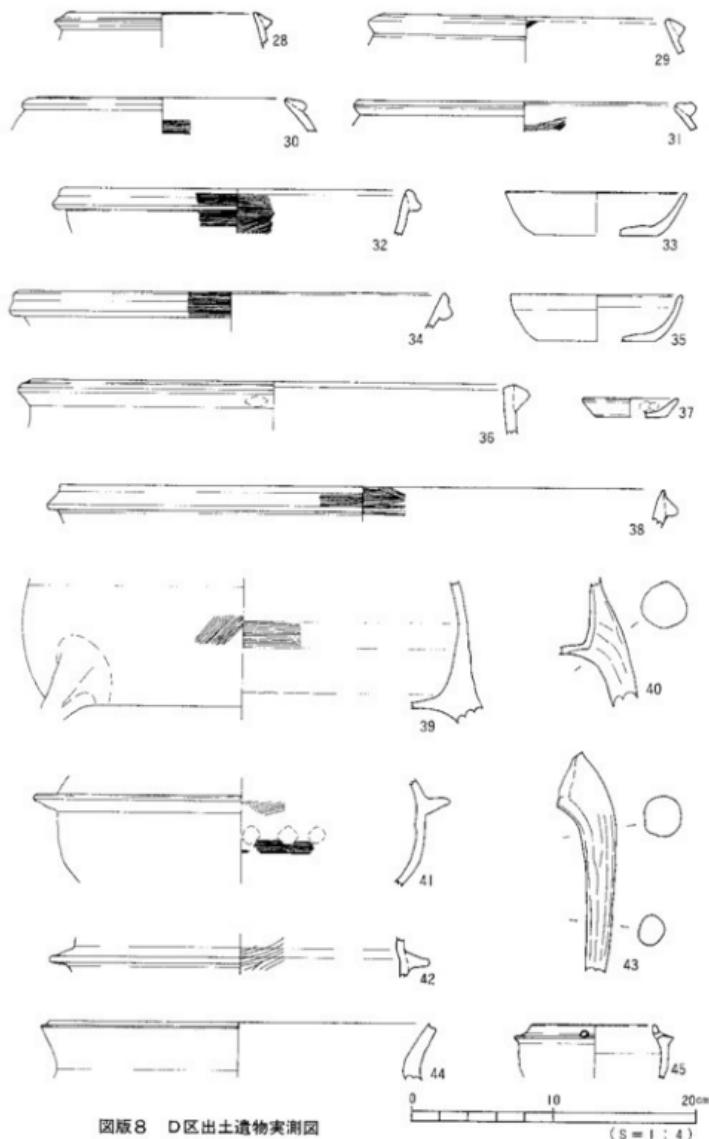
図版5 A区出土遺物実測図



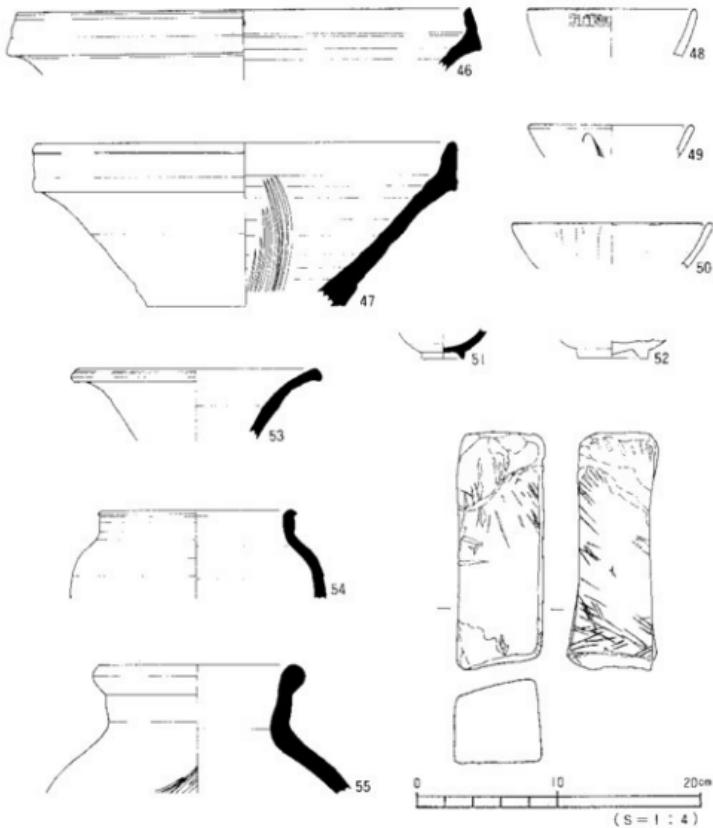
図版6 C区出土遺物実測図 (9~14はSD-17出土)



図版7 D区出土遺物実測図



図版8 D区出土遺物実測図

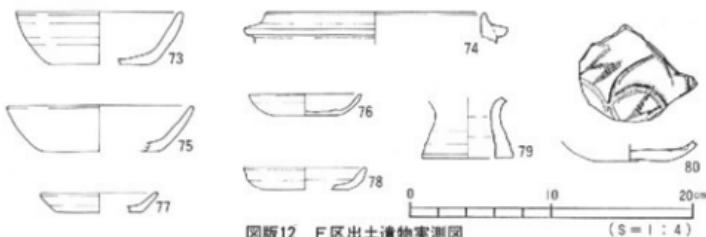
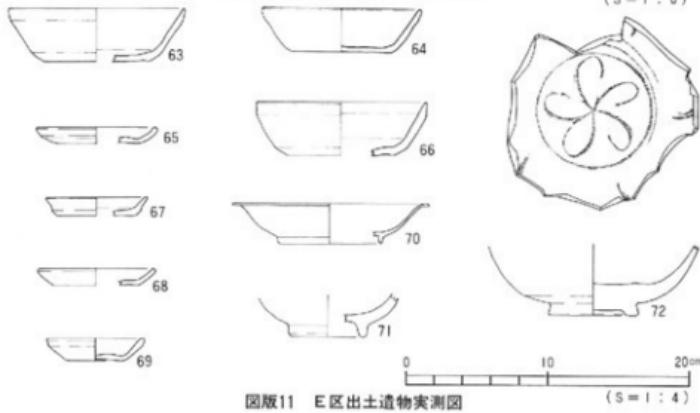
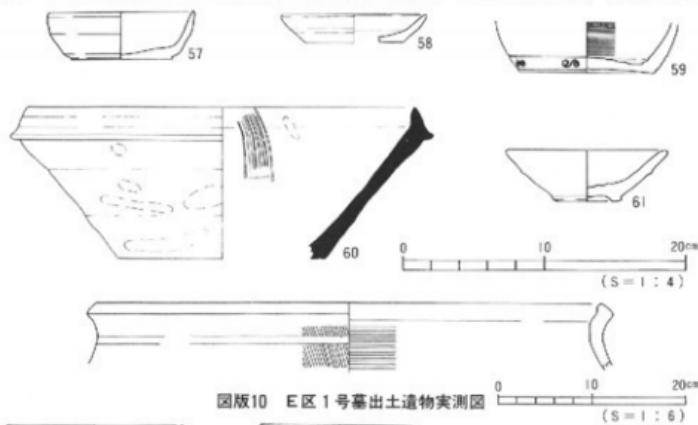


図版9 D区出土遺物実測図

E区東半分において検出された造構は、B区検出の南北小畦畔の延長部分、段状小畦畔2条、人骨1体（1号墓）である。1号墓周辺には一部列石が見られ、人骨は西向き北枕で屈葬され、後世の整地により削平を受けている。1号墓からは、土師器環、土師器皿、備前播鉢、白磁皿、瓦質大甕等を出土し、15世紀代の遺物である。調査区西半分において検出された造構は、D区検出溝（SD-15）のL字コーナーと南北の河川1条（SD-16）である。SD-16からは、底部回転糸切りの土師器環、土師器皿を出土し、13世紀代の遺物である。調査区からは、土師器環、土師器皿、白磁碗、青磁碗、硯1点を出土している。

F区東半分において検出された造構は、東西の小畦畔1条、E区からの延長である南北の

小畦畔1条、歟8条である。歟は、幅1m高さ約30cmを測り南北5m分を検出している。調査区からの出土遺物には、土釜脚部、土師質甕、須恵器、土師器等がある。調査区西半分に



おいて検出された遺構は、南北の溝1条、2列に並ぶ杭列のL字部分である。この溝からは、土師器壺、土師器皿、瓦質鉢、須恵質鉢等を出土し、13世紀代の遺物である。

上層調査終了後、矢板工事中に終沈区北壁から渡米銭56枚の入った備前焼IV期の壺が出土している。(図版13、表1)



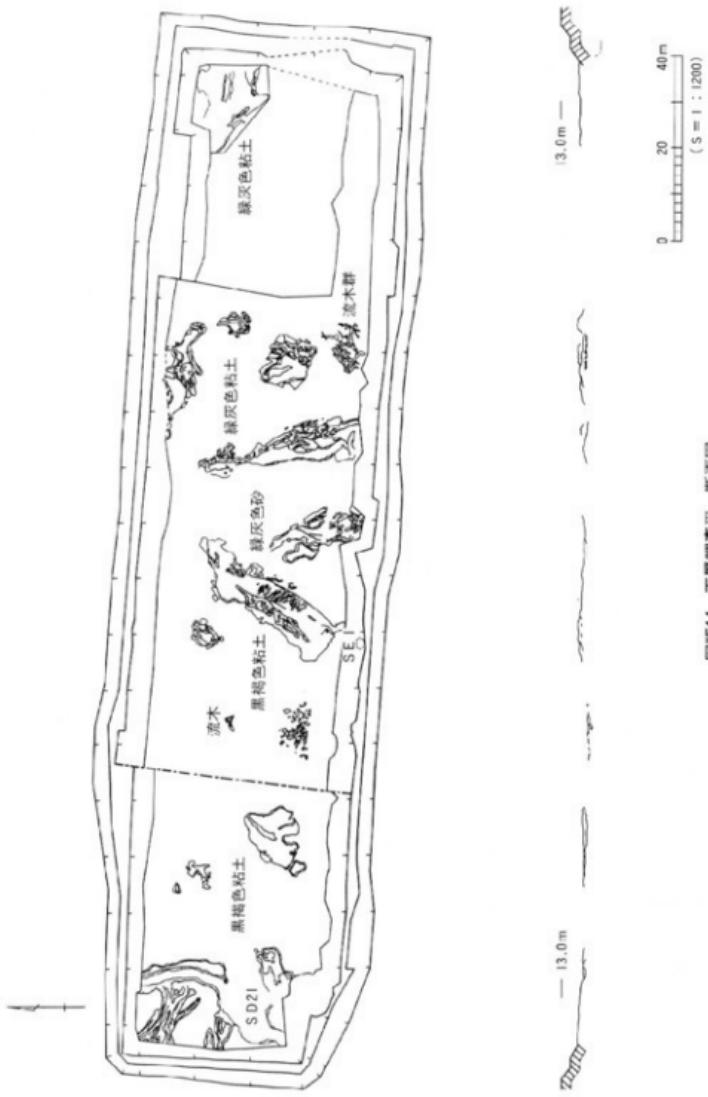
図版13 出土遺物実測図

錢貨名	枚数	錢貨名	枚数
開元通寶	3	至和元寶	1
淳化元寶	1	嘉祐通寶	2
至道元寶	1	治平元寶	1
咸平元寶	1	熙寧元寶	4
景德元寶	1	元豐通寶	7
祥符元寶	3	元祐通寶	6
祥符通寶	1	紹聖元寶	3
天禧通寶	1	紹定通寶	1
天聖元寶	2	洪武通寶	2
景祐元寶	1	永樂通寶	7
皇宋通寶	7		

表1 出土渡米銭(56枚)

下層調査においては、西側終沈区より調査を開始し、海拔8.5m前後を調査する。終沈区西端で黒褐色粘土を標高約9.5m(天場)で検出する。この黒褐色粘土の東において、北から南西へと流れる幅3mの河川1条(SD-21)を検出する。この黒褐色粘土の東面は、河川の攻撃斜面の様相を呈している。黒褐色粘土上面には、東西の小溝が多数みられ、小河川3条を検出する。黒褐色粘土から稻のプラントオバールが少量見つかる。SD-21の南側川底部より布留I併行期の壺を出土し、壺内の黒褐色土からは稻のプラントオバールが多量に見つかり、近辺で水田が営まれていたことが考えられる。この黒褐色粘土を被覆する砂礫や周辺の砂礫からは、縄文式土器、弥生式土器、土師器、須恵器のほか11世紀代の内黒土器や土師器碗等を出土している。

エアタン区においては標高約8.0mを調査する。古墳遺跡埋基底部の緑灰色粘土を5ヶ所において検出し、ともに標高約9.5m(天場)を測る。このうち調査区中央やや西寄りで検出する緑灰色粘土は、南北約33m幅約7.0m磁北より西に約20°ふれており、この緑灰色粘土は調査後の工事掘削南壁、北壁において凹面状に西に深く下がることを確認し、南北に流れる河川の左岸と考えられる。この緑灰色粘土と同様に、西側に南北約35m幅約8.0m磁北から東に約40°ふれる黒褐色粘土を海拔9.5m(天場)で検出している。この黒褐色粘土の西面は、ブロック状に粘土が崩れ落ち、東面は河川の攻撃斜面の様相を呈している。この黒褐色粘土からは、多量の稻のプラントオバールが見つかっている。エアタン区北の緑灰色粘土からは、稻のプラントオバールは検出されていない。黒褐色粘土周辺の砂礫からは、縄文式土器、弥生式土器、土師器、須恵器等を出土している。



初沈区寄り南側において流木群を検出している。流木に混じって種子、葉、縄文式土器、弥生式土器、上師器等を出土しており、この流木群は古墳時代前期において「淀み」に堆積したと考えられる。昭和47年度に行ったボーリング調査による木集中地点である。

エアタン区の終沈区矢板寄り標高8.0mの砂礫層から、根は北東方向、幹は南西方向に傾く大木を出土している。エアタン区南壁では、海拔約12.0mで石組み井戸1基（S E - 1）を検出している。S E - 1の出土遺物は、瓦質大甕、土釜、土釜脚部、備前播鉢、獸骨等で上層調査D区と同時期の遺物である。

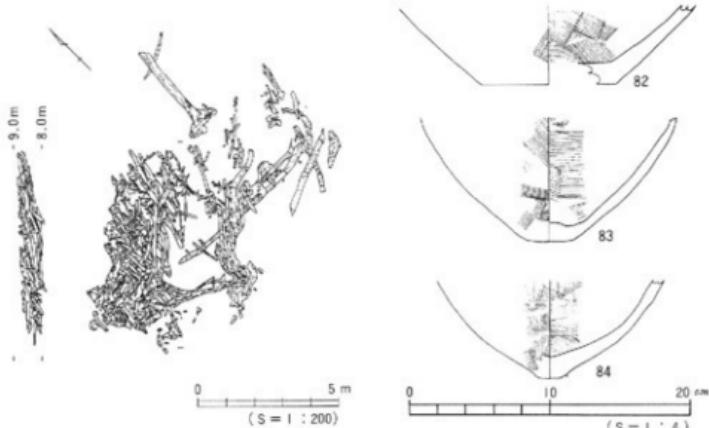
初沈区においては標高約9.0mを調査する。初沈区北東隅で、緑灰色粘土を標高約9.5m（大場）から検出している。この緑灰色粘土を被覆する砂礫や周辺の砂礫からは、弥生式土器、上師器等を出土している。

下層調査における出土遺物は、縄文後期から晩期にいたる深鉢、浅鉢、弥生中期から後期にいたる壺、甕、鉢、弥生末から古墳前期にいたる壺、壺、甕、鉢、手づくね土器、支脚、古墳中期の高杯、5世紀末から8世紀にわたる須恵器、10～11世紀の内黒土器、土師器碗、土師器环、「て」の字状口縁皿等縄文後期から平安時代にいたる各期の土器を出土し、他にサヌカイト石鐵1点、同刀器1点、同未加工4点、砂岩加工品1点、石皿1点、ガラス小玉1点、手づくね土器内から白玉1点、木桶、加工木材等を出土している。

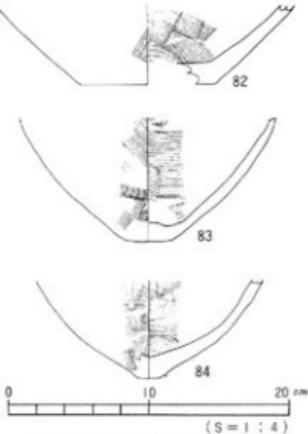
小結 今回の第6次調査においては、第一壁の上流域における堰基底部の緑灰色粘土が、河川氾濫や蛇行等により削り流されたためか部分的にしか検出されなかった。エアタン区北側及び初沈区北東隅検出の緑灰色粘土は、調査区外への広がりが考えられる。終沈区及びエアタン区検出の黒褐色粘土においては、プラントオバール分析・花粉分析等の結果から、水田の可能性が高いことが判明し、これら黒褐色粘土も調査区外への広がりがみられることから、今後、本調査地周辺における緑灰色粘土と黒褐色粘土を詳細に調査する必要性がある。

下層調査における出土土器の分布において、県内でも出土例の少ない托上碗(図版21-155)をはじめ古代の土器は終沈区西端黒褐色粘土周辺に集中しており、須恵器等主に古墳後期までの土器は終沈区からエアタン区中央までの西半分に多量にみられることも合わせて、これら粘土を被覆する砂礫層の詳細を分析から、旧地形を復元検討することが古墳遺跡域との関わりを考察する上で重要であると考えられる。

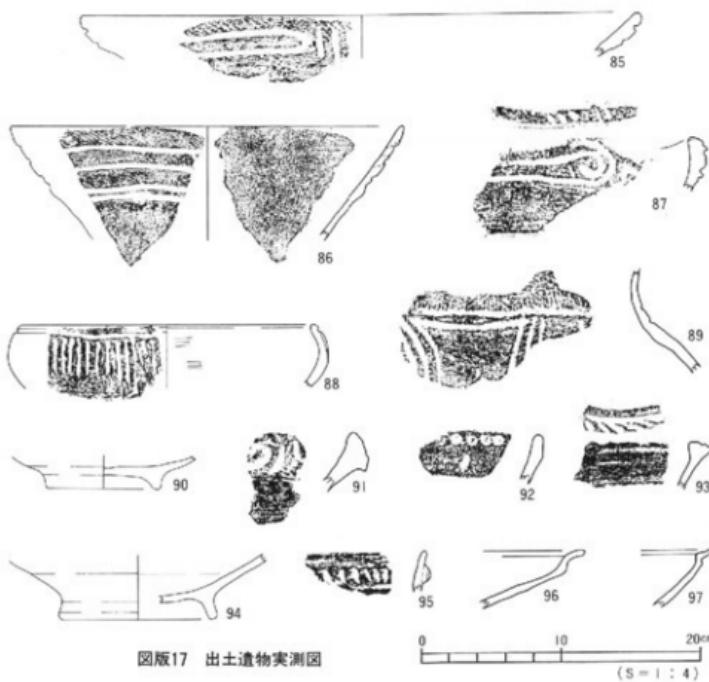
上層調査においては、近世の小畦畔を伴う水田跡、大畦畔等の検出例は県内初で、中近世の条里制などを知る貴重な資料となる。また、D区検出の掘立柱建物跡が小規模なことと出土遺物等から中世後半の庶民あるいは農民の生活を知る資料の一つと成り得るものであり、C区を含め13世紀以降の松山平野における土器編年の好資料を得ることができた。このように、各時代の調査を行うことができたことは、松山平野の歴史解明の一助となり、早急な整理が必要である。



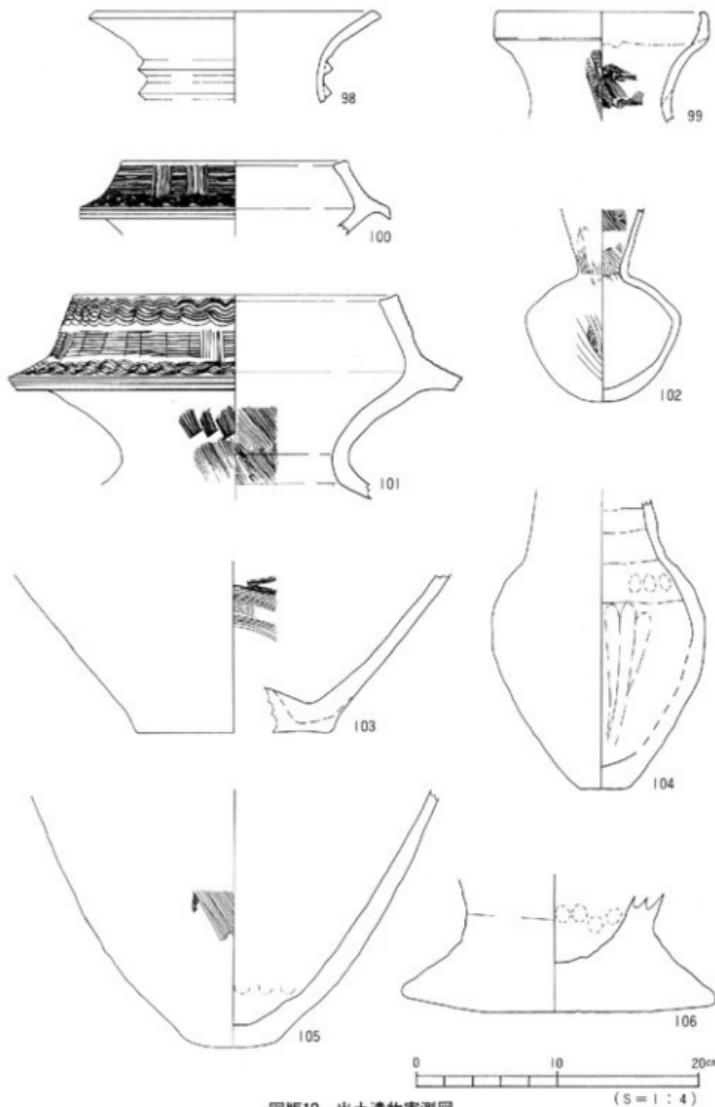
図版15 流木群出土遺物実測図



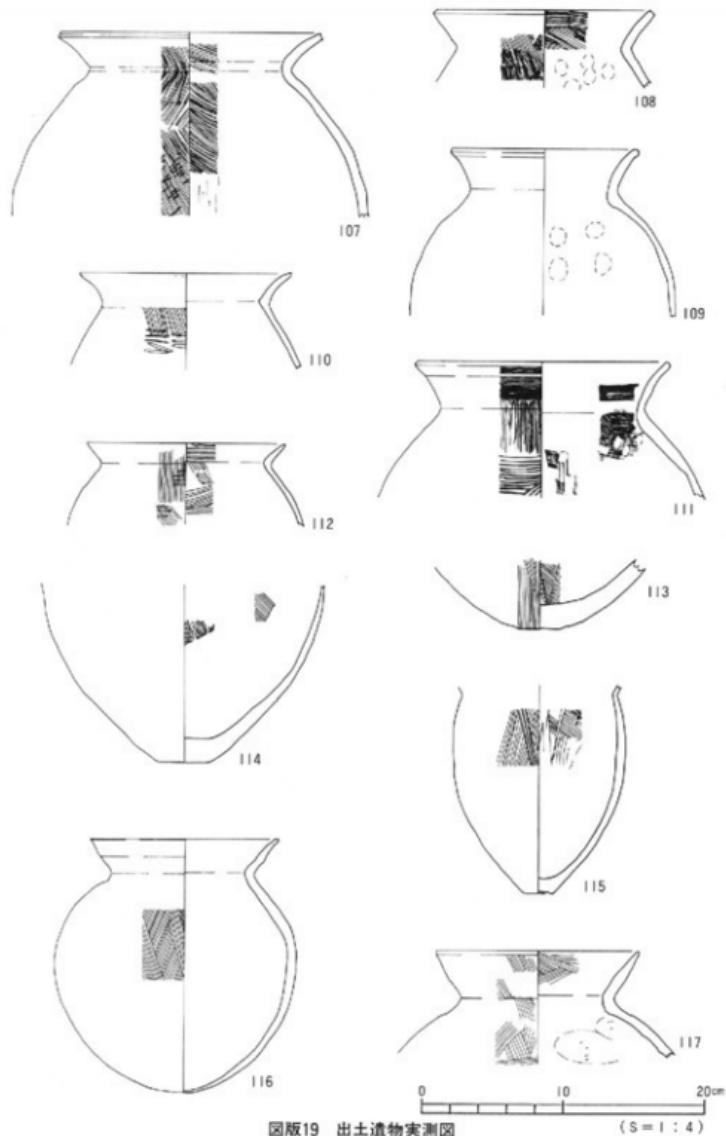
図版16 流木群出土遺物実測図



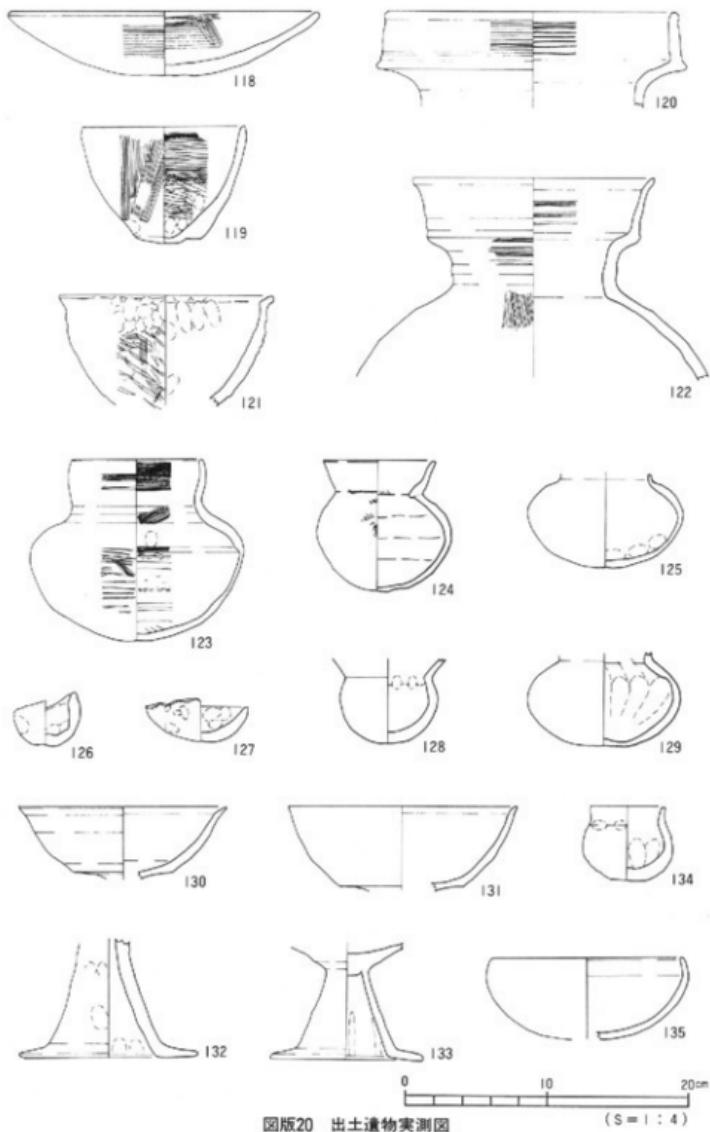
図版17 出土遺物実測図



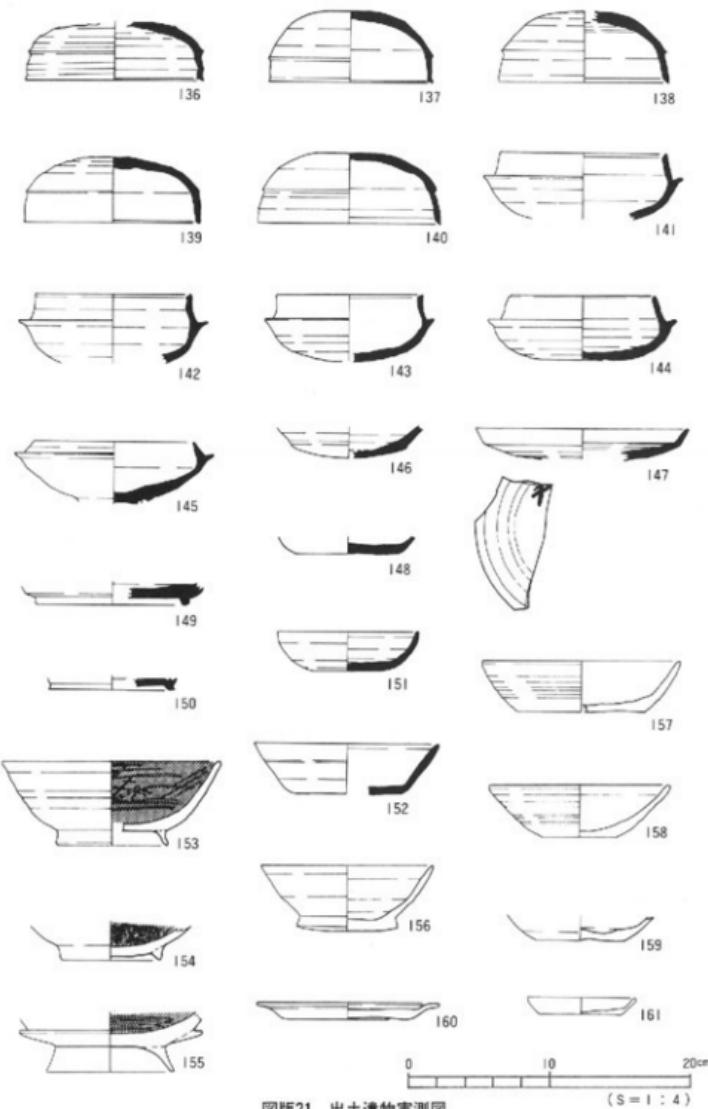
図版18 出土遺物実測図



図版19 出土遺物実測図



図版20 出土遺物実測図



図版21 出土遺物実測図



写真1 B区水田跡（東より）

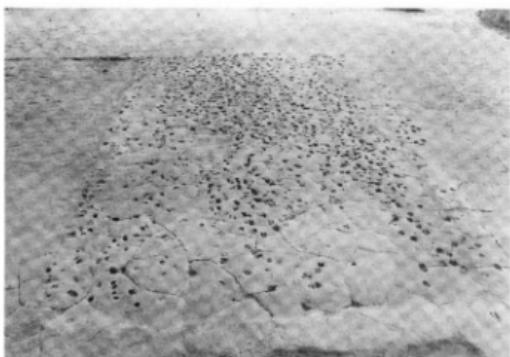


写真2 B区水田跡足跡検出状況（西より）



写真3 B区大畦跡（北より）



写真4 D区東半分遺構検出状況（東より）



写真5 D区西半分遺構検出状況（東より）



写真6 F区歴遺構検出状況
(北西より)



写真7 終沈区西端黒褐色粘土
検出状況（北より）



写真8 エアタン区緑灰色・黒
褐色粘土検出状況
(北より)



写真9 エアタン区北端緑灰色
粘土検出状況
(北東より)



写真10 初沈区北東隅緑灰色粘土検出状況(北西より)



写真11 エアタン区南流木群検出状況(南より)



写真12 エアタン区工事南壁面
緑灰色粘土(北より)

古照ゴウラ遺跡4次調査地

所在地 南江戸3丁目813-1
期間 平成2年5月25日～
同年8月18日
面積 3,246m² (対象面積)
1,040m² (調査実施面積)
担当 松村・山本



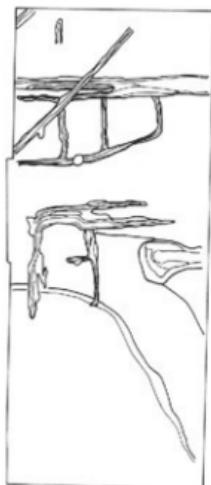
経過 本調査地は、古照遺跡の東500m、標高13.2mに位置し、南には市教育委員会が昭和61～63年にかけ、3次にわたって調査を実施した古照ゴウラ遺跡があり、跡地は現在幹線道路となっている。この内1次調査地では、杭列・溝状・畝状・溜池等の各遺構(『年報1』掲載)が検出されており、今回はこれら既存遺構との関連をふまえての調査である。

遺構・遺物 本調査では、地表下70cmに畦畔状遺構、掘立柱建物4棟、溝状遺構9条、曲物使用井戸2基、土器溜り1基、灌漑施設1基等が確認された。

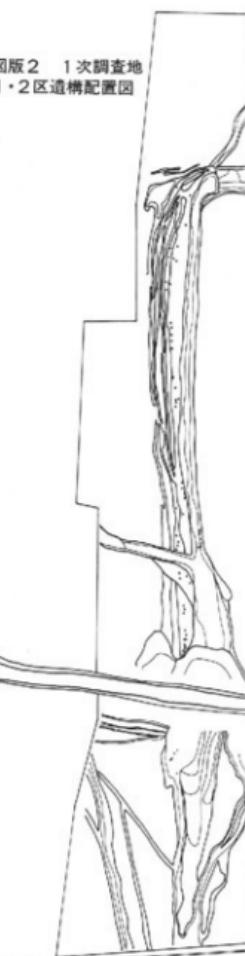
畦畔状遺構は、調査区南寄りの中央にあり、T字形の畦によって東西二面に区画され、足紋状の検出により、水田址が想定される。掘立柱建物は、東西棟の一群(図版3)で、1棟を除く3棟には、南面張り出しが見られる建物である。柱穴には、柱材の残存や土師器(図版9)が出土している。溝状遺構は、小溝も含め、自然流路、区画性のもの(図版1)、暗渠取水溝(図版4)等に分けられる。井戸はとともに曲物枠が使用され、井戸SE1(図版4)は一段に、SE2(図版5)は二段に使用される。SE1の枠は青色粘土で固定し、外周壁は栗石と土で造られ、東壁下位には、暗渠取水溝がみられる井戸である。SE2の枠は杭で固定され、上面には横木を配した足場と、石敷きの排水路が検出されている。また東西法面に4基の柱穴(内1基は礎石)が検出され、覆屋付き井戸が考えられる。土器溜り(図版7)は、溝内部に位置し、瓦器碗、土師器壺(図版8)、石鍋が出土している。灌漑施設(図版6)は建物群の下部に検出されたもので、崩壊し残存する北壁部や杭列、板材から、木製水路が想定され、水門、堰の二点が考えられる施設である。

小結 遺構は、調査区中央より以東に多く、西は氾濫原となりゴウラ状がみられる。このゴウラ状は、前回調査の1次調査区でも確認されており、同一河川敷と認められる。今回4次調査の出土遺物には、弥生時代から近世に至るまでの土器と、木製スプン、ヘラ等が出土している。従って、当遺跡は中世段階(12～13C)を主体とする生産址を伴う集落が考えられる。

図版1 4次調査区遺構配置図

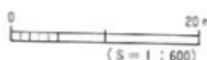


図版2 1次調査地
1・2区遺構配置図

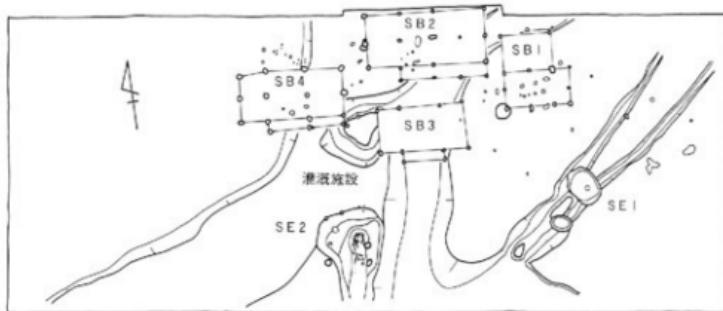


2区

1区



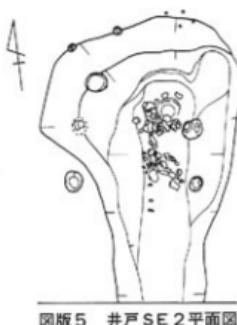
黒点は杭跡位置を示す



図版3 4次調査区構造配置図



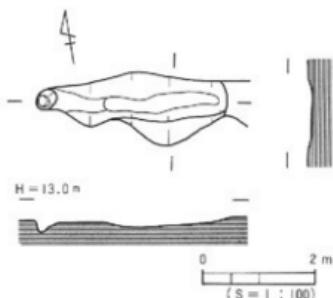
図版4 井戸SE 1平面図



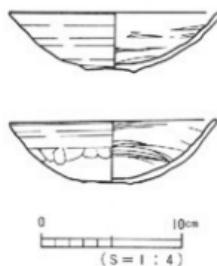
図版5 井戸SE 2平面図



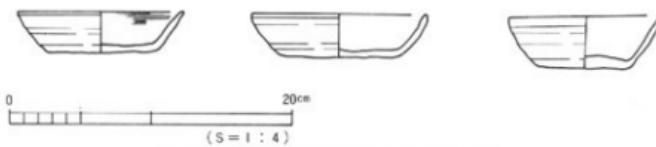
図版6 灌溉施設平面図



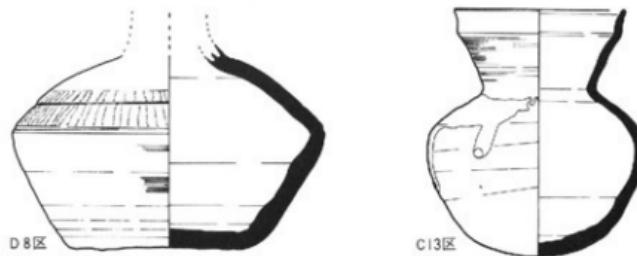
図版7 土器窯造構平・断面図



図版8 土器窯出土遺物実測図



図版9 挖立柱建物跡柱穴出土土師器実測図



図版10 包含層出土須恵器実測図



図版11 D10区出土花弁形石製実測図



写真1 調査前風景（南より）



写真2 挖立柱建物群（西より）



写真3 造構検出状況（北東より）

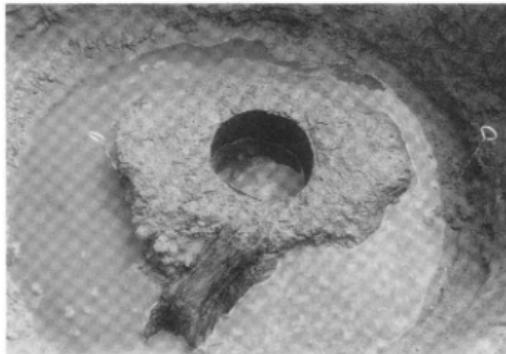


写真4 井戸SE1検出状況（西より）

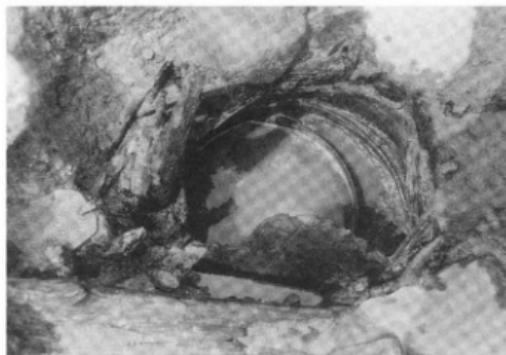


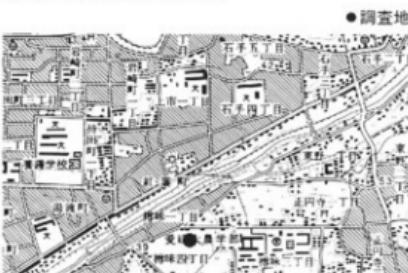
写真5 井戸SE2検出状況（南より）



写真6 灌溉施設（東より）

樽味高木遺跡2次調査地

所在地 樽味4丁目239他3筆
 期間 平成3年6月1日～
 同年7月20日
 面積 対象面積 1,900m²
 実施面積 224m²
 担当 栗田(正)・河野



経過 本調査は、樽味遺物包藏地内における宅地開発に伴う事前調査である。本調査地は、石手川左岸の沖積扇状地（東野面）上の西端部にあり、39.6m前後に立地している。本調査区の東部には、弥生中期～古墳後期にわたる樽味高木遺跡（1次）、弥生前期～古墳後期と中世の樽味遺跡、「貨泉」出土の樽味立派遺跡、南部にはA T火山灰検出の樽味四反地遺跡、西稲葉遺跡、多角形竪穴住居址を検出した桑原高井遺跡等、弥生から中世に渡る遺跡の存在が明らかになってきている。東方には、東野お茶屋古墳群をはじめ経石山古墳、三島神社古墳がある。桑原地区は、古代「和妙抄」による温泉郡五郷の桑原郷で、中世には河野家家臣の出雲房宗賢が領有し、調査区南西1kmに桑原城（現、桑原寺）を築く。後、城主は松永氏となり、天正13年（1585年）河野家の滅亡まで続いている。

遺構・遺物 基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層水田床土、第Ⅳ層暗褐色シルトの遺物包含層（弥生時代前期～古墳時代）、第Ⅴ層は明赤褐色シルト（無遺物層）であり（図版2）、二区の旧地形は沖積扇状地に沿って東から西に緩傾斜をなしている。

A区での検出遺構は、表土上より塚2基、第Ⅷ層上面より竪穴式住居址3棟（隅丸方形プラン2棟、方形プラン1棟）、土壙状遺構3基、溝状遺構1条、柱穴71基である。（図版3）

S B - 1 は、東西2.78m×南北2.1m以上の隅丸方形竪穴住居址である。壁高は0.44mを測り、壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり西壁に薄く壁体溝が残る。

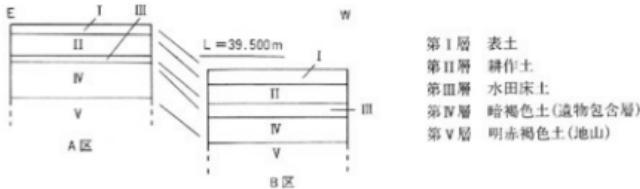
削平をあまり受けていない為、



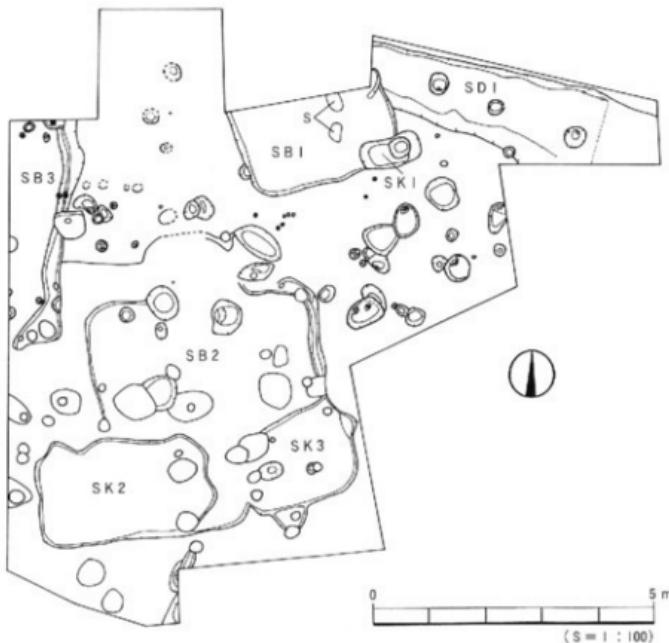
図版1 全測図

遺存状況は良好である。

中央部より南東にかけての床面より炭化物、焼土が見られ、南東部に炉址を検出する。中央部よりやや東寄りからは、30~35cm大の偏平な礎2個（花崗岩と細粒砂岩）を出土している。出土遺物は、上層より刀器（赤色チャート）、磨製石庖丁（図版4）各1点、中~下層より弥生時代後期初頭の無頸壺、短頸壺、甕（図版5）の他に赤色チャート片、サヌカイト片を各1点出土している。出土炭化材3点の樹種は、ブナ科シイノキ属（広葉樹）、クスノキ科（広



図版2 基本層位図



図版3 A区造構配置図

葉樹)、針葉樹である。(古環境研究所分析)

S B - 2 は、東西4.0m×南北4.0mの隅丸方形竪穴住居址で、壁高は0.1mを測り、南西隅をS K - 2 に切られて検出される。中央西寄りには、大きさ28cm×20cm厚み5cmの石1点とその周りに5~10cmの円礫群を検出している。遺物は、上層~中層にかけて古墳時代中期後半の甕、高環、小型丸底壺、鉢(図版6)を出土している。

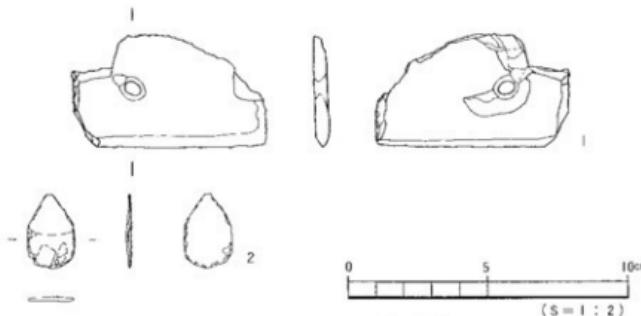
S B - 3 は、調査区西端で検出している方形竪穴住居址で、南北4m以上、幅約16cm深さ5cmの壁体構をもち壁高は0.35mを測る。北西部が調査区外のため規模は不明である。古墳時代中期前半の須恵器片、土師器片が出土している。

S D - 1 は、調査区北東に南北5mを検出し、幅約1.2m深さ15cmを測り、断面は「レンズ状」を呈している。東から西に緩傾斜(比高差8cm)をもち講底に3~16cmの礫がみられる。遺物は、甕の取手、土師器片、須恵器片、15世紀後半の擂鉢片(備前焼)を出土している。

1号塚(図版12)は、東西2.3m×南北2.6m高さ0.3mの方墳形塚である。埋納施設の検出はなかった。塚断面は2層に分層でき、1層の暗灰黄色土と2層の明灰黄色土には多数の礫が混じり、角礫岩製の五輪塔の一部(図版6)、弥生土器片、土師器片、須恵器片、近江産縁釉陶器片、陶磁器片、瓦片等が出土している。2層の東側上面(約5~25cmの円礫上)より土師皿(図版14)17枚が南北に積み重なった状態で出土し、祭祀が行われた後マウンドしたと考えられる。東端部から寛永通寶(図版16)を出土している。

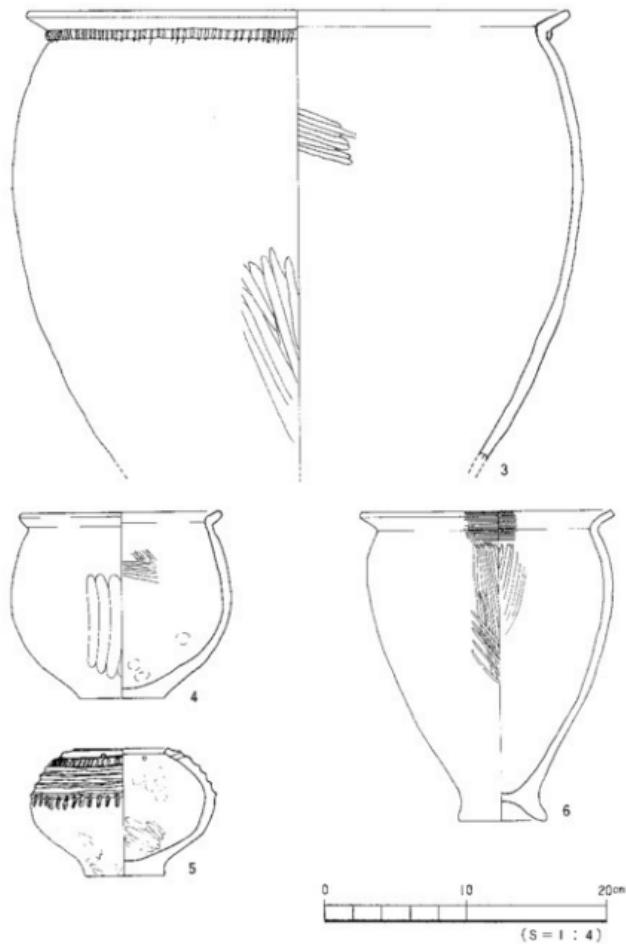
2号塚(図版13)は、東側を道路、南側をコンクリートにより削平されており、東西4.1m×南北0.9mが遺存している。推定直径約5mの円形塚と思われる。1号塚と同様に2層に分層可能であり約3~17cmの円礫が含まれる。マウンド内からは、弥生土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、下層より硬玉製勾玉(図版17)、扁平片刃磨製石斧(図版18)を出土している。

以前、周辺には多数の塚が存在し「千人塚」と呼ばれ、現存するのは本調査区の2基のみで、墓として伝承されている。



図版4 A区S B 1出土遺物実測図

第Ⅳ層(暗褐色シルト)からは、弥生時代前期の木葉文の壺片(図版8)、弥生時代後期の高環・壺、土師の甕(図版7)・高環(図版10-23)・甕(図版11)、5C末~6C初頭の環身・高環・甕(図版10)、磨製石庖丁(図版9)が出土している。

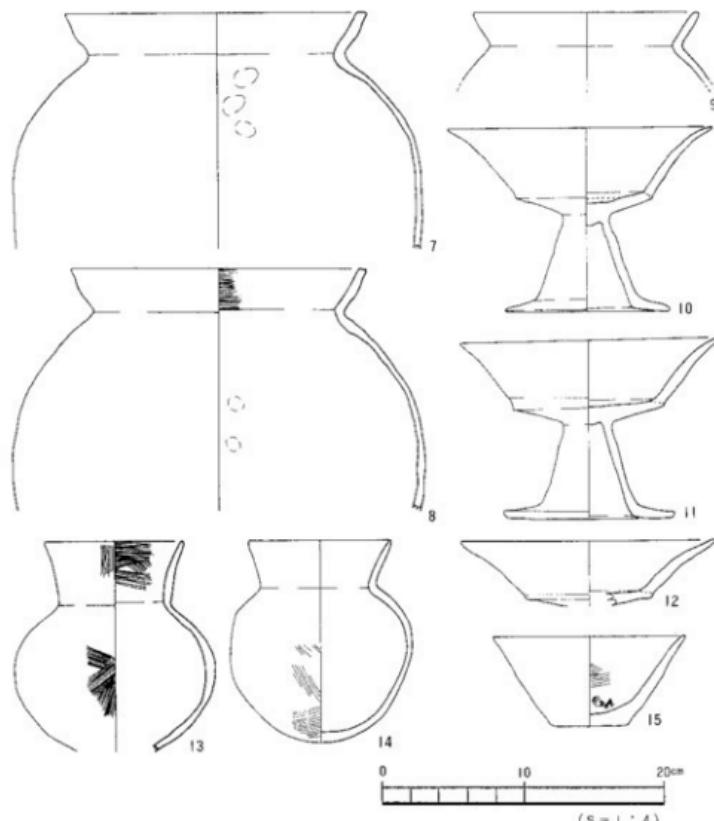


図版5 S B 1出土遺物実測図

B区での検出遺構は、第V層上面より竪穴式住居址3棟（方形プラン2棟、円形プラン1棟）土壌状遺構10基、溝状遺構9条、柱穴138基、性格不明遺構4基である。（図版19）

S B - 1 は、東西5m×南北3.3m以上の方形竪穴住居址で、壁高は6cmを測り幅12cm深さ3cmの壁体溝が残る。東壁中央には、東西0.9m×南北1.1m高さ約20cmの馬蹄型カマドを検出し、遺物は土師の甕・高环（図版22）、須恵器の环身片を出土した。6C初頭の遺構である。

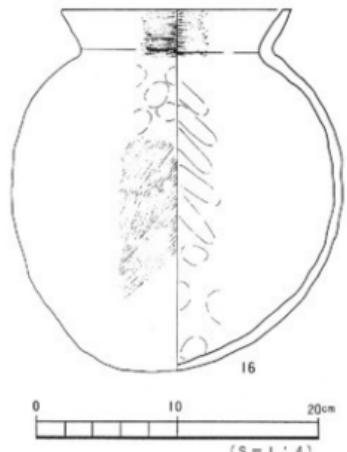
S B - 2 は、直径約8mの円形竪穴住居址で、壁高は10cmを測り、幅20cm深さ4cmの壁体溝が残っている。出土遺物は、壁体溝より有柄摩製石錐（図版23-60）が1点出土しただけで、上器片は殆ど出土していない。



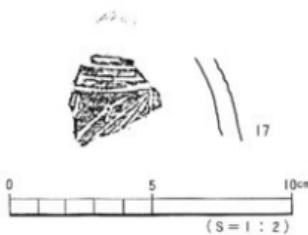
図版6 A区SB-2出土遺物実測図

S B - 3 は、東西3.3m以上×南北3.5mの方形竪穴住居址で、壁高は10cmを測る。西側を S D - 1 に切られて検出している。壁体構の検出はなかった。出土遺物は、弥生後期の土器片に混じり古墳時代初頭の甕の破片が出土している。

S D - 1 は、調査区西端において南北長4.2m分を検出し、幅0.8-1.5m深さ21cmを測る。断面はU字状で北から南に緩傾斜（比較差9cm）をもつ。出土遺物は須恵器、土師器の細片を僅かであるが出土している。時期は中世以降と考えられる。



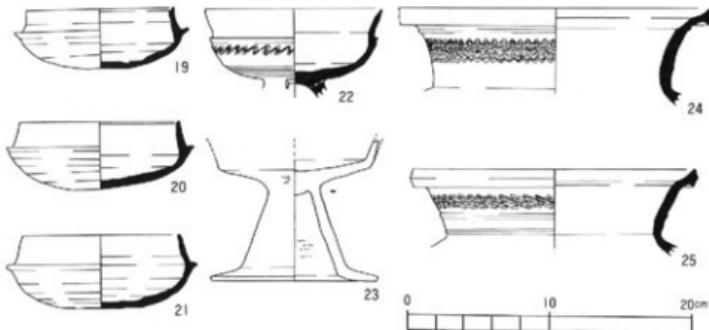
図版7 A区第IV層出土遺物実測図



図版8 A区第IV層出土遺物実測図



図版9 A区第IV層出土遺物実測図

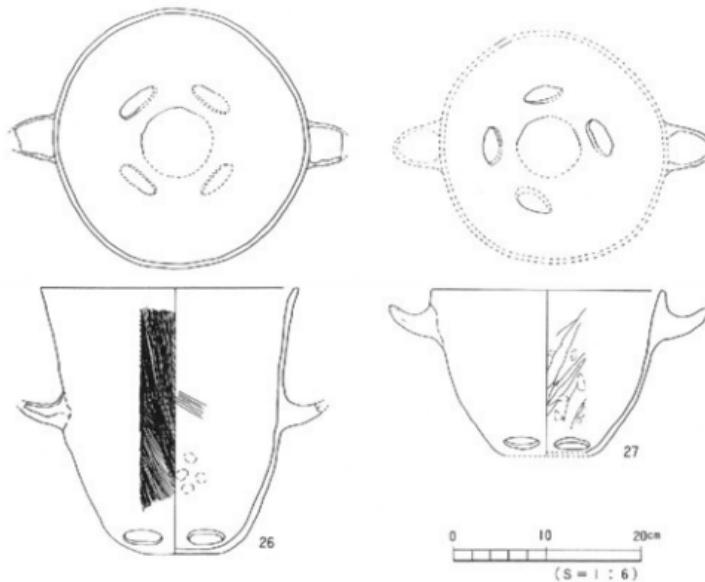


図版10 A区第IV層出土遺物実測図

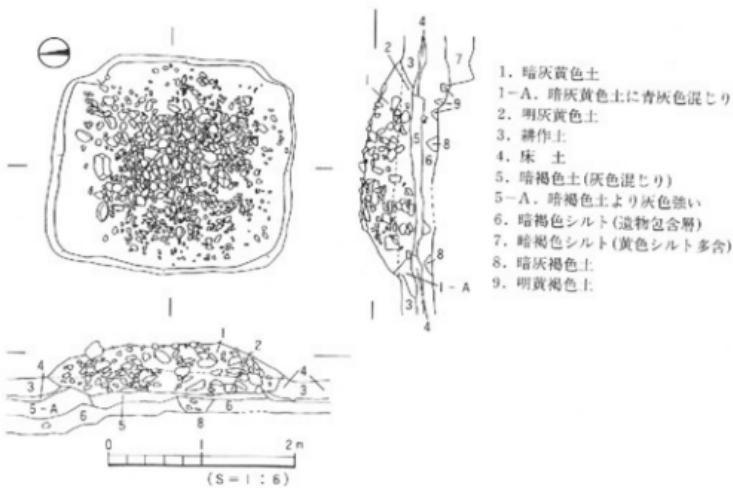
S P - 119は、東西0.9m×南北0.35m以上の円形と思われ、深さ0.44mを測る。出土遺物は、古墳時代初頭の完型を含む小型の甕(図版20)が出土している。

第IV層(暗褐色シルト)からは、弥生土器片、土師器片、須恵器片を出土しA区の第IV層とほぼ同時期の包含層である。その他に土製紡錘車(図版21)、サヌカイト石鎌5点(図版23)、サヌカイトチップを多量に出土しB区で石器製作が行われていたことが考えられる。

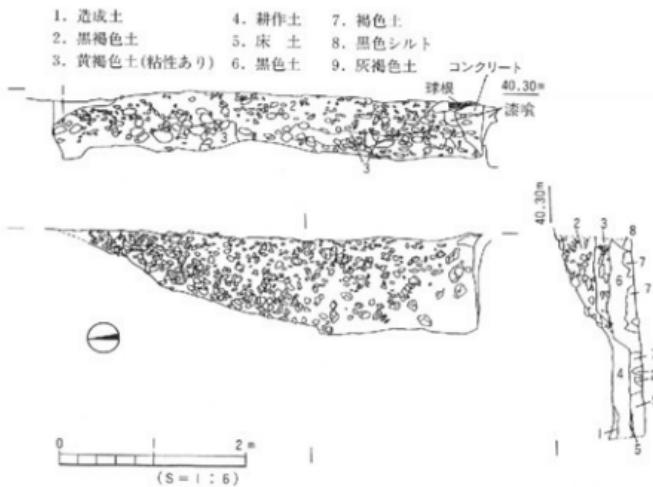
小結 本調査では、弥生時代後期初頭から古墳時代の集落関連遺構、遺物を確認した。本例は石手川南岸域における当地域の各時代の集落の西限を考える上で一つの資料となる。A区の1・2号塚は集石状況より「礎積塚」と考えられる。土師皿の出土位置から仏教思想の西方浄土を窺い知ることができる。明確な構築目的は不明であるが、松山平野における塚の新資料を得ることができた。今後、礎積塚の性格や年代に検討を加えるには近世以降の民間信仰をはじめとする民族学・仏教学等とも合わせて研究する必要性がある。樽味遺物包蔵地については、B区全体に遺跡の広がりがみられ、愛大農学部樽味遺跡をはじめ包蔵地範囲を検討する必要がある。



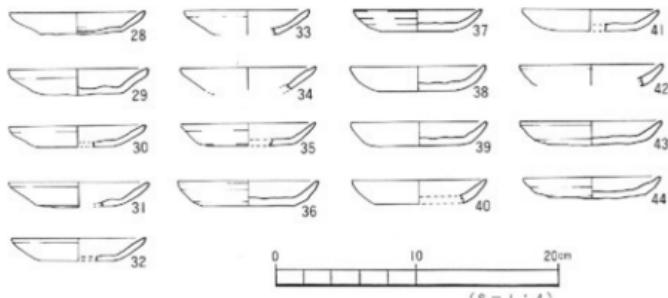
図版11 第III層出土遺物実測図



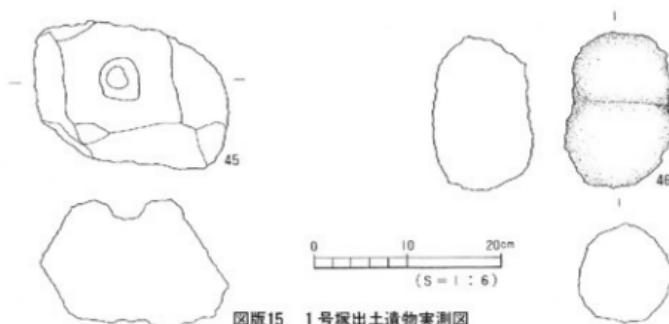
図版12 1号塚平・断面図



図版13 2号塚平・断面図



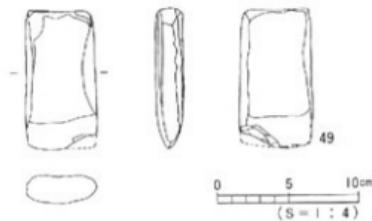
図版14 1号塚出土遺物実測図



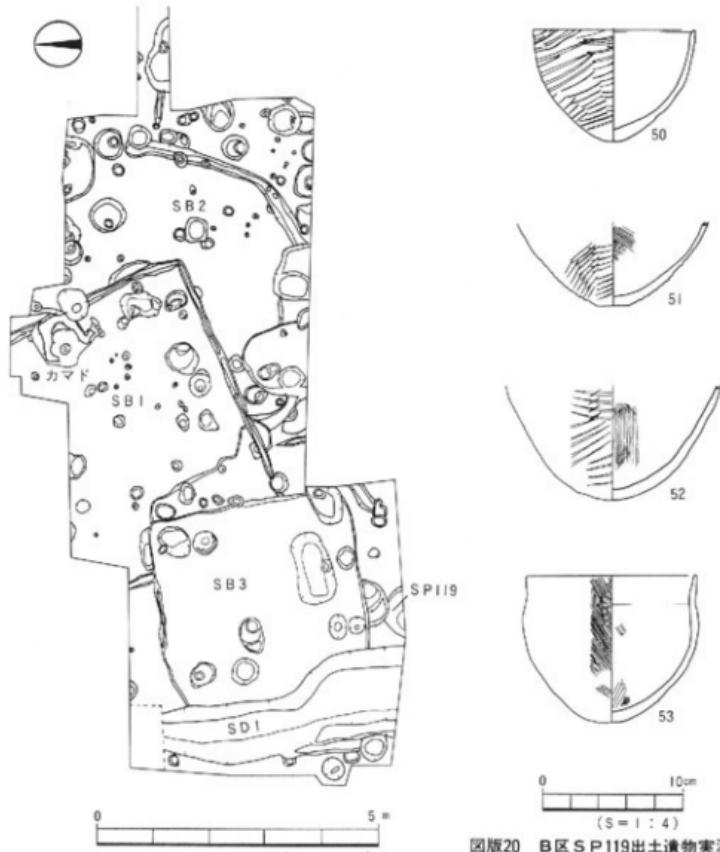
図版15 1号塚出土遺物実測図



図版16 1号塚出土遺物実測図

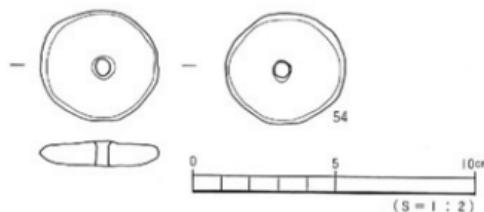


図版17 2号塚出土遺物実測図

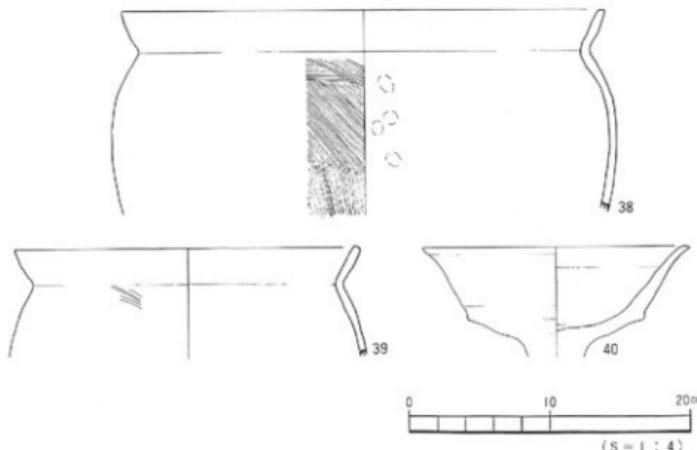


図版19 B区造構配面図

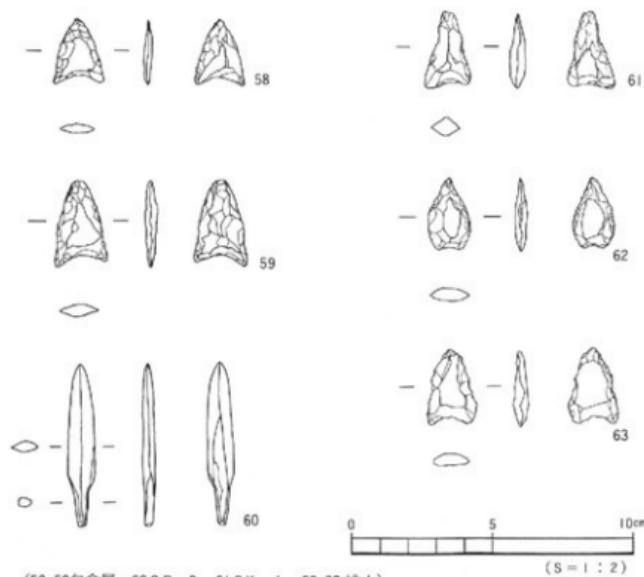
図版20 B区SP119出土遺物実測図



図版21 B区第IV層出土遺物実測図



図版22 B区SB1出土遺物実測図



図版23 B区出土遺物実測図

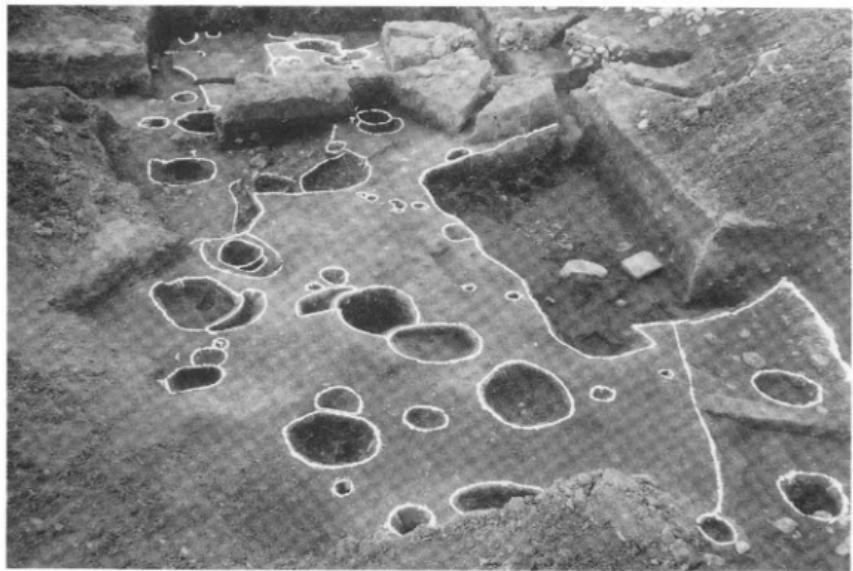


写真1 A区遺構全景（東より）

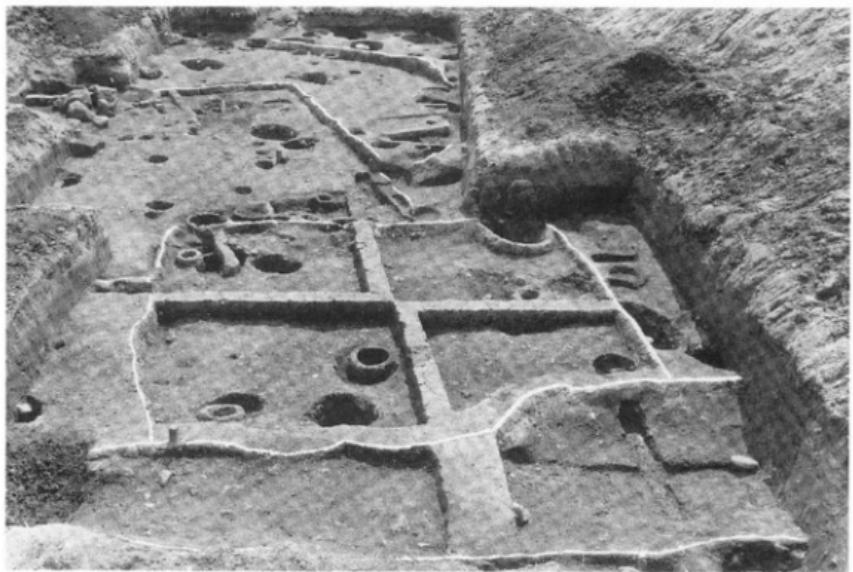


写真2 B区遺構全景（西より）



写真3 A区1号塚検出状況（東より）



写真4 A区2号塚検出状況（西より）



3



5



4

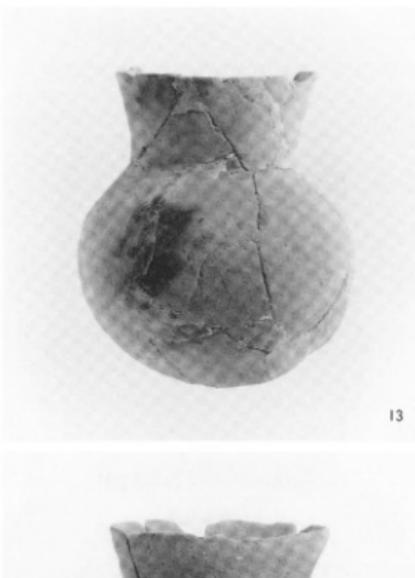


6

写真5 A区SB1出土遺物
— 68 —



10



13



11



14



15

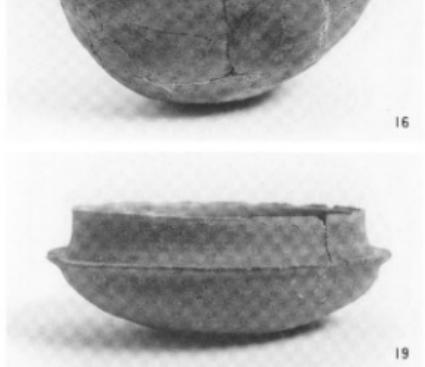
写真6 A区SB2出土遺物



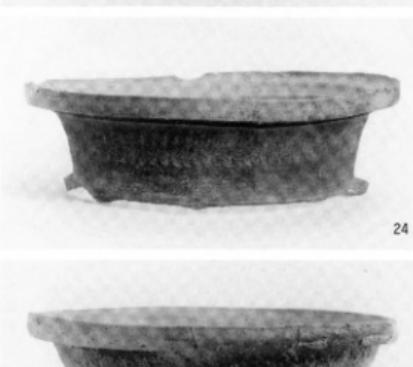
16



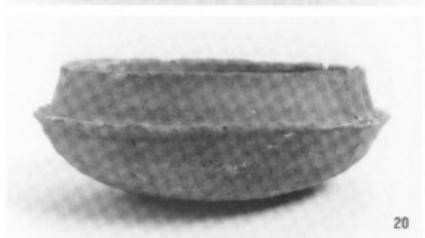
23



19



24



20



25



22



27

写真7 A区第IV層(包含層)出土遺物

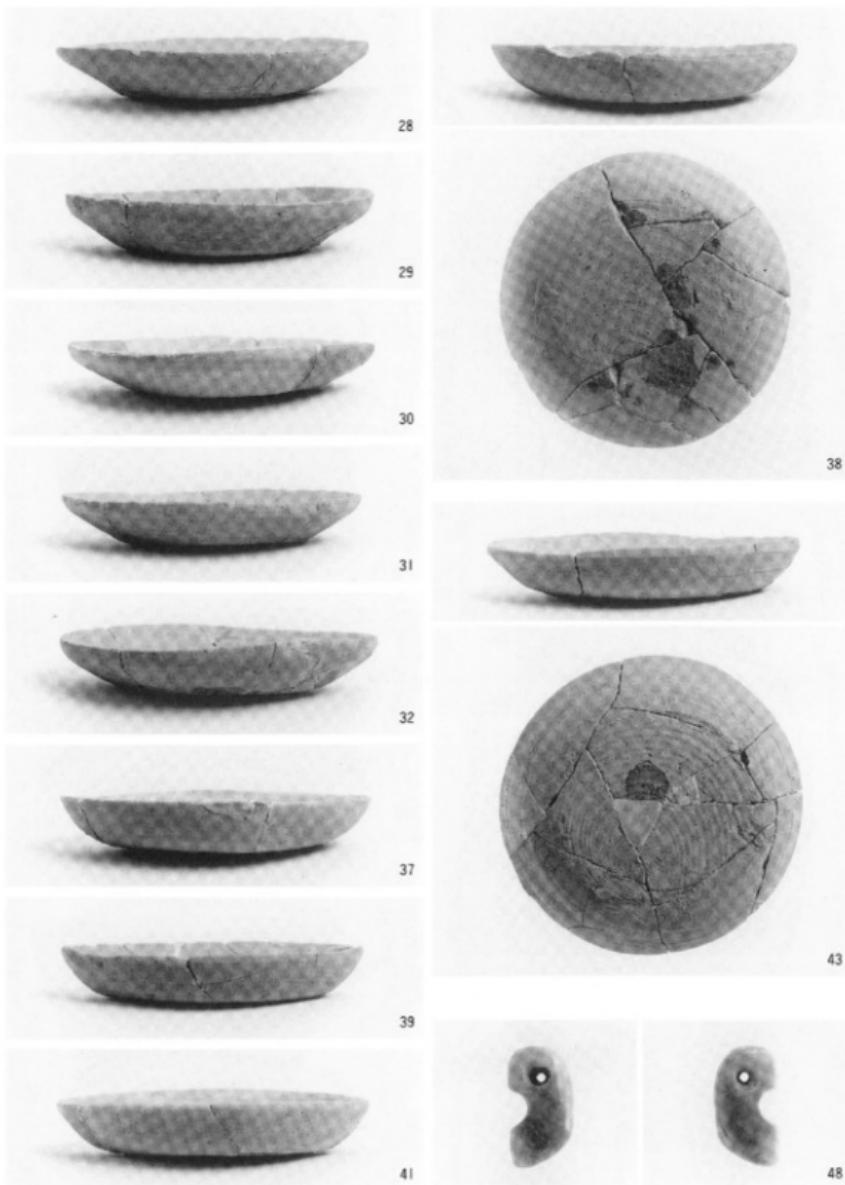


写真8 A区1号塚出土遺物 (28~32、37、39~41、43) A区2号塚出土遺物 (48)

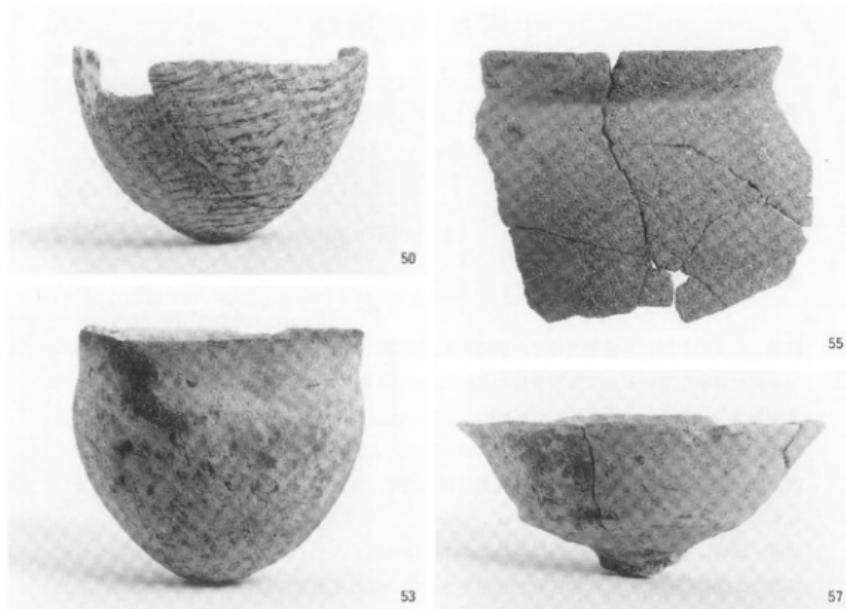


写真9 B区 SP119出土遺物 (50、53) SB1出土遺物 (55、57)

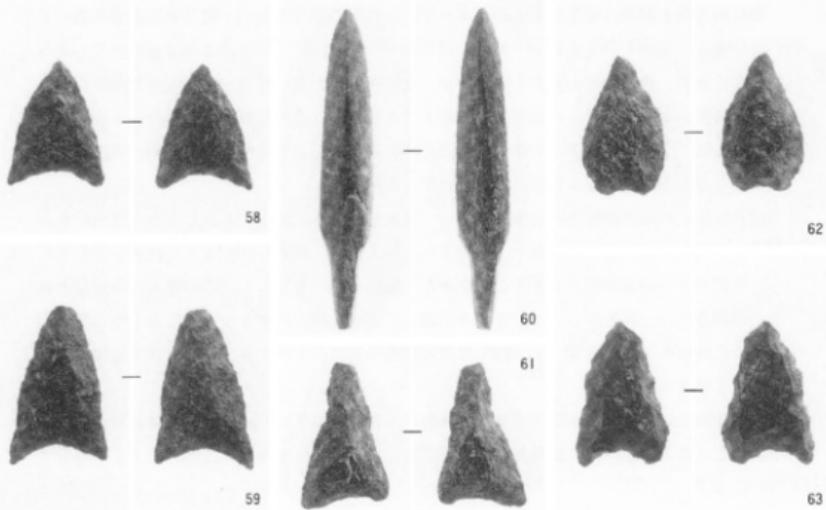


写真10 B区出土遺物 [包含層 (58、59)、SB2 (60)、SK1 (61)、排土 (62、63)]

小坂八斗藪遺跡

所在地 小坂5丁目312-3
期間 平成3年5月20日～
同年7月31日
面積 対象面積 1,064m²
実施面積 900m²
担当 栗田(茂)・山本



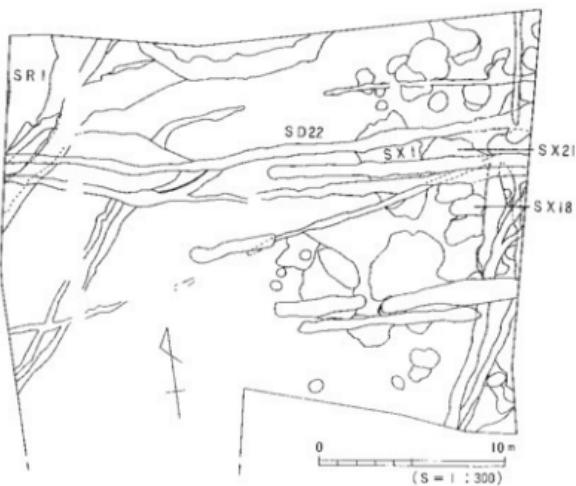
経過 石手川左岸の沖積微高地や、洪積台地縁辺部には弥生時代後期から古代に至る数多くの遺跡が分布している。この石手川の左岸1.2kmに位置する本調査地周辺では、北東300mの弥生集落釜ノ口遺跡、南東500mの弥生時代後期から古墳時代を盛期とした福音小学校構内遺跡の2遺跡がその代表的なものである。調査地は、これらの遺跡が乗る微高地を下った若干の低地、海拔24mに立地している。現地目は水田で、民間の共同住宅建設に伴う緊急調査である。

遺構・遺物 遺物を包含するのは耕作土直下の暗褐色シルトであるが、調査地の大部分は既に削平を受けており、この包含層が遺存するのは調査地北西部の限られた部分である。したがって、遺構の多くは耕作土直下の黄色粘土面で検出された。検出遺構には不整形竪穴遺構や、小規模な溝、自然流路等である。

溝は調査地を東西に横走するものが多いが、これらの溝は後述の不整形竪穴遺構を切っている。遺存の良いものでも幅50~90cm、深さ10~20cmと浅く、削平によって途切れているものもある。遺物の出土も多くはないが、比較的遺存の良いSD-22で和泉型瓦器椀と土師器皿の出土をみており、13世紀代の遺構と考えられる。溝のなかにも新旧の切り合いが随所にみられ、すべての溝をこの時期のものと特定することはできないが、不整形竪穴遺構を切ることから少なくとも8世紀以降のものではある。

21基検出された不整形竪穴遺構の埋土は、暗褐色シルトに地山であるところの黄色粘土がブロック状に多量に混入しており、掘削された後人為的に埋められたような様相を呈している。平面プランの不定形さもさることながら、壠底の凹凸も激しく、この竪穴自体がなんらかの施設やその一部をなしていたとは考え難い。粘土採掘穴のようなものであった可能性がある。これらのうち、SX-1・18・21から須恵器長頸壺を出土しており、8世紀代のものであると考えられる。

自然流路は、調査地北西隅部で北東から南西方向に検出されている。有機物を多量に含んだ黒色土と部分的な砂疊で覆われており、さほど激しい流れではなく、淀みのような部分で

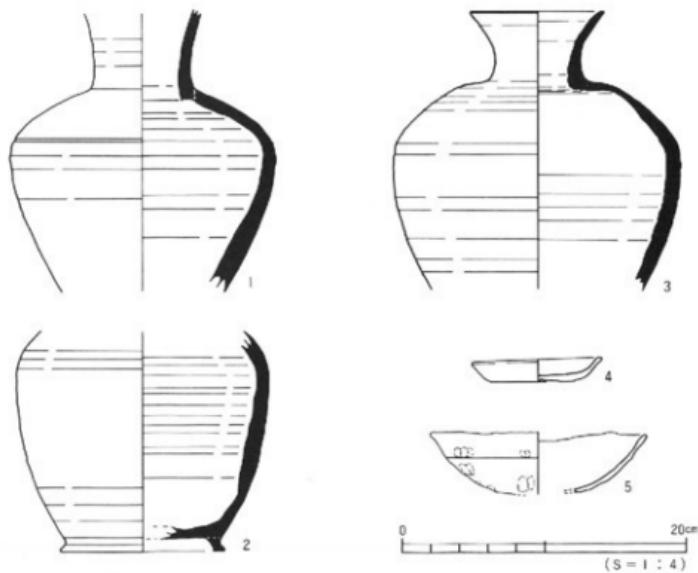


図版1 遺構配置図

あったと考えられる。検出長5mとその一部が調査されたのみで、遺物の出土もないが、先述の溝群に切られることから13世紀代以前のものであることは確かである。

小結 調査地が集落周辺部の低地に位置することは、本年報所載の西天山遺跡2次調査地と同様であり、また、東西方向への流路が検出されていることも同様である。この区域の現状のセンターの入り込み具合からみても、北東から南西方向への比較的緩やかな低地部分が帶状に走っていることは疑いがない。これら各調査検出の小流路を集めてさらに大規模な河川が走り、西方向に展開する沖積低地に流れ込んでいたものと考えられる。

不整形竪穴遺構の性格については断言はできないが、近隣の弥生時代後期集落釜ノ口遺跡内で粘土貯蔵穴といわれる土壙が検出されていたり、また、近年に至るまで屋瓦原料としての粘土採掘が、この地以南の久米、米住地域で行われていたことを考えあわせると8世紀代の上器製作にかかる粘土採掘場であった可能性はある。松山市域南部に展開する須恵器窯址群との関係も含めた検討を要する課題である。



図版2 出土遺物実測図 (①: S XI 18, 21 ②: S XI 1, 21 ③: S XI 1 ④⑤: S D 22出土)



写真1 遺構検出状況



写真2 遺構発掘状況



写真3 SX1遺物出土状況
- 76 -

西天山遺跡2次調査地

●調査地

所在地 小坂5丁目341-4 他3箇
期間 平成3年6月15日～
同年9月7日
面積 対象面積 1,612m²
実施面積 470m²
担当 栗田(茂)・水本



経過 本調査は、小坂5丁目遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は松山平野東部の沖積低地、標高22mに立地し、石手川の左岸約1.1kmの地点にあたり、南方150mには独立丘陵天山をひかえている。東から北東400mには弥生時代後期の集落、釜ノ口遺跡が展開し、北東200mには弥生時代後期から古墳時代の掘立柱建物、土壙、溝が検出された櫻田遺跡、さらに東50mには弥生時代・古墳時代・中世の遺物とともに旧河川の検出をみた西天山遺跡が所在する。また、本年報所載の小坂八田蔵遺跡の北西200mの地点にあたる。

遺構・遺物 調査地の現況は、旧水田面に客土造成がなされており、その層序は、第I層造成土、第II・III層水田耕土、第IV層灰褐色粘質土、第V層暗灰色粘質土(遺物包含層)、第VI層黄灰白色シルト(地山)となっている。遺構はこの第VI層上面で検出された。検出遺構は溝1条、自然流路1条、土壙2基、性格不明遺構6基である。

S D - 1 は調査区中央南寄りを東西に走る溝で、幅2.2m、検出長12.1m、深さは最深部で16cmを測る。断面形は浅い「U」字状を呈し、溝底には拳大から人頭大の円碟が敷きつめられている。これらの碟群とともに僅かではあるが弥生時代後期の土器片を出土しており、該期のなんらかの人的遺構と考えられる。

自然流路 S R - 1 は、調査区南端を東西に走っており、長さ15mにわたって検出された。東200mの西天山遺跡検出の旧河川下流延長部にあたる可能性が高い。この S R - 1 の北岸に接するように2基の不整形土壙が検出されており、弥生時代後期の細片遺物を出土している。

その他、調査区各所に点在する遺構で、その性格がよくわからないものが6基ある。これらの遺構は S X - 7・8 がその典型であるが、断面「U」字状の溝が3~4m内外の規模で馬蹄形状に遡るもので、不整形の溝状遺構 S X - 3~6 も本来同種の遺構であったものと思われる。出土遺物から弥生時代後期に比定される。文京町所在の文京遺跡2次・10次調査や、本調査地北東400mの釜ノ口遺跡6次調査等で該期の祭祀的遺構とされる円形周溝状遺構が検出されているが、これらの遺構は本調査検出の遺構と同規模ながら、溝が正円形に近く全周する点で大きく異なっており、集落内で住居に近接して検出されることも含めて同種の遺構



図版1 基本層位図 ($S = 1:6$)

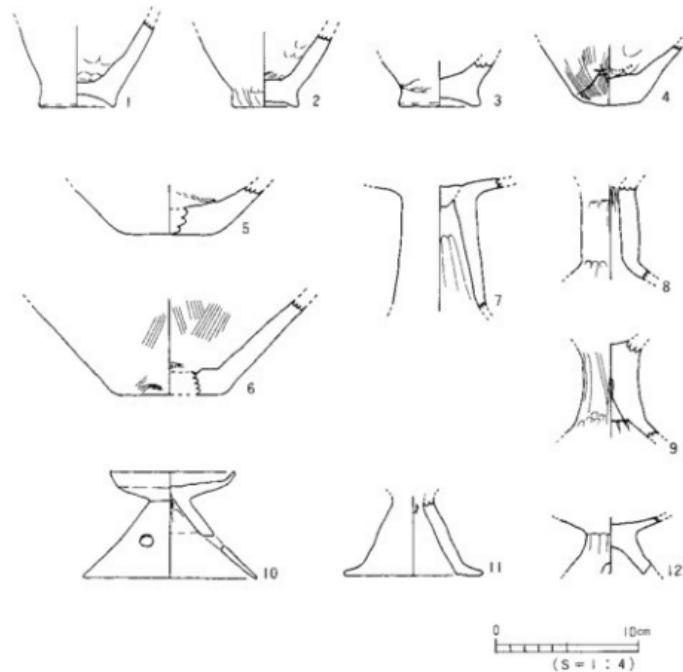


図版2 遺構配置図

として扱うことはできまい。

遺物は弥生時代後期の土器を中心に古墳時代前期、中世の土師器少量を含んで平箱10杯前後出土しているが、そのほとんどは包含層からの出土で、摩滅も著しく流失堆積したものである。

小結　近年、松山平野の弥生時代後期を代表する集落、釜ノ口遺跡周辺部の調査が増加している。本調査でも弥生時代後期から古墳時代前期の遺物の出土をみている。若干の低地に立地することから予測されたように、集落そのものに関連する造構は検出されなかつたが、旧河川の流路の確認、微地形の復元等、集落立地に関わる環境の理解に欠かすことのできない資料が得られた。釜ノ口弥生集落は、道後城北遺跡群がそうであるように個別の調査成果を微視的にみるのではなく、マクロな視点でとらえるべき段階にまで調査成果の蓄積がなされている。近年の周辺部の調査の整理、既往の調査の精密な再整理が急務である。



図版3　包含層出土遺物実測図



写真1 調査地全景（北より）

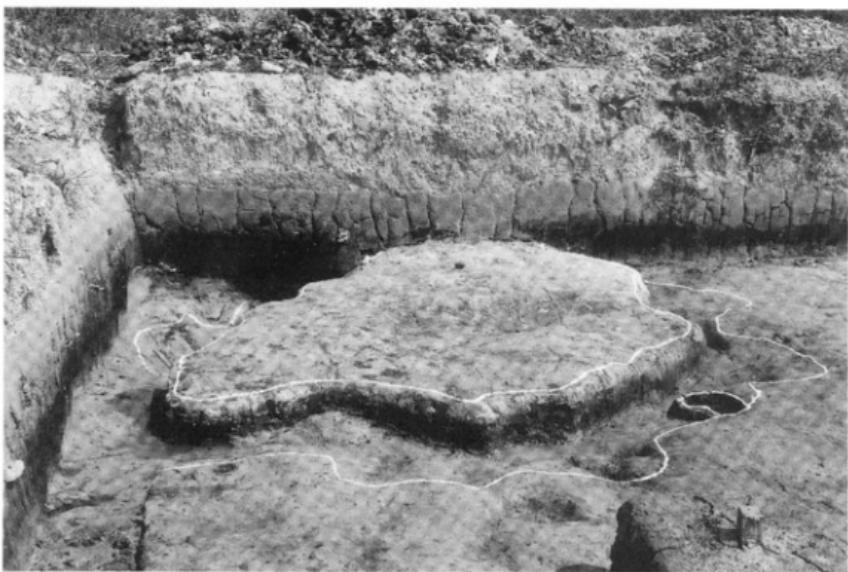


写真2 S X 8 完掘状況（南より）

かいなご3号墳

所在地 平井町乙50・乙39-2

期間 平成3年4月27日～

同年7月8日

面積 対象面積 380m²

実施面積 380m²

担当 田城・大森



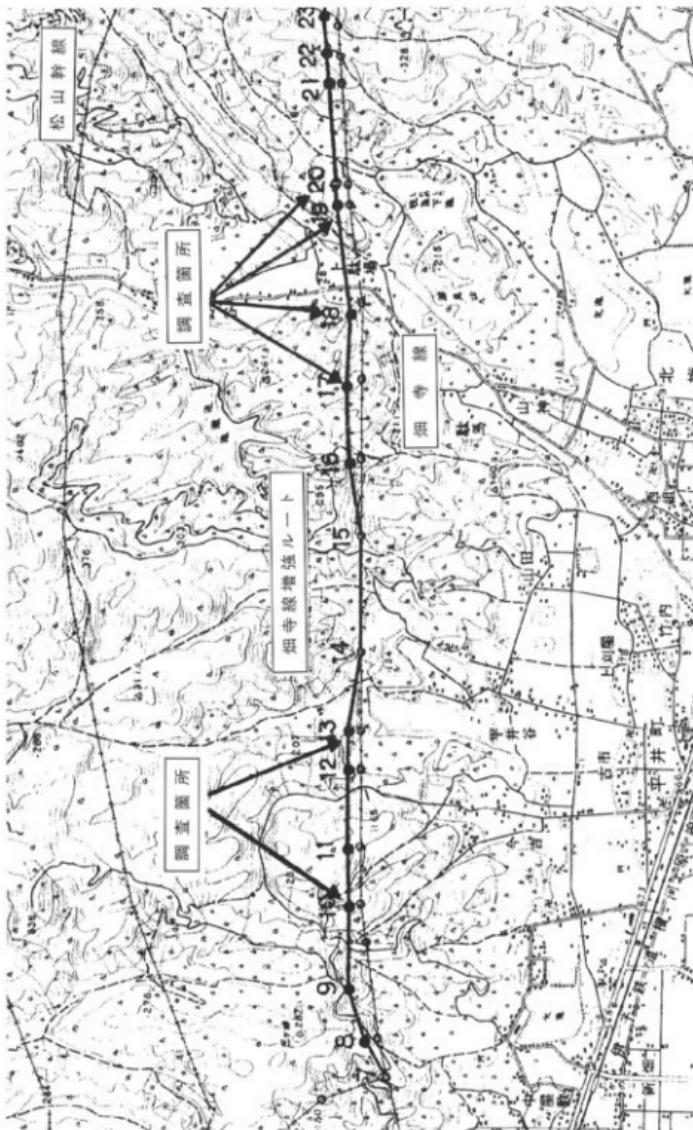
経過 本古墳は、かいなご古墳群遺物包蔵地（愛媛県遺跡分布地図より）内にあり、隣接する丘陵地帯には、平井谷古墳群、芝ヶ峰古墳群、今吉古墳群、牛馬塚古墳群等の遺跡が存在する地域に位置している。

かいなご古墳群には、昭和48年に分布調査が行われ、計20基におよぶ古墳の所在が確認されている。そのうち、2基を「かいなご1・2号墳」として昭和50年度、松山市教育委員会によって調査報告書（第6集）が刊行された。

平成元年、四国電力株式会社より煙寺線鉄塔既設ルート移転事業の申請が提出され、それを受けて松山市教育委員会文化教育課は四国電力立会のもと、平成2年度に鉄塔8～20号移転用地の踏査を実施し、10・13・17～20号の確認調査を行うこととなった。平成3年4月より試掘調査を行い、その結果17～20号用地は最近の果樹園造成時に黄色シルト（地山）面まで削平されており、遺構・遺物の遺存は全く見られなかった。10号用地（かいなご3号墳）では須恵器片を含んだ一条の溝状遺構を確認し、13号用地（平井谷1号墳）からも石庵丁や古墳の石室に使用した石材等が出土したため、この2ヵ所において本格調査を実施することとなった。

遺構・遺物 かいなご3号墳では、調査区のほぼ中央より馬蹄形の周溝及び主体部を検出した（図版2）。主体部の平面プランは、長軸1.2m、短軸0.7mの長方形をなし、主軸N49°Eを測り、周溝の規模から直径約4mの小円墳と考えられた。土壤状の主体部からは、石材を使用した痕跡は確認されず、摺り鉢状の土壇内は、1.5m下層の黄色シルト（地山）まで暗褐色土であった。主体部から検出された遺物は、主体部床面より出土した須恵器片数点のみで、暗褐色土層内からは確認されなかった。なお、本古墳北方10mの位置に2基の古墳、南方30mの位置に直径20m程の横穴式石室を有する古墳1基が本墳と同一丘陵地に立地している。恐らく昭和36年に四国電力が鉄塔を建設した際に、本調査区を削平したものと思われる。この3基の古墳は、調査区外のため踏査による調査のみに止まつたが、すでに盗掘を受け天井石が露出しており、墳丘自体の遺存状態も良くなかった。ただ、調査区南端より上師質の藏

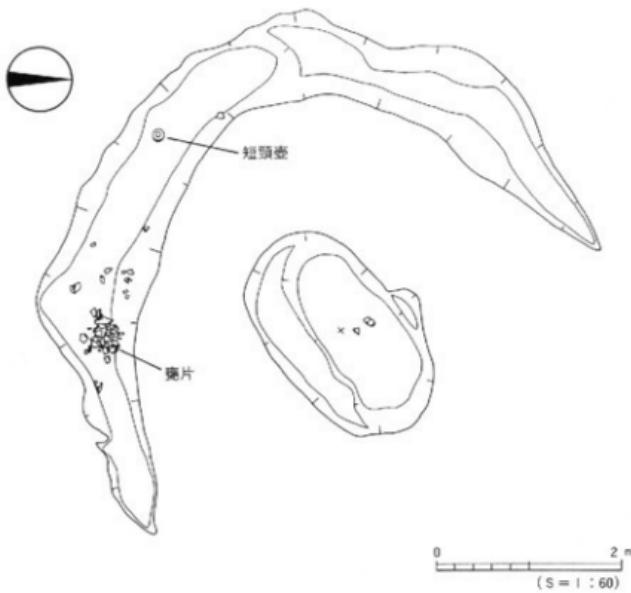
図版 1 四国電力鉄塔新設ルート図及び調査位置図 (No.10.かいなご3号塔、No.13.平井谷1号塔) 四国電力K.K.図提供



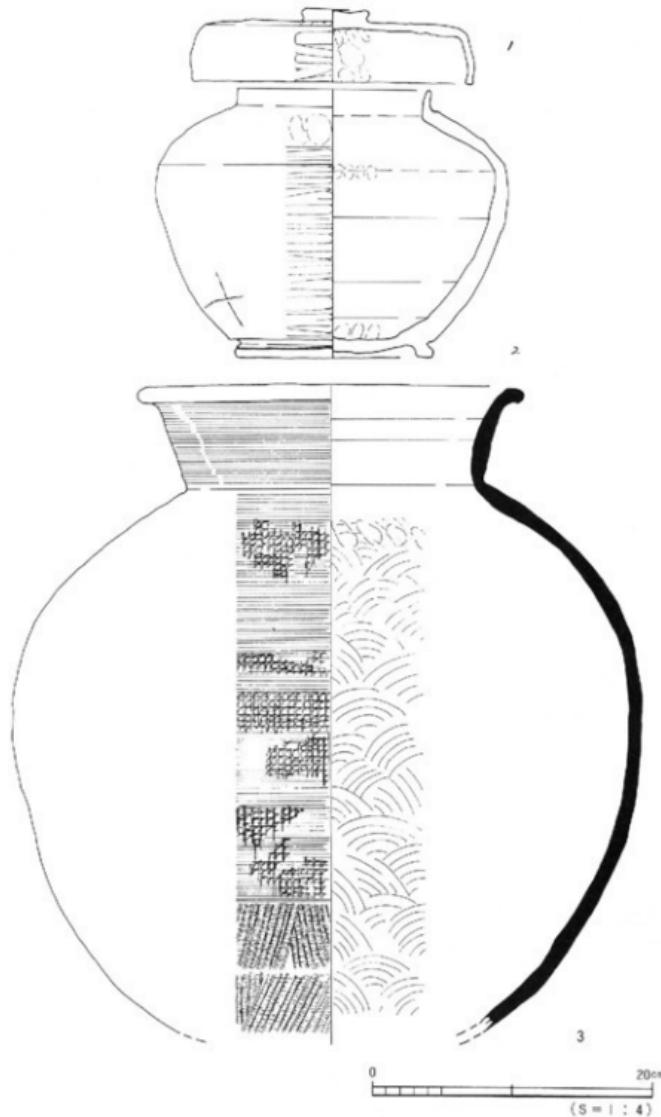
骨器とその収納穴らしき造構を検出したことは、今回の調査において大きな成果と言えよう。

遺物については、3号墳周構内より完形の須恵器短頸壺と碎片の甕が検出された。この周溝出土の甕は、主体部出土の須恵器破片と接合しており、主体部に流入したものと考えられる。これらの出土遺物から本墳は、7世紀前半頃のものと考えられるが、藏骨器については、それ以降の遺物と思われる。

小結 今回の調査で県内でも出上例のまれな藏骨器を検出できたことは、調査報告の希薄な当地域内において貴重な成果といえる。また、藏骨器出土地点より東方7mの地点にその収納穴に使用したと思われるピット状造構一基が確認されたことは特筆すべき事項である。今後、南北に存在する3基の古墳と3号墳及び藏骨器の関連性について全国の藏骨器出土例を参考に研究課題としたい。



図版2 3号墳造構配置図



図版3 出土遺物実測図



写真1 遺構検出状況（南より）

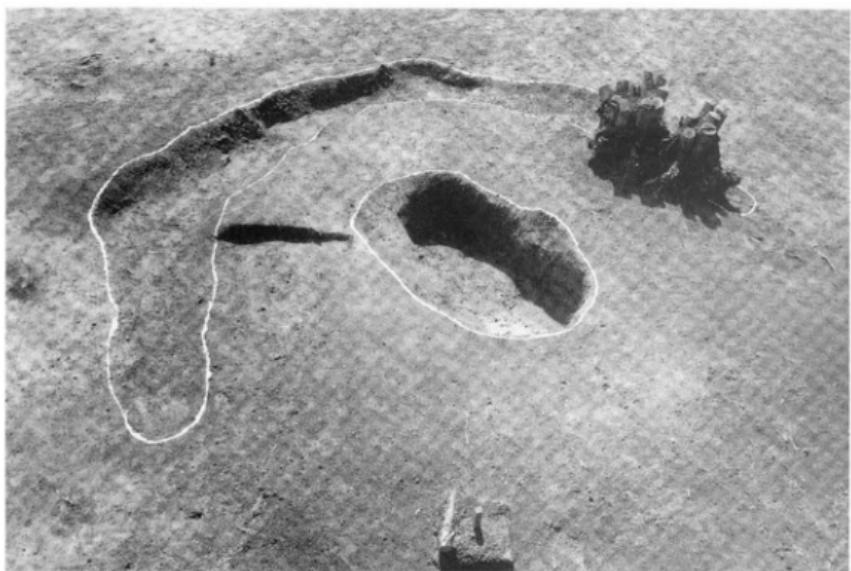


写真2 周溝・主体部検出状況（南より）

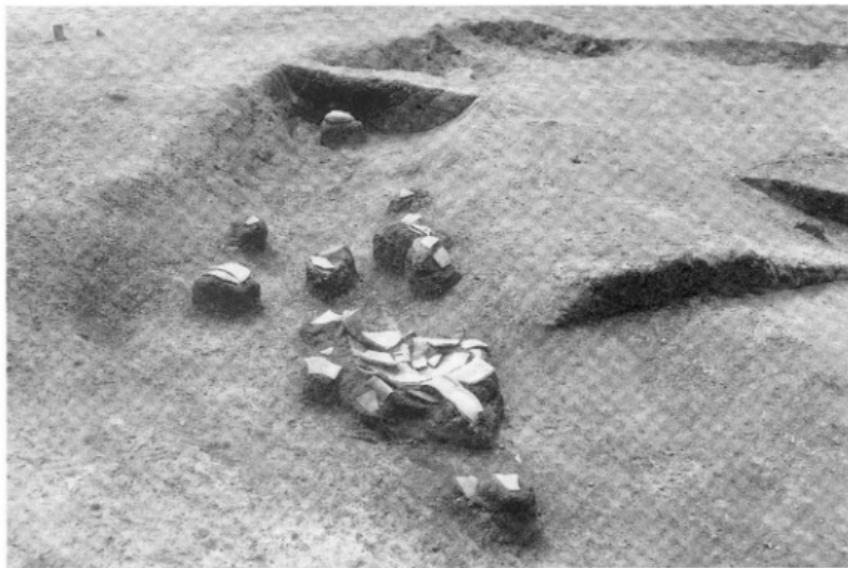


写真3 周溝内遺物出土状況（南より）

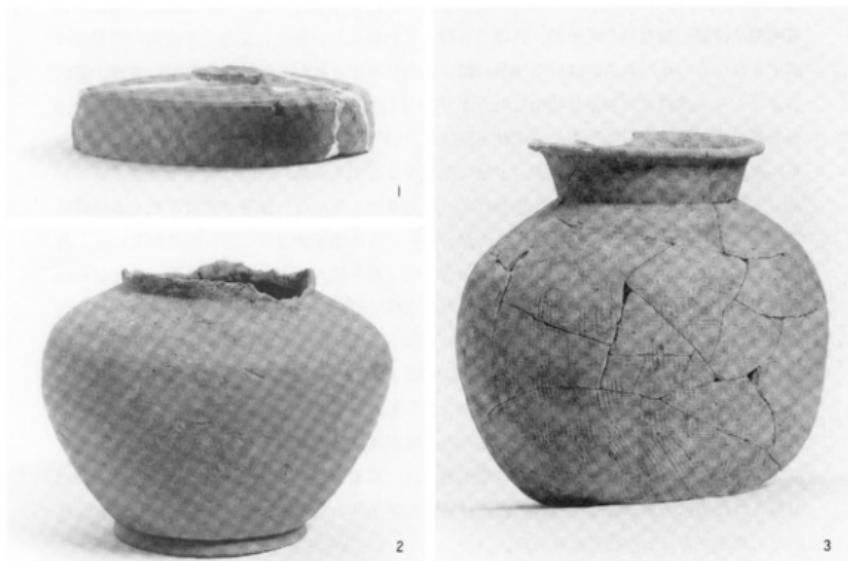


写真5 藏骨器

写真4 周溝内出土壺

平井谷1号墳

所在地 平井町198・乙201

期間 平成3年4月13日～

同年11月7日

面積 対象面積 400m²

実施面積 400m²

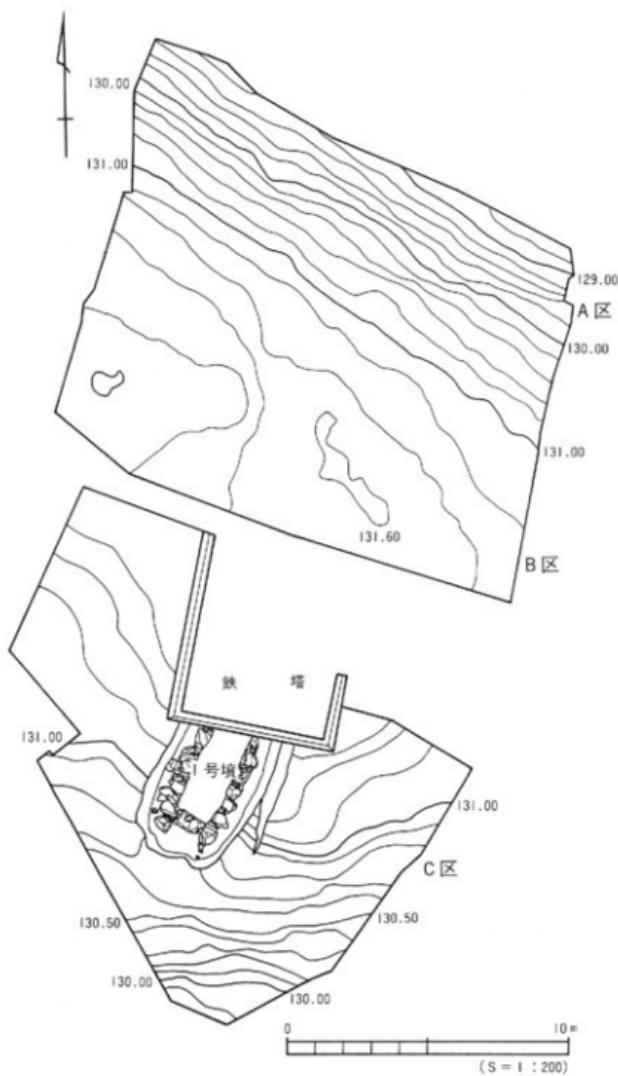
担当 田城・高尾



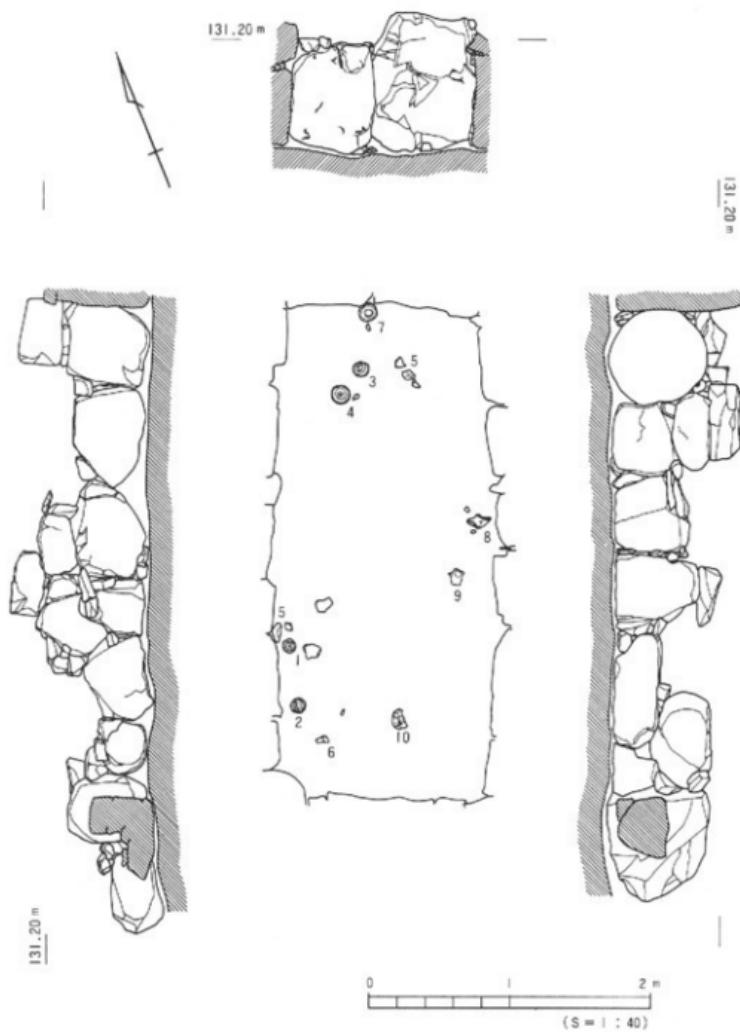
経過 本調査は、四国電力畠寺線における鉄塔建て替え工事に伴う事前調査である。調査地は、平井谷古墳群中の南端、標高132mに立地する古墳である。周辺には檜山峠古墳群・今吉古墳群・かいなご古墳群、また本調査地東1.5kmには、7C後半～8Cにかけて須恵器の生産が営まれた駄馬姥ヶ懐窯跡群等、本調査地周辺の丘陵地には数多くの古墳や窯跡を確認している地域である。なお、本調査地には、かつて五輪塔があったといわれており、現在は地区住民によって調査地の麓に移設されて祭られている。

遺構・遺物 調査区北よりA区、B区鉄塔を挟んでC区とブロック割りをし、A区・B区より調査を開始した。B区からA区にかけて10m間で3mの比高差をもつ急斜面であるため、遺構は、確認されず弥生土器片10数点、石棒1点を検出しただけであった。C区は、現在の鉄塔南側に位置し調査前の段階で、古墳の石材と思われる石が散乱しており果樹園の開墾時に削平されたものか、あるいは鉄塔建築の際に完全に破壊されたものと思われていたが、基底石より1～3段残りの石室を検出した。1号墳の主体部は、玄室長3.5m、幅1.5m、玄門幅1.0mを測る両袖型横穴石室である。主軸方向は、N21°Eとは北東にとり、南南西に開口する。造存状況は、良好とは言えず、主軸に直交する形で1m幅の溝状に数ヶ所擾乱されており、これは果樹園耕作時のものと思われる。また奥壁上部には、鉄塔が建設されており鉄塔建設時に大きく破壊が行なわれたものと思われる。主体部床面は3つに区画されている。奥壁から2.0mまでの区画には、20cm～30cm角の割り石を敷きその上に河原石を、それから0.8mの位置で30cm角程の扁平な割り石を横置きに並べて区画し河原石を敷いている。それより閉塞石までの区画には敷石は敷かれていません。出土遺物は、須恵器の环蓋3点、环身2点、短頭壺1点、土師器の小型丸底壺1点、鉄鑓耳環8点を検出した。

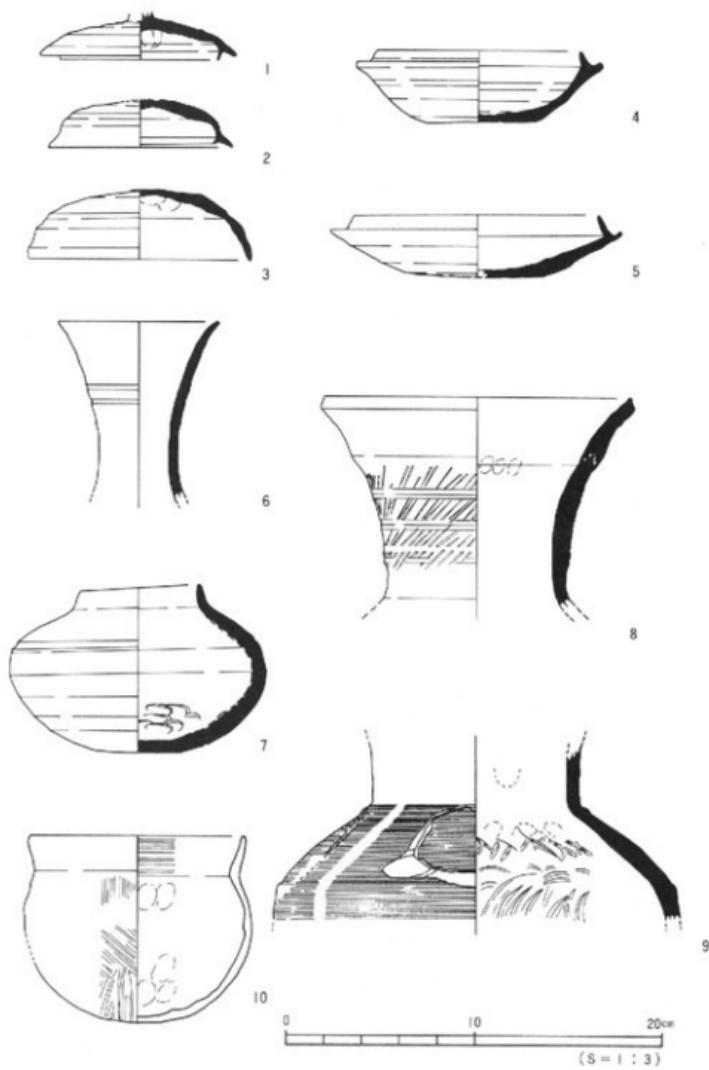
小結 これまで調査地周辺の発掘事例は少なく分布調査だけに終わっており、今回の調査において古墳の主体部を検出したが、上述の如く残存部はわずかであった。主体部からの出土遺物より6世紀末ころに構築された古墳と思われ、耳環等の出土状況から時期を隔てて数回追葬されたものと思われる。なお、版築は果樹園開墾等の削平により、また周溝は調査区外のため確認することが出来なかった。



图版 1 地形测量全测图 (完掘状况)



图版2 1号墳横穴式石室測量図



図版3 主体部出土遺物実測図



写真1 1号墳主体部（南より）



写真2 1号墳主体部遺物出土状況

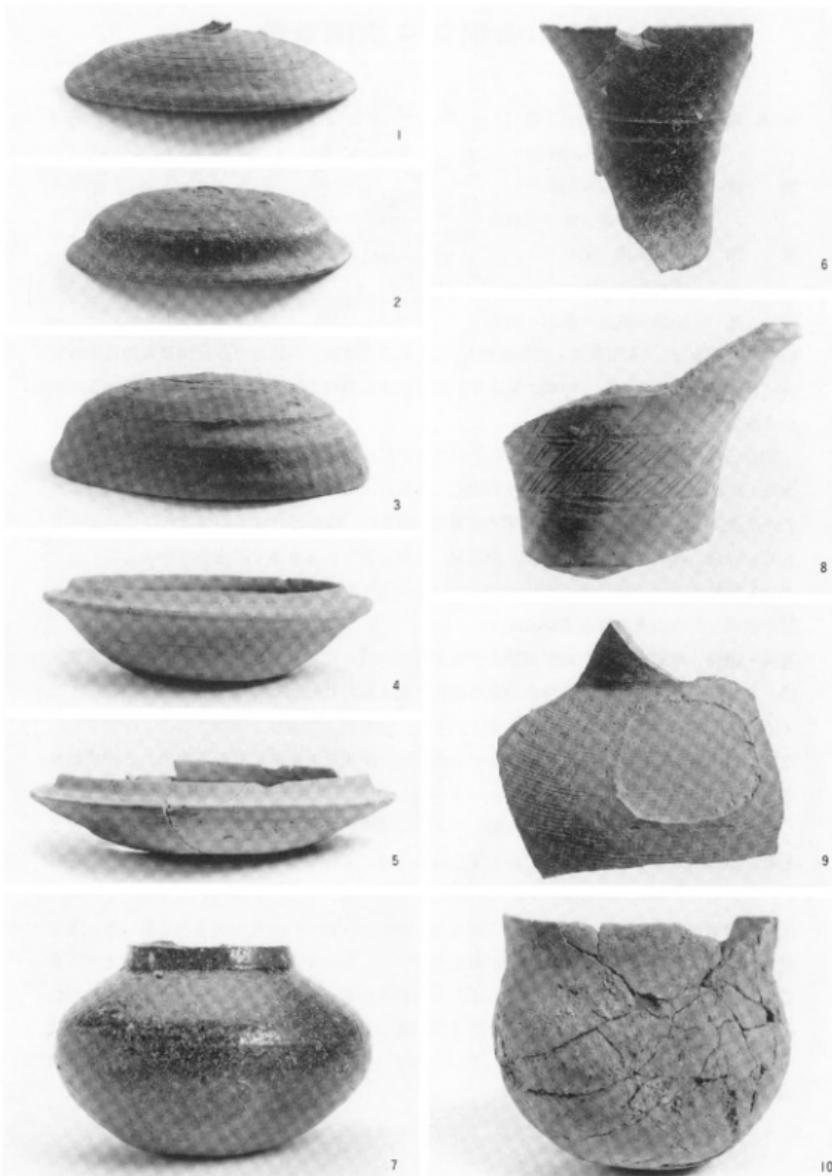


写真3 主体部出土遺物

東山古墳群4次調査地

所在地 東石井町乙39-2他
(星岡公園内)

期間 平成2年12月23日～
同3年3月31日

面積 対象面積 700m²
実施面積 700m²

担当 田城・高尾・真木・大森



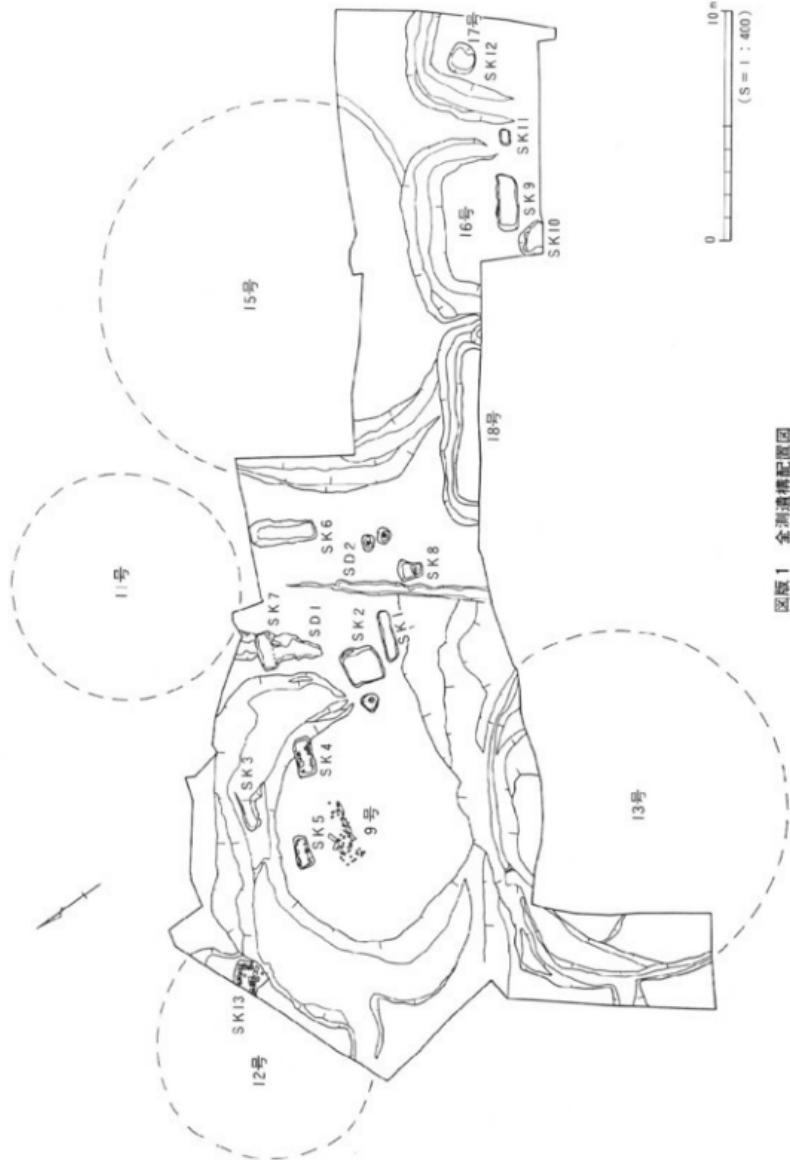
経過 本調査は、「東山縄文・弥生遺物包含地 東山古墳群」内における公園整備進入路の建設に伴う事前調査である。平成2年6月、踏査による調査を実施し、石室2基、須恵器片数点を確認した。

調査地は、松山平野のはば中央、石手川と重信川に挟まれた洪積台地上にあり、天山・土巣山・星岡山等と共に分離独立丘陵を形成し、海拔32~44mの緩斜面上に位置する。周辺には、竹ノ下遺跡、筋違遺跡、福音小学校構内遺跡等が点在し、弥生時代から古墳時代にかけての堅穴式住居跡、掘立柱建物跡、土壙、環濠等、集落にまつわる数多くの遺構を検出している。また、隣接する北西部には、昭和53~54年にかけて2度の調査の結果、古墳8基、土壙6基等を確認した東山鳩が森古墳がある。

遺構・遺物 本調査では、地形測量を含め10基の古墳と13基の土壙を確認し、須恵器の甕、壺、高环、环身等の完形品を含め多数の遺物を出土した(図版2、3)。検出された遺構は、1次2次調査の結果を受け9号墳からネイミングし、18号墳まで遺存を確認することができた。ただ、調査区が園路幅4m、全長175mとほとんどが墳丘の裾部に当たるため、9号墳以外の古墳はすべて周溝の一部の調査にとどまった。

9号墳は、調査区のはば中央に位置している。墳丘の盛土は中近世の段階で削平を受けており、主体部はほとんど遺存しておらず、自然石塊による基底石をわずかに残すのみであった。基底部は、40×15×15cm大の長方形で、南側に3個、北側に4個残存しただけで、奥壁、閉塞等の石材は検出されなかった。主体部の床面には、10~15cm大の河原石を敷いていたと思われる痕跡があり、数十個の小石が散乱していた。状況から、主軸を東西方向にとり、長さ270cm、幅60cmほどの石室があったことが推測される。また、主体部に残された石の形状や周辺の土壤状遺構等から自然石塊による堅穴式石室、ないしは礫構ということも考えられ、東山古墳群での新たな一形態が存在していたのではないか、今後の調査結果をふまえた検討が急務である。

9号墳に付随する周溝については、主体部東部から南西部にかけて馬蹄形状に検出され、



图版1 金洲金矿配置图

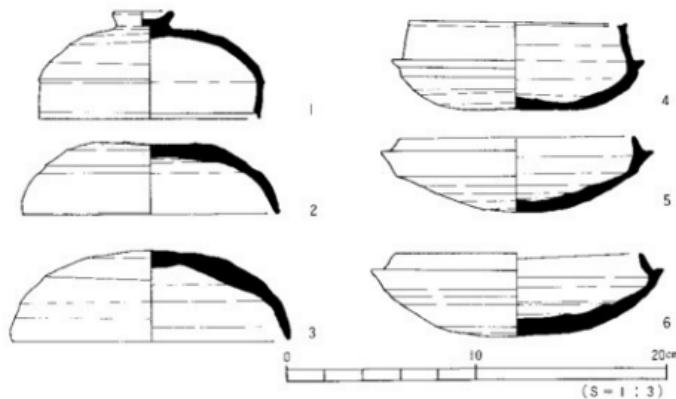
周溝の内側から主体部中心までの距離約4m、周溝幅6m、よって、9号墳の規模は、直径9~10mの円墳と考えられる。なお、本墳北西部の周溝が一部12号墳の周溝と切りあい関係にあり、9号墳が12号墳の周溝に切られる形で検出されている。

遺物の検出は、主体部からは大きく破壊されていたため全く見られなかつたが、主体部北側周溝内より須恵器の壺・壺・高杯・环身・环蓋・匙等、6世紀から7世紀前半と思われる完形品を含めた多数の遺物を出土した。

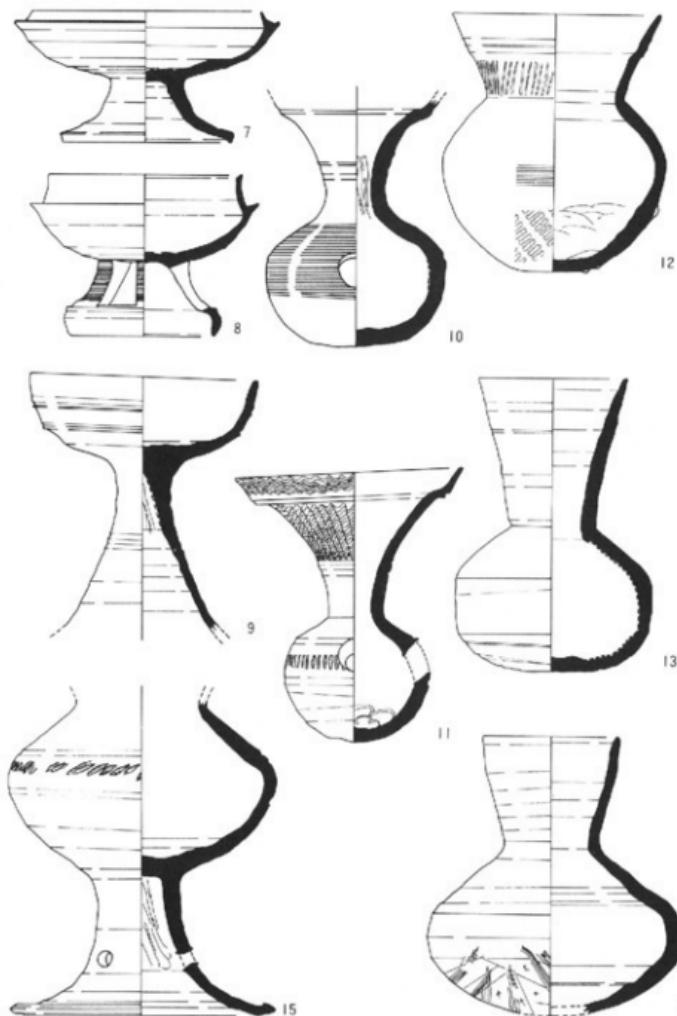
次に上塙状造構であるが、13基のうちSK3・4の2基は、9号墳主体部と同様自然石塊を壁面に敷き、長軸160cm、短軸80cmの規模を持つ方形状の上塙である。SK13についても、調査区の関係で全容は明らかでないが、同様の規模・形態を持つものと思われる。出土遺物の少なかった土塙の中で、SK6は特異であった。長軸280cm、短軸100cmの長方形と土塙にしては少し大型で、出土遺物も土師器の高杯2点、短頸壺、縁、玉類等の遺物が検出された。

小結 今回の調査は、調査区が公園の園路部分のみという限られた範囲ではあったが、松山市の協力もあって10基にも及ぶ古墳の存在を確認することができた。ほとんどが周溝の確認及び周溝からの遺物の検出で、主体部の調査は1基だけに終わったものの、各周溝から出土した遺物は古墳時代後期のほぼ全域にわたっており、5世紀後半から7世紀に跨る墳墓形態が東山古墳群内に存在していたことが明らかとなった。

中でも9号墳における石室は、切石や割石が周囲に全く見られないところから、自然石塊によるものと思われ、SK3・4・6・13との関連性についても今後予定されている5次・6次調査の結果待ち解明すべき課題である。



図版2 出土遺物実測図



(1・2・3・8・9・10・12・13・16、9号周溝内
(11・14、15号周溝内、4・5・6・7、16号周溝内出土)

图版3 出土造物实测图



写真1 9号墳発掘状況（南より）

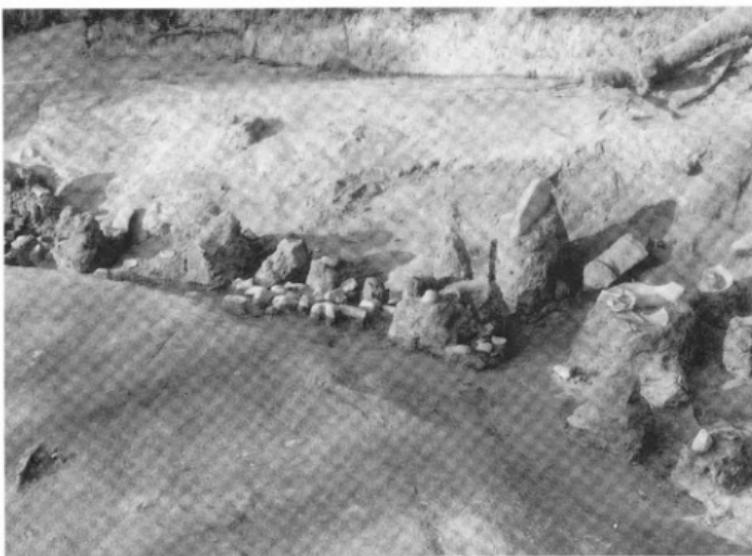


写真2 周溝内遺物出土状況（南より）

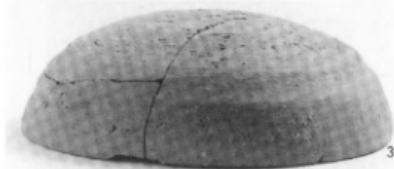


写真3 出土遺物
— 98 —

久米高畠遺跡21次調査地

所在地 来住町877
期間 平成3年9月7日～
同年9月30日
面積 対象面積 196m²
実施面積 68m²
担当 栗田（正）・河野

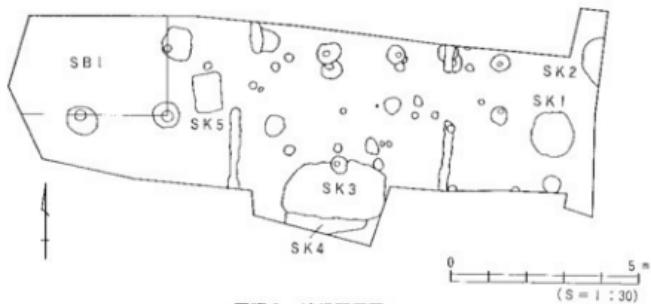


経過 本調査地は、松山平野の米住台地上の久米官衙遺跡群内にあり、平成元年度に調査した久米高畠遺跡11次調査地の東4m、標高39.0mに位置している。西北部には「久米評」線刻須恵器出土地、南部には方一町規模に区画された回廊状遺構と史跡「米住庵寺跡」がある。

久米高畠遺跡1次・11次調査から、一片44mの柵列に方形区画された遺構と区画内に正殿的建物や同一軸の数棟の建物が検出されている。近年の調査成果から、同台地上には7世紀代における官衙の方形区画地が複数確認されており、松山平野において重要な地域である。



図版1 久米高畠遺跡11次・21次調査位置図



図版2 遺構配置図

本調査地は民間の宅地開発に伴う緊急発掘調査である。

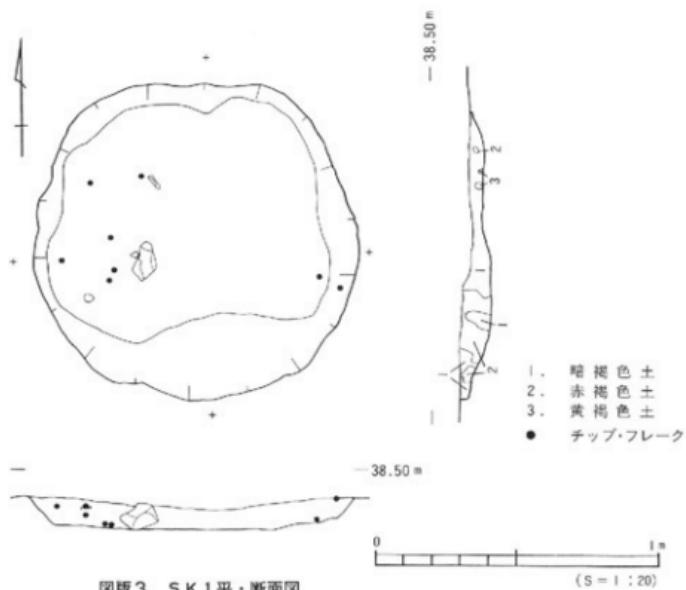
遺構・遺物 基本層序は、第1層造成土、第2層旧耕作土、第3層黄褐色土（地山）である。調査地内西側約 $\frac{1}{2}$ は、中近世に削平を受け東側より約10cm低くなっている。検出された遺構は、掘立柱建物跡（SB）1棟、土坑遺構（SK）5基、柱穴（SP）遺構37基、近世以後の飲溝4条、不明遺構1基である。

SK-1は、直径1.5m深さ11cmを測る円形土坑であり、甕底部片（図版7-1・2）とチャート破片が出土した。SK-2も円形土坑で半分は調査区外である。推定直径1.2m深さ15cmを測り、弥生式土器片（図版7-3）、チャート破片、若干のサヌカイト破片が出土した。SK-3は、長軸2.6m短軸1.4m深さ約11cmを測る隅丸長方形の土坑で、SK-4を切り検出された。SK-3からは、L字口縁下に刺突文と5条の沈線をめぐらす弥生中期初頭の甕（図版7-4）のほかチャート製錐先端部、多数のチャート刺片・破片の他、若干ではあるがサヌカイト破片、安山岩破片が出土した。

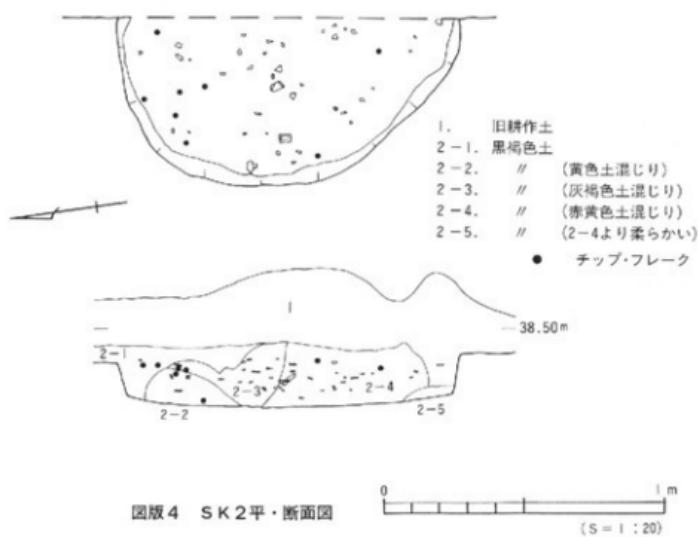
SK-5は、SB-1の東にある隅丸長方形の土坑で、長軸95cm短軸75cm深さ1.4mを測り、検出面より深さ22cmで円形の焼土層を確認した。焼土層からは須恵器片（図版7-13～16）、下層からは弥生式土器片（図版7-10～12）が出土した。チャートとサヌカイト破片は上下層に関係なく出土し、サヌカイト石鏃1点（図版7-17）、叩石（砂岩質）1点も出土し、6世紀末の素掘り井戸と考えられる。

SB-1は、調査区西で建物南東隅柱穴3基分を検出し、南北柱間1.65m東西柱間2.35mを測り、柱穴から須恵器片、弥生式土器片、チャート破片、サヌカイト破片が出土した。

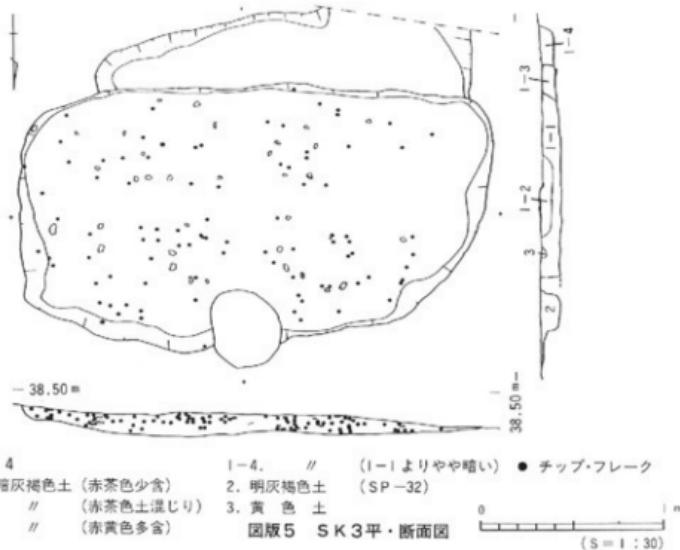
小結 本調査地はチャートを主体とする石器製作場所であった可能性が高く、サヌカイトの石器製作場所は「来住庵寺跡」周辺で確認しており、来住台地上における石器製作の分布構成を考える上で大変興味深い。土坑からの出土土器の中に貝殻条痕のみられる凸縁土器小片があり、本調査地周辺において縄文晩期遺跡の存在を窺い知ることができる。SB-1の時期決定は難しいが、方形区画外において掘立柱建物を確認できたことは貴重な資料となり、今後この周辺部での詳細な調査結果が必要である。



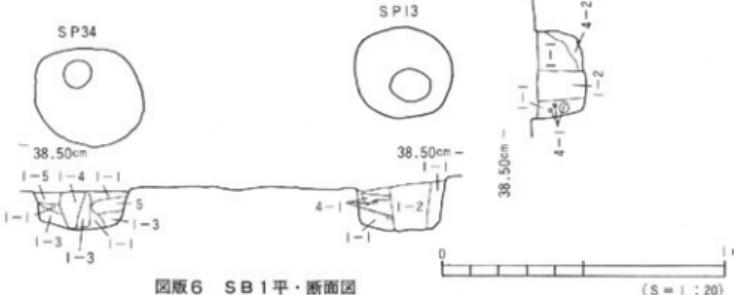
図版3 SK1平・断面図

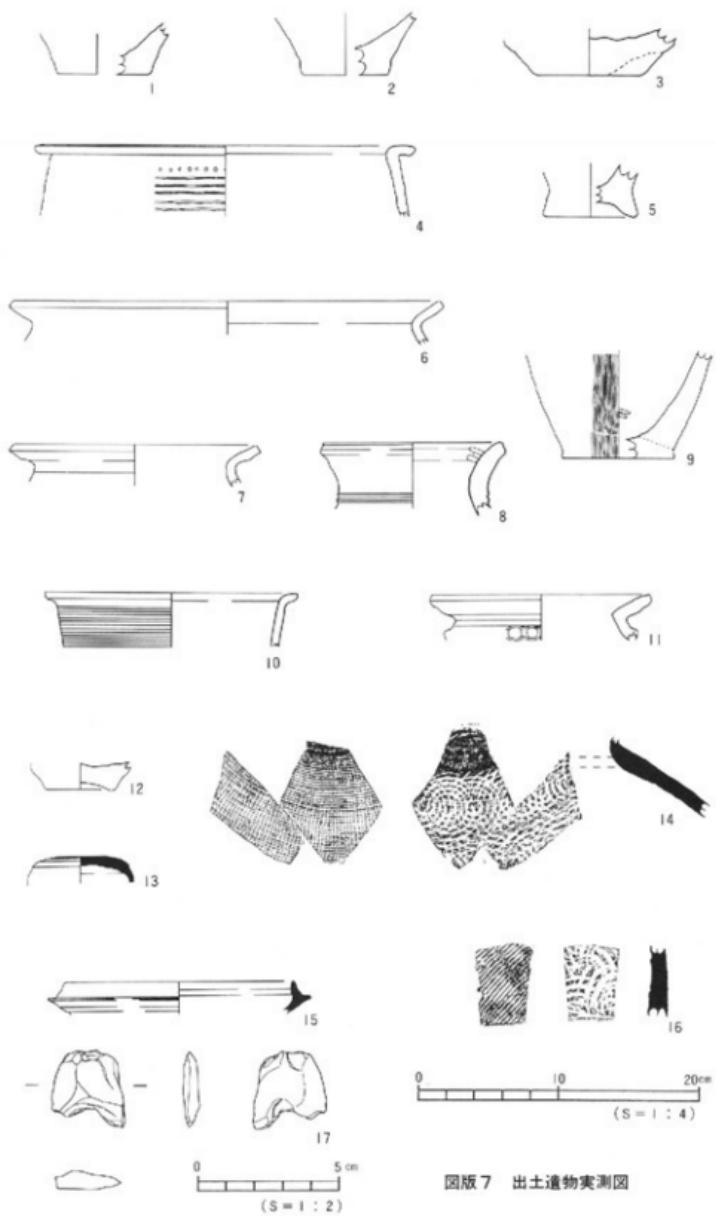


図版4 SK2平・断面図



- I-1. 黒褐色土 (やや灰茶色強く、黄色
 I-2. // 0.5~1cm多含)
 I-3. // (暗灰色土混じり)
 I-4. // (黑色強く、明黄色0.5cm
 I-5. // (赤茶色2cm大混じり)
 2. 暗灰褐色土
 3. 増灰茶褐色土 (黄色砂粒0.5cm大少含)
 4-1 明黄色土
 4-2 // (暗灰色土混じり)
 5. 黄茶色土





図版7 出土遺物実測図

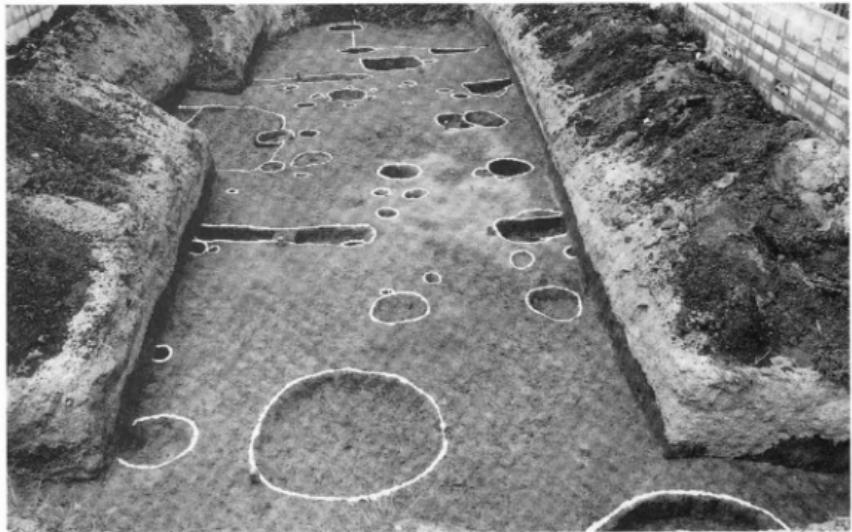


写真1 調査区全景（東より）

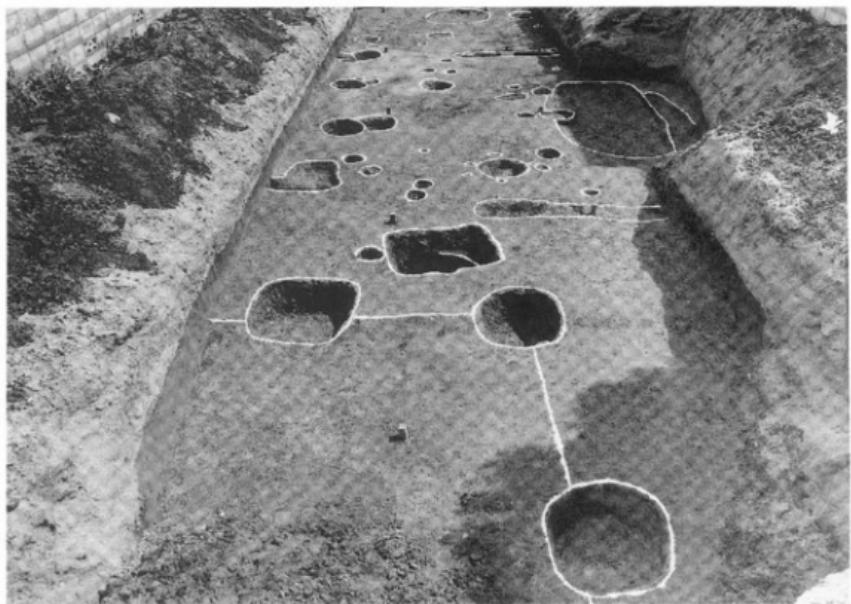


写真2 調査区全景（西より）
- 104 -



写真3 SK3検出状況（北より）

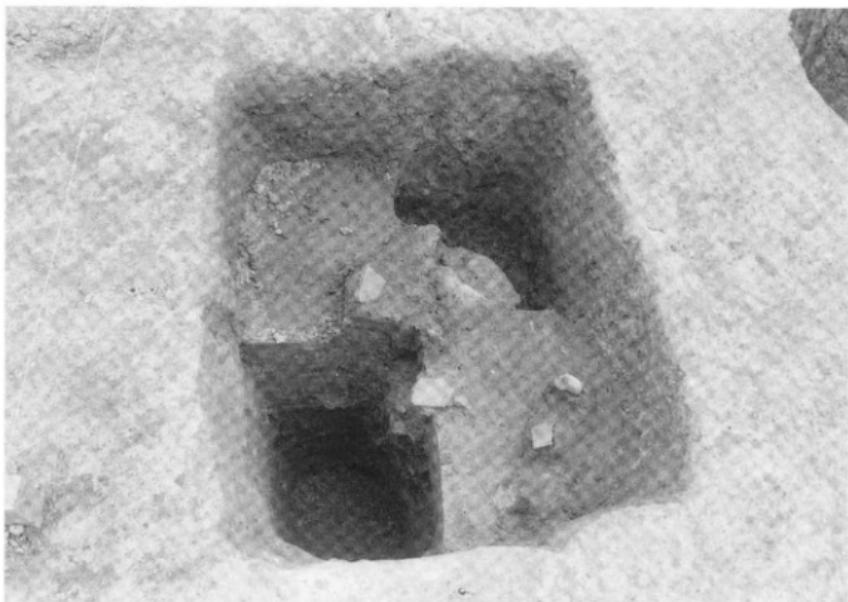


写真4 SK5検出状況（北より）

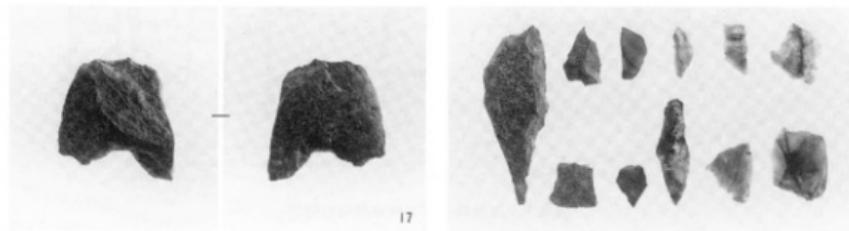
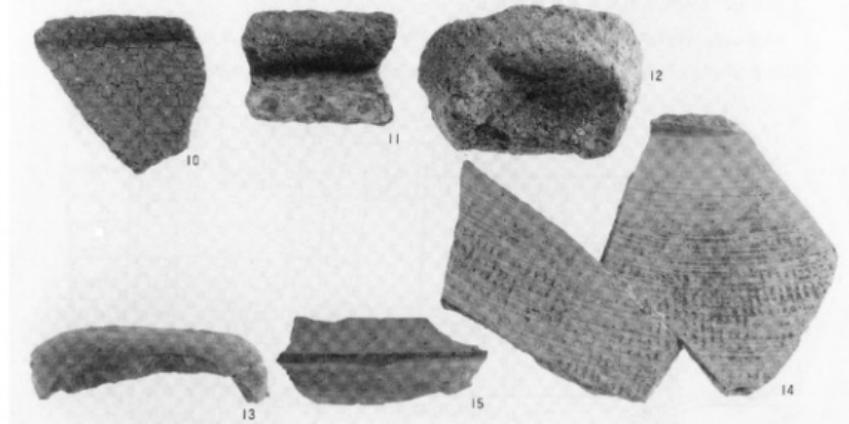
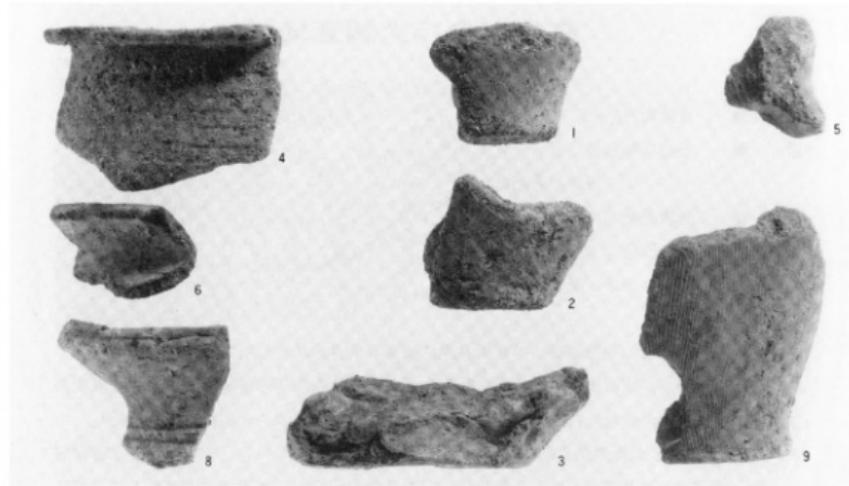


写真5 出土遺物

来住廃寺15次調査地

所在地 来住町798-1 他7筆
 期間 平成3年8月1日～
 同年12月26日
 面積 対象面積 3,174m²
 実施面積 1,600m²
 担当 西尾・山本・真木・岡根



経過 本遺跡は、松山平野東部、小野川右岸に面する来住舌状台地の南西辺部（標高33.4～37.7m）に立地し、同台地上には、縄文時期をはじめとする各期の遺跡が集中する地域である。当調査地北側隣接地には、来住廃寺のほか近年、方一町規模の回廊状遺構を発見し、中から大型建物（「松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ」参照）を確認している。また同廃寺を含む西北一帯、東西約5町範囲からは、7世紀代の官衙に関する遺跡（久米官衙遺跡群：同年報Ⅱ・Ⅲ参照）が発見されている地域である。

調査地は、同台地南辺部の落ち際に当たる場所で、南西下がりの三段の段状地形になる水田地を行った。調査要因は、三菱自動車工業株式会社の店舗建設に伴う事前緊急調査である。



図版1 回廊状遺構と来住廃寺位置図

遺構・遺物 層序は、第一層 耕作土(25cm前後)、第2層 茶褐色土(7~30cm)須恵器、瓦片、陶磁器等を含む。第3層 暗褐色土(40cm前後)、第4層 暗灰褐色土(30cm)、第5層 暗灰褐色礫混土(30cm)第6層 黄褐色土(地山)である。(ただし、各地区の上段部は第3層が黄褐色土の地山である。)

遺構は、溝40条、土壤墓19基、土壙15基、掘立柱建物2棟、柵列4条、柱穴550基の外、1区下段及び3区最下段から土器溜りや木器類が集中的に出土した。これらのうち土壙墓は、1~2区上中段から、検出したもので、方形又は長方形(幅0.6~0.8m、長さ0.95~1.3m、深さ15~65cm)、横円形(長径1m前後、短径0.8前後)で、中から人骨や副葬品類(江戸初期)が出土した。検出の溝では、SD-10・37・38から来住庵寺存続期の瓦類が出土している。

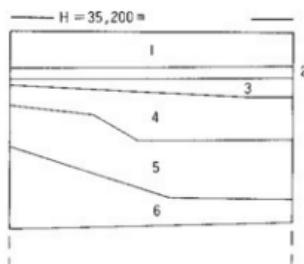
また、検出掘立柱建物のうちSB-1及びSA-1・2・4は、SD-10と同一軸方向の建物として注目される。これらの外、3区最下段からは、後述の多量の遺物を包含する台地落ち際の堆積土(泥炭層)を分層(挿図参照)した。

遺物(図6)の出土状況は、調査区の上中段と下段、更に、上中段については西側(1・2・3A区)と東側(3B・4・5区)でも異なる。まず、西側上中段では近世の墓に伴う副葬品として陶磁器や土師器の椀、皿、漆器椀、寛永通寶が出土している。

次に、東側上中段の落ち際や溝状遺構では弥生時代から近現代にかけての土器が混在した状態で出土した。その中でも特に布目瓦や中世土器(1~5)の出土がある。下段では、1区の上器溜りより弥生土器(前期末~中期前半)の壺6や甕が出土した。

最後に3区では、復土を除いた状態により3層の堆積[図3]が見られ、第4層からは、軒丸瓦14・15、平瓦、黒色土器、土師器の皿8、椀9が出土した。第5層では、須恵器(6世紀後葉~7世紀前葉)の壺身12・13、壺蓋10・11、高环、腹、甕等が出土した。これらの土器類の他に、木製品(木簡状木製品、壺鏡、経巻き具、日盛板、下駄、横桶、鉢等)や植物種子の多くがこの層に集中しており、加えて獸骨や用途不明の石製品も数点出土した。第6層では弥生式土器(中期後葉)の壺7、高环、甕、鉢が一括出土した。

小結 本調査地は、前述のように回廊状遺構もしくは米住庵寺の近接地で台地の落ち際に当



1. 灰色土(耕作土)
2. 暗灰色土(床土)
3. 暗灰色砂質土(粘土を少量含む)
4. 暗灰色粘質土(砂質土を含む)
5. ④よりやや黒い
6. 黒色粘質土

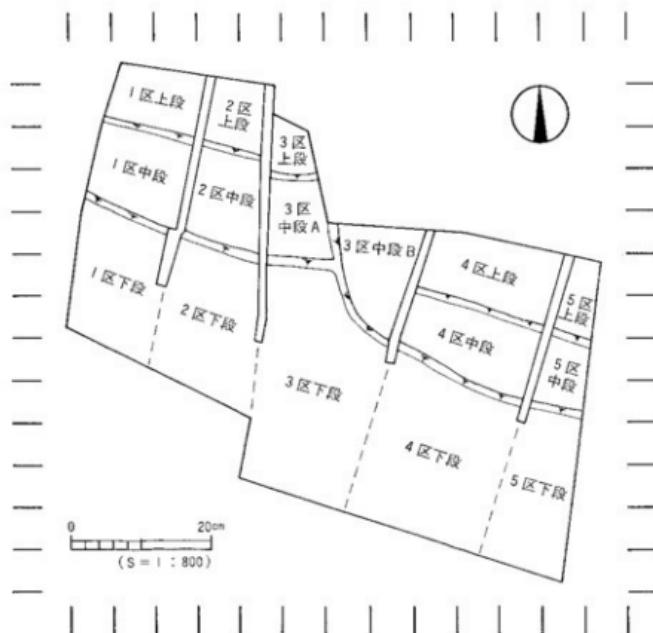
図版2 3区下段基本層位図(S=16)

たる場所である。

検出遺構のなかで、3・4区、上中段検出の構（3条）は、いずれも瓦類の出土があり、同寺院の瓦類を投棄した可能性と合わせて、同寺院存続期の遺構として可能性があり、共伴する上器と合わせ周辺地の関係遺構との検討を要するものである。

3区、最下段では、堆積土の上位層から、来住廃寺の創建時から存続期にかけての各種瓦類を出土しており、同寺院の瓦類を近接本調査地に投棄したものと推定される。同堆積土の下位層からは、前述の須恵器類と共に木簡状木製品の外、各種の木器類や植物種子類の出土があり、近隣遺跡との関係を含め、それらの性格や使用時期等を示すものとしてさらに分析、検討をするものである。

最下位層からの弥生土器類出土は、一括性があることと合わせ愛媛大学構内遺跡出土のものに対し、手法的に後出感があるものの形態的に酷似するものがあり注目される。

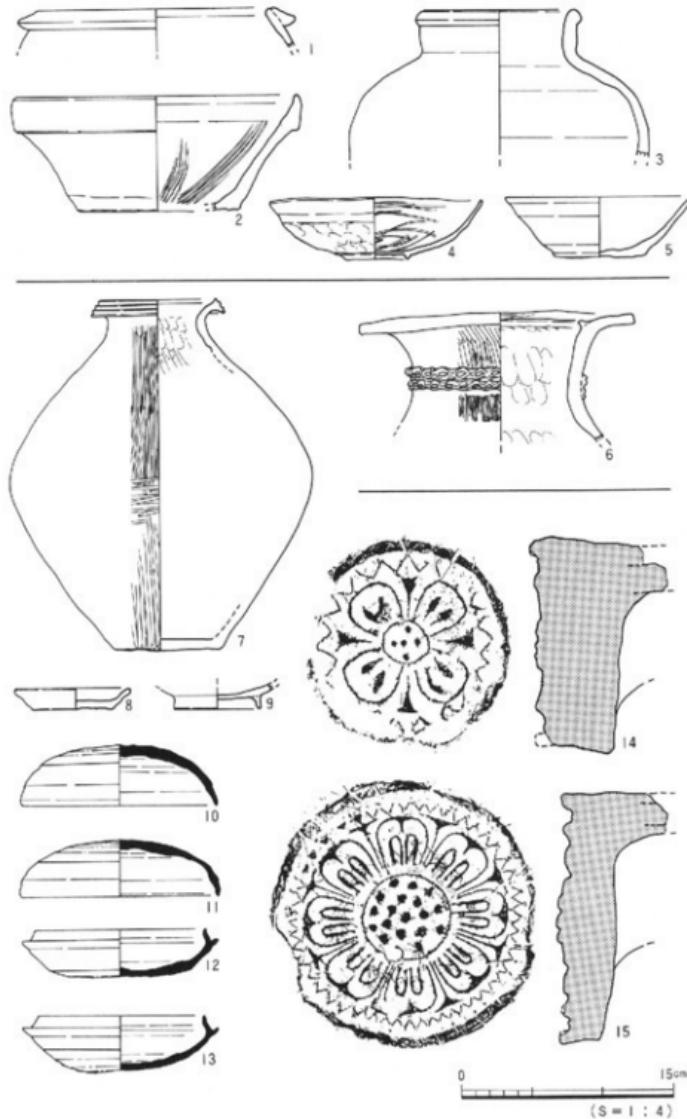


図版3 区画割付図



0 10 20 m
(S = 1 : 500)

図版4 遺構配置図



図版5 出土遺物実測図



写真1 調査区全景

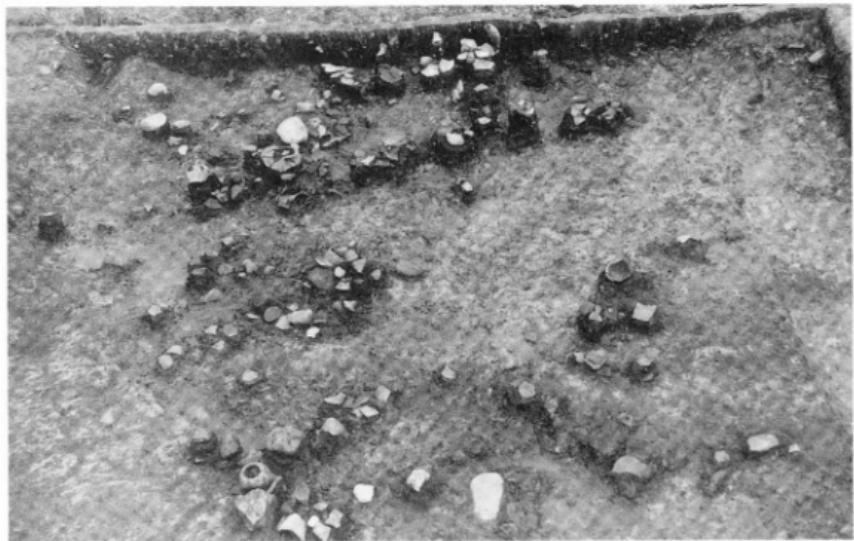


写真2 1区下段土器混り遺物出土状況



写真3 3区下段瓦出土状況



写真4 3区下段遺物出土状況

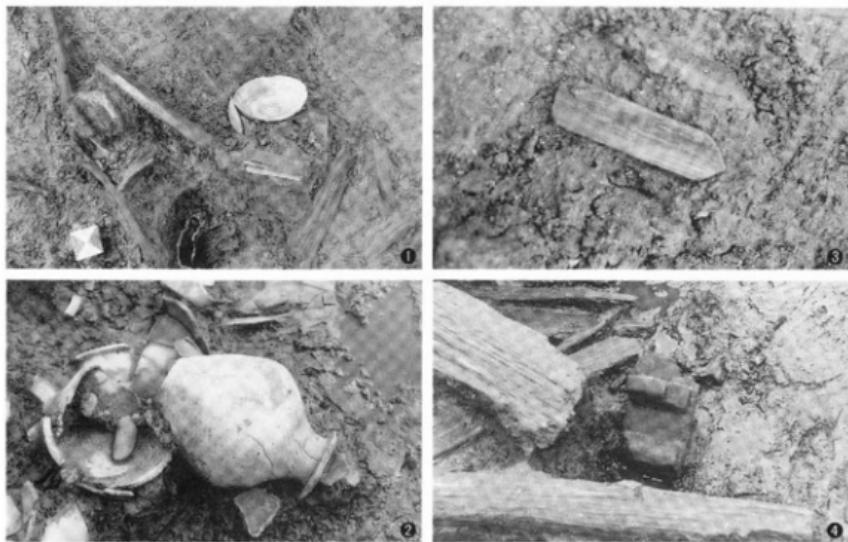


写真5 3区下段出土遺物 (①壺蓋 ②壺 ③加工木 ④下駁)

付 編

松山市埋蔵文化財関係資料

例 言

- 本編は、松山市教育委員会文化教育課松山市立埋蔵文化財センター（平成3年10月1日以降は財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター）が実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
- 本編は平成2年度（申請番号72号～97号、平成3年1月1日～同年3月31日迄）・平成3年度（申請番号1号～145号、平成3年4月1日～平成4年3月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成2年度以前の資料については、「松山市文化財調査年報1（昭和60～61年度）」・「同年報II（昭和62～63年度）」・「同年報III（平成元年～2年度）」を参照されたい。
- 資料作成（一覧表及び付録図）は、相原浩二・相良浩志・三好弘文・中條聖郎が行った。
- 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に準ずるものである。また、付録図の本格調査位置図は平成2年度を■印、3年度を●印とした。
- 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図三津浜・松山北部・郡中・松山南部を使用した。

平成2年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査的 的方 法	包含・遺構	遺 物	備 考
72	北山町507-1 他12筆	4,620		私 会			
74	下伊豆町乙163 他19筆	631,157		私			
75	津吉町乙163 他 9筆	21,027	(114.0)	私 試掘			
77	蛭之内13-1	127	23.3	私 試掘	包、柱穴	瓦、瓦芯、陶器等、瓦	
78	桑原7-1日453、454-1	348	(34.0)	私 立会			
79	石風呂町乙33-27、28	89	(29.0)	私 立会			
80	梅塚4丁目178-3	479	41.6	私 試掘	包、柱穴	瓦、土師、須恵	須味、高木3次
81	東本1丁目9-4、9-5	298	33.6	私 試掘		土師、瓦芯、陶器	
82	みどりヶ丘1426 他4筆	2,095	6.7	私 試掘			
83	谷町224-1	299	12.2	私 試掘		土師	
84	久谷町甲833他	4,447		私 立会			
85	久米鹿田町1056-1他	849	42.5	私 試掘	溝	土師、須恵器、陶	
86	立花6-1日335-1	1,293	18.7	私 試掘		須恵器、陶器	
87	別府町39	337	15.0	私 試掘	溝、柱穴	須恵器	
88	南江戸町438-1	894	12.7	私 試掘	水道跡	瓦芯、土師	
89	山西町859-4 他 4筆	1,951	4.0	私 試掘		土師	
90	施原1-1日222-2	387	22.5	私 立会			
91	内宮町709-10	311	13.4	私 立会			
92	太山寺町甲475-3	278	4.2	私 立会			
93	久米鹿田町784-1 他	2,485	45.4	私 立会	自然段路	土師	
94	水泥町1270-1	524	57.2	私 試掘		土師	
95	應子町203-1	143	56.5	私 試掘			
96	今在家町216-2	115	30.9	私 立会			
97	鈴味4-1日239	774	39.7	私 試掘	瓦、瓦芯、須恵器		

[注] ①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、()調査区内平均値。

③調査目的：公-施設・公共団体、私-施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

平成3年度確認調査一覧

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	測定方法	包含・透構	遺物	備考
1	朝生田町295-6 他	658	(20.0)	私 立会				
2	福音寺540-1	375	(24.0)	私 立会				
3	衣山2丁目320、321	642	17.5	私 試掘				
4	梅林4丁目234、237	1,126	39.0	私 試掘	包含層、黒土、瓦 瓦、土師、他	搏味高木丘B区		
5	船原1丁目1681-2	195		私 立会				
6	山越3丁目752-1 他100筆	41,000	(40.0)	公 試掘			山越影浦遺跡	
7	星岡町684-1 他1筆	443	21.4	私 試掘	包含層、柱穴 上師、青磁	星岡登立2次		
8	祝谷東町乙723-1 他20筆	27,179	(189.2)	私 試掘				
9	祝谷2丁目309-1	232	(39.0)	私 立会				
10	鳴原1丁目1-1 他3筆	4,183	43.4	私 試掘		須恵		
11	桑原1丁目800-27、28	373	36.4	私 立会				
12	米住町523-5	661	40.0	私 試掘				
13	吉野5丁目980-5	958	35.9	私 試掘				
14	朝生田町426-1 他	272	18.4	私 試掘				
15	福音寺町726	803	(23.2)	私 立会				
16	平井町甲1182-2	374	76.6	私 試掘		須恵、土師		
17	米住町866-1、858-5			公 立会				
18	北久米町671-1 他8筆	6,000	33.0	私 試掘	包含層、溝、柱穴 須恵器(追)	本格A		
19	北久米町682-2 他3筆	1,495	(31.7)	私 試掘				
20	平井町甲2018-3	499	65.8	私 試掘				
21	久米瀬山町856-1	902	45.5	私 試掘	包含層、柱穴 須恵、土師	本格A		
22	桑原4丁目10-4	155	(33.5)	私 試掘				
23	福音寺町737-1 他1筆	1,585	(23.2)	私 試掘				
24	道後疊又5-36、3-3	265	(28.3)	公 立会				
25	松木町宇和川125-7	169	25.0	私 試掘				
26	祝谷5丁目833-1	165	47.9	私 試掘				
27	南久米町796-1	310	37.4	私 試掘				
28	博味4丁目216	385	40.0	私 試掘	包含層、柱穴、溝 須生、上師、須恵	本格A		
29	道後北代3-23	376	30.9	私 試掘			No.49A	
30	南久米町733-1	142	40.0	私 試掘	包含層、柱穴 須生、上師、須恵	来住寺発16次		
31	道後北代3-23	113	30.9	私 試掘			No.49A	
32	来住町796-3 他	3,396		私 立会			平成2年No.33	
33	中村2丁目123-7 他	331	26.5	私 試掘	包含層 須生	本格A		
34	久米瀬山町1143-1	386	42.5	私 試掘	溝 上師			
35						包含地外		
36	北齋院町250-3	981	7.2	私 試掘				
37	北久米町477-1 他	853	33.0	私 試掘	柱穴		北久米町尾敷遺跡	
38	南江原4丁目956-3 他	716	13.5	私 試掘	匂川跡、柱穴 瓦、土師	本格A		
39	道後疊台1325-3	323	35.7	私 試掘				
40	博味4丁目		(39.7)	公 立会			配水管付設	
41	祝谷東町甲603-1 他21筆	18,458		私 路査			造皮地	
42	中村2丁目282-5	219	26.9	私 試掘				
43	衣山3丁目393-2 他4筆	320	(24.2)	私 立会				
44	南梅木町乙182-2	15,376	92.0	私 試掘			上茅佐池	
45	桑原4丁目15-1	212	(35.6)	私 立会				
46	朝美2丁目1156-18	406	(25.0)	私 立会				
47	西石井町48-6	216	22.0	私 試掘		須生、上師		
48	祝谷5丁目699-3	105	34.5	私 試掘				

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	測量測	測量法	包含・邊構	遺 物	備 考
49	道後北代1272-1 他	640	35.5	私	試掘	柱穴	土師、発生、他	道後今市9次
50	平井町甲1540-3	168	(67.3)	私	立会			
51	立花6丁目306-5	986	21.5	私	試掘		発生	
52	平井町甲2169-3	331	60.0	私	試掘			申請取り下げ
53	朝美2丁目1178	1,249	(26.0)	私	試掘			
54	鈴幸1丁目844	100	112.4	私	試掘			
55	平井町甲1459-1	336	67.6	私	試掘			申請取り下げ
56	今在家町444-1 他9筆	2,209	29.4	私	試掘			
57	辻町27-1、28-1	472	13.3	私	立会			
58	道後北代10-33	100	31.4	私	試掘			
59	来往町877	195	30.8	私	試掘	包、福運鉢	発生、土師、瓦	久米高塚21次
60	山越3丁目752-8	142	19.2	私	試掘		発生	
61	久万ノ台1016-1	180	20.5	私	試掘			
62	久米塙田町489-1	637	44.7	私	試掘			
63	廣子町49	881	40.8	私	試掘			
64	福音寺町716 他	628		私	立会			
65	桑原4丁目398-1 他3筆	961	(38.9)	私	試掘			
66	地原1丁目5-7 他5筆		(27.4)	公	立会			
67	南江戸3丁目813-3	198	13.8	私	試掘			
68	南久米町419-10 他1筆	1,000	34.7	私	試掘	福立村連、土師	須恵	南久米町遺跡
69	南江戸3丁目813-4	198	13.8	私	試掘			
70	利生田町303-1	927	20.0	私	試掘			
71	南久米町364-1	659	31.4	私	試掘			本格へ
72	東石井町乙39-1 他	200	46.5	公	試掘			
73	廣子町200-1	264	48.5	私	試掘		埴輪	本格へ
74	来往町797-1、3	315	37.8	私	試掘			来往庵寺18次
75	来往町1135 他		(36.6)	公	立会			
76	東野5丁目837	1,255	(52.0)	私	試掘			
77	早岡町617 他3筆	2,479	(29.0)	私	試掘		発生、土師、須恵	本格へ
78	雨江戸5丁目552	996	(13.6)	私	試掘			
79	廣子町628-1	1,800	(48.1)	私	試掘	住居址、柱穴	土師、須恵	本格へ
80	西石井町32-3	463	(21.7)	私	試掘			
81	桑原6丁目520 他2筆	791	(33.7)	私	試掘	溝、柱穴	発生、土師器	本格へ
82	南久米町633-3	326	39.9	私	試掘			
83	道後北代1288-7 他	350	(31.5)	私	試掘			
84	小坂3丁目236-1 他	512	26.8	私	試掘			
85	南江戸3丁目904	1,305	12.2	私	試掘			
86	北幽院町219-1	996	8.0	私	試掘	包含層、柱穴	陶磁器	本格へ
87	北久米町911-7	347	30.8	私	試掘			
88	幽原町246-1、1046-2	473	24.4	私	試掘			
89	平井町甲2470-1	699	66.2	私	試掘			
90	山越1丁目306-9	99	18.3	私	試掘		発生	
91	廣子町185-2	555	46.8	私	試掘			
92	南久米町108-3 他3筆	999	36.2	私	試掘			
93	来往町530-2 他2筆	131	39.0	私	試掘		須恵	
94	古三津3丁目871-3	463	6.0	私	試掘			
95	桑原4丁目403-6	92	35.2	私	試掘			
96	南上勝町184-1	1,151	39.0	私	試掘			

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・造構	造 構	備 考
97	獺子町74-1、71-13	393	43.8	私	試掘			
98								包囲地外
99	小坂3丁目448-1	187	26.2	私	試掘			
100	道後北代173-1	702	33.0	私	試掘			
101	鷹ノ子町			公	立会			水路工事
102	北梅本町3271-3	232	76.0	私	試掘			
103	船ヶ谷町乙135 他4筆	3,730	(26.0)	私	試掘			
104	今在家町599-5	163	36.9	私	試掘			
105	今在家町29	231	31.6	私	試掘			
106	朝美町1丁目1406 他4筆	809	23.0	私	試掘			
107	平井町甲1363-1、-2	750	70.3	私	試掘			
108	朝生町296-1	757	26.8	私	試掘			
109	東野5丁目乙223-58	297	56.4	私	試掘			
110	南江戸4丁目1-1	7,200	13.0	公				H2.59へ追加
111	平井町甲1220-1	784	71.3	私	試掘			
112	来住町235-1	1,574	41.0	私				申請取り下げ
113	古ニ津4丁目621 他10筆	1,910	10.2	私	試掘			
114	桑原5丁目9-18	203	32.0	私	試掘			
115	桑原7丁目456-1	986	31.2	私	試掘			
116	平井町甲980-2	492	82.0	私	試掘			
117	今在家町48-1	705	31.0	私	試掘			
118	東野4丁目569-7	200	55.4	私	試掘			
119	南久米町582-1	2,003	35.0	私	試掘			
120	来住町524-1	987	40.4	私	試掘	包含層	発着層、土師器	来住町通路4次
121	南梅本町甲117 他19筆	13,735	81.4	私	試掘	古墳		一部本格へ
122	道後町2丁目989-1	1,181	34.8	私	試掘			
123	谷町甲260-15	177	16.2	私	試掘			
124	久米庄内町	21,723	46.0	公	試掘			
125	清瀬町2丁目20-1	146	23.8	私	試掘			
126	福音寺町714	100	22.9	私	試掘			
127	南久米町665-21	490	41.0	私	試掘			
128	久米庄内町1121-5 他	406	43.2	私	試掘	柱穴		申請取り下げ
129	南江戸2丁目673-1 他	904	13.2	私	試掘			
130	小坂2丁目219-1	326	28.0	私	試掘			
131	道後北代32番10	447	31.0	私	試掘			
132	御幸町1丁目乙843他	91	112.4	私	試掘			
133	福音寺町312番1	1,147	31.0	私	試掘			
134	山越2丁目41番2	190	16.8	私	試掘			
135	来住町844	623	34.0	私			(63年廃止済支)	来住庵寺19次
136	来住町845	389	38.5	私			()	本格へ(周辺補助)
137	朝生山町259-1	848	19.4	私	試掘			
138	別府町38-1	795	20.6	私	試掘			
139								No143へ
140	道後北代10-37	946	35.3	私	試掘			
141	久万ノ台乙158-1 他	8,993	36.0	私	試掘			
142	平井町1417番地7	115	68.8	私	試掘			
143	祝谷6丁目1263番地	876	59.8	私	試掘			
144	南梅本町乙60-5 他7筆	1,379	98.8	私	試掘			
145	平井町甲724-3	383	76.0	私	試掘			

平成2・3年度本格調査一覧

No	遺跡名	所在地	調査目的	時代
198	古照遺跡 6次調査地	南江戸4丁目1-1	緊急	古墳～近世
200	古照ゴウラ遺跡 4次調査地	南江戸4丁目813-1	"	縄文～近世
206	祝谷アイリ遺跡	祝谷6丁目1277番地	"	弥生中～古墳後
207	宮前川三本柳遺跡	山西町833番地 他14筆	"	弥生後～中世・近世
208	東山古墳群4次調査地	東石井町乙39-2	"	古墳中期～古墳後
209	道後隨又遺跡 2次調査地	道後隨又1219-8	"	縄文後～輪胡～古墳
210	朝美深遺跡 2次調査地	朝美2丁目1144-1 他7筆	"	弥生前・古代～中世
211	平井谷1号墳	平井町198乙201	"	古墳
212	かいなご3号墳	平井町乙50、乙39-2	"	古墳
213	辻町遺跡	辻町39-1	"	弥生～中世
214	小坂八斗蔵遺跡	小坂5丁目312-3	"	弥生、古墳、奈良、中世
215	樽味高木遺跡 2次調査地	樽味4丁目239 他3筆	"	弥生～中世、近世
216	西天山遺跡 2次調査地	小坂5丁目341-4 他3筆	"	弥生～古墳
217	来住庵寺15次調査地	来住町798-1 他7筆	"	弥生～中世
218	来住庵寺16次調査地	南久米町733-1	緊急回補	弥生後期
219	久米高畠21次調査地	来住町877	緊急	弥生～古墳、奈良
220	来住庵寺17次調査地	来住町574外	学術	弥生～古墳、奈良
221	星岡登立遺跡 2次調査地	星岡町684-2 他4筆	緊急回補	旧石器、古代末～中世
222	古照遺跡 7次調査地	南江戸4丁目1-1	緊急	平安、中世、近世
223	来住庵寺18次調査地	来住町797-1・3	"	弥生～古墳
224	東山古墳群5次調査地	東石井町乙39-1	"	古墳
225	野津子山遺跡	みどりヶ丘249番地	"	古墳～近世
226	北久米町尾敷遺跡	北久米町477-1、-5	"	古墳後期～中近世
227	樽味高木遺跡 3次調査地	樽味4丁目178-3	"	弥生～古墳

主な遺構、遺物等	対象面積(m ²)	屋外調査期間	年 度	No.
水田址、土塙、河川、縄文、弥生、須恵、陶器	13,000	H2. 4.18~H3.3.30	平成2年度	198
柱穴、土塙、水田遺構、石製品、木製品	3,246	H2. 5.25~同 8.18	"	200
竪穴式住居、須恵	3,742	H2.11.13~H3.3.29	"	206
井戸、弥生、須恵	12,217	H2.12.1~H3.3.31	"	207
古墳、須恵、土師	1,600	H2.12.23~H3.3.31	"	208
土塙、溝、柱穴、自然流路、縄文、須恵、土師	602	H3. 1.16~同 2.28	"	209
掘立柱建物址、土塙、溝、柱穴、弥生、土師、須恵	1,299	H3. 3.18~同 4.30	"	210
石室、鉄鏃、耳環、須恵	256	H3. 4.13~同 11. 7	平成3年度	211
土師(魔晄器)、須恵	256	H3. 4.27~同 7. 8	"	212
柱穴、溝、土塙、弥生、土師、須恵、白玉	655	H3. 4.16~同 6.15	"	213
竪穴道構、溝、流路、弥生、須恵、瓦器、石鏡、他	1,064	H3. 5.20~同 7.31	"	214
竪穴式住居、柱穴、土塙、溝、弥生、土師	1,900	H3. 6. 1~同 7.20	"	215
竪穴遺構、同溝状遺構、溝、自然流路、石窓、他	1,612	H3. 6.15~同 9. 7	"	216
土塙墓、柱穴、弥生、瓦、木、須恵	3,174	H3. 8. 1~同 12.26	"	217
竪穴住居、掘立柱建物、石鏡	142	H3. 8. 1~同 10. 9	"	218
掘立柱建物址、土塙	196	H3. 9. 7~同 9.30	"	219
竪穴式住居、掘立柱建物、柱穴、土塙、溝	500	H3.10. 2~H4.3.31	"	220
柱穴、ナイフ形石器、土師器、青磁	443	H3.10.14~H4.1.14	"	221
土塙、土塙墓、呻吟、溝、土師、瓦器、輸入磁器	2,850	H3.10.21~H4.3.31	"	222
溝、弥生、須恵、瓦、土師、桃種、獸骨	315	H4. 1. 6~H4.3.31	"	223
石室、周溝、勾手、管手、須恵、土師器	700	H4. 2. 6~H4.3.31	"	224
土塙、須恵、土師、陶磁器	18,223	H4. 2. 6~H4.4.30	"	225
柱穴、瓦器、土師	853	H4. 3.10~H4.5.30	"	226
竪穴住居、掘立柱建物、弥生、松脂土器、須恵	479	H4. 3.10~H4.5.22	"	227

*No.218~227については、「年報Ⅳ」に掲載予定。

付図1 平成2年・3年度本格調査位置図



啓蒙普及事業

平成元年度～3年度

平成元年度～3年度の啓蒙普及事業

当センター附属の考古館では、毎年一般を対象とした啓蒙普及活動を行っている。それは、埋蔵文化財センターの発掘調査と一体であり、その内容としては、展示、教育普及、広報・出版活動がある。

1. 展示活動

展示活動は、常設展・特別展・企画展・収蔵品展・発掘速報展などからなり、常設展以外は、目的に応じて随時開催している。常設展は、海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿を解明することを基本コンセプトとしている。また「見る」「聞く」といった静的な展示だけではなく、「触れる」「考える」という動的で、かつ立体的な展示を心がけている。展示室には、松山平野で出土した考古資料約8,200点を系統的に展示している。

特別展・企画展は、ひとつのテーマのもとに県内外から資料を借用し、系統的に展示を行う。企画展は、基本的に県内の資料で構成される。収蔵品展は、これまでに発掘調査によって出土し、館内に収蔵している資料を紹介する。発掘速報展は、相次いで発見される重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また年度ごとに主要な遺跡・遺物を写真やイラストを交えながら紹介する。このような展示会を開催することによって、常設展示を補完したり、また最新の調査成果の導入により、新たな問題を提起することができるであろう。

－平成元年度－

テ　一　マ	会　期	会　場	入館者数
開館記念特別展 「平成鋼劍への発達」	平成元年10月31日(火) ～11月30日(木)	特別展示室	4,379人

－平成2年度－

テ　一　マ	会　期	会　場	入館者数
発掘速報展 「福音寺遺跡にみる集落」	平成2年6月17日(水) ～7月29日(金)	特別展示室	1,763人
夏休み体験学習セミナー作品展 「みんなでつくった分銅形土製品」	平成2年8月1日(水) ～31日(金)	特別展示室	1,271人
開館1周年記念収蔵品展 「飾られた須恵器」	平成2年9月23日(日) ～11月25日(日)	特別展示室	4,547人
第1回企画展 「古代の道後城北～松山大学構内遺跡の調査より～」	平成3年2月24日(日) ～3月24日(日)	特別展示室	3,281人

－平成3年度－

テ　一　マ	会　期	会　場	入館者数
特別展「分銅形土製品の謎 ～西日本における弥生人の顔と精神文化～」	平成4年2月22日(土) ～3月22日(日)	特別展示室	3,694人

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、一般対象のものと、研究者を対象としたものがある。前者には、講演会や発掘調査終了時における現場説明会などがある。考古学は、往々にして研究者のみの学問と考えられがちであるが、広く一般市民に資料や情報を公開することにより、埋蔵文化財保護の思想をより深めてもらうことに目的がある。

また夏休み中に、小学生を対象とした体験学習セミナーを開催し、好評を得ている。また、小学生を対象とした体験学習セミナーを開催することにより、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

後者の研究者を対象とした場合は、愛媛大学・財愛媛県埋蔵文化財調査センター・当センター職員有志が所属する「あいきょう俱楽部」の研究発表の場として利用したり、発掘調査方法や報告書作成のために研究者を招へいし、助言を頑いでいる。

(1) 講演会・シンポジウム

－平成2年度－

テ　ー　マ	日　時	会　場	講　師	聴講者数
古代学協会第4回大会 「瀬戸内の弥生後期 上器の編年と地域性」	平成2年9月29日(土) ・30日(日)	講　堂	(記念講演)韓国考古学会 李　南桂 徳島県埋蔵文化財センター 青原　康夫 高知県教育委員会　出席　恵三 香川県埋蔵文化財センター 大久保徹也 広島県埋蔵文化財センター 妹尾　周三 山口県埋蔵文化財センター 乗安和二三 松山市埋蔵文化財センター 梅木　謙一 北九州市考古博物館　武木　純 大分県教育委員会　吉田　寛	200人
第1回企画展記念講演会 「松山大学構内遺跡の成果と課題」	平成3年2月23日(土)	講　堂	当センター調査員 梅木　謙一	30人
第1回講演会 「熱田津と米住古地 ～7世紀の西瀬戸内海地域～」	平成3年3月17日(日)	講　堂	愛媛大学教養部教授 松原　弘宣 当センター調査係長 西尾　幸則	140人

－平成3年度－

テ　ー　マ	日　時	会　場	講　師	聴講者数
第2回講演会 「弥生時代の祭祀と分銅形土製品」	平成4年3月1日(日)	講　堂	奈良県立橿原考古学研究所 主任研究員　東　潤	141人

(2) 調査・研究会

－平成3年度－

テ　一　マ	日　時	会　場	講　師	聴講者数
あいきょう俱楽部第53回 「駄馬姥ヶ懐1号窯出土 須恵器の型式的研究」	平成3年4月20日(土)	講　堂	当センター　岡根なおみ	15人
あいきょう俱楽部第54回 「久米官衙遺跡群」	平成3年6月1日(日)	講　堂	当センター調査係長 西尾　季則	15人
あいきょう俱楽部第55回 「7世紀代出土 須恵器の比較検討」	平成3年10月26日(土) ・27日(日)	講　堂	香川県埋蔵文化財センター 渡部　明夫 大分県教育委員会　高橋　徳 大分県教育委員会　小林　照彦 愛媛大学法文学部教授　下條　信行	15人
「弥生中期土器の検討」	平成3年10月30日(水) ～11月1日(木)	会議室	宮崎県埋蔵文化財センター 石川　親雄 大分県教育委員会　吉田　寛 大分市教育委員会　坪根　伸也 愛媛大学法文学部教授　下條　信行 都城町教育委員会　宮崎　泰好	15人
「愛媛県出土の陶質土器」	平成4年2月19日(水)	講　堂	京都文化博物館 学芸員 定森　秀大	30人
「絵画と記号」	平成4年3月18日(水)	講　堂	奈良県立橿原考古学研究所 主任研究員 橋本　裕行	30人

(3) 夏休み体験学習セミナー

－平成2年度－

テ　一　マ	日　時	会　場	講　師	聴講者数
夏休み体験学習セミナー 「弥生人の顔を創る」	平成2年7月15日(金) ・29日(金)	講　堂	当館職員	28人

(4) 現場説明会

－平成2年度－

現　場　名	会　場	日　時	
来住庵寺跡	現　地	平成2年6月23日(土)	来住庵寺の西側に位置する、回廊状造構内の正殿的建物跡や掘立柱建物など
来住庵寺跡	現　地	平成3年3月2日(土)	来住庵寺の西限と推定される溝・掘立柱建物のほか平成2年度の調査成果の報告
祝谷アイリ遺跡	現　地	平成3年3月23日(土)	丘陵地での弥生期の堅穴式住居・古墳期の堅穴式住居・掘立柱建物など

3. 広報・出版活動

広報・出版活動としては、当館主催の展示会・講演会などを開催する際に、外くの観覧者を募るために出版物を発刊したり、発掘調査を行った遺跡の記録保存の報告として、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用することで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものである。

(1) 展示会関係

－平成元年度－

図書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市考古館パンフ	平成元年10月	一般	B5二つ折り	100,000
開館記念ポスター	平成元年10月	一般	A2	500
開館記念特別展リーフ	平成元年10月	一般	B5	10,000
常設展示案内 「松山の原始・古代」	平成2年3月	一般	B5・52頁	5,000

－平成2年度－

図書名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘速報展パンフ	平成2年6月	観覧者	B4二つ折り・4頁	2,000
夏休み体験学習 セミナー資料	平成2年7月	参加者	B5・10頁	35
開館1周年記念 収蔵品展ポスター	平成2年9月	一般	A2	500
開館1周年記念 収蔵品展リーフ	平成2年9月	一般	B5	3,000
開館1周年記念 収蔵品展図録	平成3年3月	一般	B5・37頁	1,000
第1回企画展ポスター	平成3年2月	一般	B2	500
第1回企画展リーフ	平成3年2月	一般	A4	1,000
第1回企画展パンフ	平成3年2月	観覧者	B4二つ折り・4頁	3,000
企画展記念講演会資料	平成3年2月	聴講者	B4・18頁	40
第1回講演会資料	平成3年3月	聴講者	B4・14頁	150
第1回講演会リーフ	平成3年3月	一般	B5	1,000

—平成 3 年度—

図書名	発行日	対象	版型・頁	部数
特別展閉録	平成 4 年 2 月	一般	B5・42頁	500
特別展ポスター	平成 4 年 2 月	一般	B2	500
特別展リーフ	平成 4 年 2 月	一般	B5	5,000
特別展パンフ	平成 4 年 2 月	観覧者	B4二つ折り・8頁	3,000
特別展記念講演会資料	平成 4 年 3 月	聴講者	B4・3頁	150

(2) 発掘調査報告書

—平成 2 年度—

図書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市文化財調査報告書20 松山大学構内遺跡	平成 3 年 3 月	一般	B5・183頁	1,000
松山市文化財調査報告書21 北谷王神ノ木古墳・塚本古墳	平成 3 年 3 月	一般	B5・100頁	1,000
松山市文化財調査報告書22 南江戸廻目遺跡	平成 3 年 3 月	一般	B5・74頁	1,000
松山市文化財調査報告書23 来住庵寺—平成 2 年度調査概報—	平成 3 年 3 月	一般	B5・60頁	700
松山市文化財調査報告書24 祝谷六丁場遺跡	平成 3 年 3 月	一般	(本文編) B5・199頁 (写真編) B5・107頁	1,000
松山市埋蔵文化財調査 年報Ⅳ(平成元～2 年度)	平成 3 年 3 月	一般	B5・178頁	1,000

平成 3 年度—

図書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市文化財調査報告書25 祝谷アイリ遺跡	平成 4 年 3 月	一般	B5・215頁	1,000
松山市文化財調査報告書26 桑原地区の遺跡	平成 4 年 3 月	一般	(本文編) B5・244頁 (写真編) B5・107頁	1,000
松山市文化財調査報告書27 来住・久米地区的遺跡	平成 4 年 3 月	一般	B5・126頁	1,000

松山市考古館 月別入館者数調

平成元年度（平成元年10月31日～2年3月31日）

月	開 閉 日	総 数	一 般 人	学 生 生 徒	團 体 総 数	団 体 生 徒	老 人	無 料 者	合 計	入 館 者 数 率
10		1	0	0	0	0	0	474	474	474
11	24	1,583	641	279	223	218	951	3,905	163	
12	24	644	202	402	18	10	56	1,332	56	
1	23	437	188	115	0	51	3	794	35	
2	24	230	67	100	0	76	286	759	32	
3	26	361	110	426	190	118	1,801	3,006	116	
計		122	3,265	1,208	1,322	431	473	3,571	10,270	84

平成2年度（平成2年4月1日～3年3月31日）

月	開 閉 日	総 数	一 般 人	学 生 生 徒	團 体 総 数	団 体 生 徒	老 人	無 料 者	合 計	入 館 者 数 率
4	26	412	232	101	85	172	1,726	2,728	105	
5	26	496	254	486	77	185	975	2,473	95	
6	26	481	170	438	286	221	0	1,596	61	
7	26	277	115	556	0	167	136	1,251	48	
8	27	408	320	207	33	280	23	1,271	47	
9	26	291	154	485	3	231	9	1,173	45	
10	24	300	81	524	48	313	1,258	2,524	105	
11	25	357	143	524	317	167	337	1,845	74	
12	24	111	73	47	0	2	3	236	10	
1	23	153	66	0	0	4	315	538	23	
2	24	223	83	36	21	1	175	539	22	
3	26	348	142	109	93	30	2,596	3,318	128	
計		303	3,857	1,833	3,513	963	1,773	7,553	19,492	64

平成3年度（平成3年4月2日～4年3月31日）

月	開 閉 日	総 数	一 般 人	学 生 生 徒	團 体 総 数	団 体 生 徒	老 人	無 料 者	合 計	入 館 者 数 率
4	25	175	140	62	134	209	1,067	1,787	71	
5	27	277	176	84	32	36	909	1,514	56	
6	26	113	69	172	353	36	61	804	31	
7	26	135	118	232	0	0	1	486	19	
8	27	262	236	188	32	39	32	789	29	
9	25	126	92	120	0	1	0	339	14	
10	26	142	111	358	76	135	1,068	1,890	73	
11	26	154	104	241	222	100	1,098	1,919	74	
12	24	104	30	118	36	0	25	313	13	
1	23	123	61	30	0	71	3	288	13	
2	24	183	79	0	0	0	305	567	24	
3	25	257	111	228	306	30	2,540	3,472	139	
計		304	2,051	1,327	1,833	1,191	657	7,109	14,168	47



平成3年度特別展「分銅形土製品の謎」



第2回講演会「弥生時代の祭祀と分銅形土製品」

松山市埋蔵文化財調査年報Ⅳ

平成4年8月31日発行

編集 財団法人 松山市生涯学習振興財團

発行 埋蔵文化財センター

〒791 松山市南斎院町乙67番地6

TEL (0899) 23-6363

印刷 明星印刷工業株式会社

〒790 松山市上居田町500番地

TEL (0899) 71-7111

